

1 アンケート調査結果のまとめ

1. アンケート調査の概要

(1) 調査目的

道路等の移動や施設の利用に支障が生じると考えられる住民を対象として、町内の施設や、道路、公共交通についての利用状況や問題点等を把握するため、アンケート調査を行った。

(2) 調査方法

対象者	抽出方法	配布・回収方法
高齢者	住民基本台帳から、地区の人口比率に合わせ、65歳以上の住民470人を無作為抽出	郵送による配布と回収
身体障害者	リストより無作為抽出	郵送による配布と回収
知的障害者	対象者全員に配布	郵送による配布と回収
精神障害者	対象者全員に配布	郵送による配布と回収
妊産婦子育て	町事業実施会場配布	手渡しによる直接配布と、配布場所の直接回収と郵送回収

(3) 配布回収日

配布日：<高齢者、障害者>平成19年10月15日 回収期日：平成19年10月23日
 <妊産婦子育て親>平成19年10月11、15日 回収期日：平成19年10月23日

(4) 回収結果

	対象者数	配布票	配布率(%)	回収票	回収率(%)
高齢者	3378	470	13.9	315	66.5
身体障害者	643	264	41.1	148	56.5
知的障害者	73	73	100.0	31	42.5
精神障害者	46	43	93.5	16	37.2
妊産婦子育て	-	86	-	52	60.5
合計	-	936	-	562	52.6

(4) アンケート設問の概略

回答者自身について	バリアフリーへの関心の有無	鉄道駅について	最もよく利用する鉄道駅
	年齢及び性別		駅への交通手段
	お住まいの地区		駅利用の際の問題点
	障害の状況(部位、手帳の種別)	道路について	よく歩く道路
	利用する歩行補助具の種類		よく歩く道路での問題点
	運転免許証の有無	バスについて	バスの利用状況
	外出時の付き添いの有無と理由		バスの利用目的
通勤の有無と理由		バス利用の際に困ること	
生活関連施設について	よく利用する生活関連施設		
	生活関連施設への交通手段		
	利用しにくい施設の問題点		

2. アンケート結果の概要

(1) 回答者自身について

設 問	結果の概要
バリアフリーへの関心	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答者の対象を問わず、非常に関心が高い。 ・子育て親が最も関心が高い(93.2%)
回答者の住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、身体障害者、妊産婦では回答者の住まいの比率は概ね地区別人口比率と同様 ・知的障害者、精神障害者は全数調査のため、回答者の地区ごとの比率には偏りがある。
障害の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者の所持する障害手帳の等級割合は、1級から4級で83.8% ・障害の部位では、下肢の障害が最も高い。(53.8%) ・内部機能障害が2番目に高い。(27.3%)
歩行補助具等	<ul style="list-style-type: none"> ・杖の利用率が最も高い(高齢者67.9%、身体障害者68.8%) ・身体障害者では車いすの利用率も高い(32.3%) ・妊産婦、子育て親では、「ベビーカーを常に利用」と、「利用することが多い」で約65%。
運転免許	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、身体障害者では所持率が約40% ・知的障害者では運転免許の所持者はいない。 ・妊産婦子育て親では所持率が95%以上
付き添いの有無	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者での付き添いを必要とする率が最も高い(61.3%) ・高齢者が最も低い(11.1%)
付添いの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、身体障害者では「歩行が困難」、「電車の乗降が困難」等の身体的な理由に対する回答率が高い。 ・知的障害者、精神障害者では「目的地までの道順がわからない」、「行き先を人に尋ねるのが困難」の情報面での回答率が高い
通勤、通学、通所の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、身体障害者では通勤者は15%以下 ・知的障害者では通学、通所をしている人が74.2% ・精神障害者では56.3%

(2) 生活関連施設について

よく利用する施設への交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、知的障害者、精神障害者、妊産婦子育て親では、自家用車による利用比率よりも徒歩による利用率が高い。 ・公共交通による利用率は低く、高齢者の22.5%が最も高い。 																																																								
よく利用する生活関連施設	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段、回答対象者を問わず、近隣の生活施設の利用率が高い。 <p>[徒歩による施設利用の順位]</p> <table border="1" data-bbox="459 465 1404 835"> <thead> <tr> <th></th> <th>高齢者 (N=201)</th> <th>身体障害 (N=65)</th> <th>知的障害 (N=21)</th> <th>精神障害 (N=11)</th> <th>妊産婦 (N=37)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>郵便局 55.7%</td> <td>郵便局 60.0%</td> <td>スーパー 66.7%</td> <td>コンビニ 72.7%</td> <td>スーパー 67.6%</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>近所の医院 55.2%</td> <td>スーパー 47.7%</td> <td>近所の医院 42.9%</td> <td>山崎駅 45.5%</td> <td>コンビニ 54.1%</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>スーパー 50.2%</td> <td>近所の医院 41.5%</td> <td>駅、郵便局 33.3%</td> <td>郵便局 45.5%</td> <td>郵便局 51.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>順位は同率の場合は一方を一位繰り下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩による利用では、近隣生活施設の利用率が高い。 ・町民全体が利用する可能性のある広域的施設としては、役場、駅、中央公民館の利用率が高い。 <p>[地区別による施設利用の順位](高齢者)</p> <table border="1" data-bbox="459 1104 1404 1429"> <thead> <tr> <th></th> <th>大山崎 (N=91)</th> <th>円明寺 (N=154)</th> <th>下植野 (N=24)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>阪急大山崎 72.5%</td> <td>近所の医院 50.6%</td> <td>近所の医院 50.0%</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>J R 山崎駅 62.6%</td> <td>郵便局 48.7%</td> <td>コンビニ 41.7%</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>郵便局 48.4%</td> <td>スーパー 46.8%</td> <td>郵便局 29.2%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・大山崎地区では、阪急大山崎駅、J R 山崎駅の利用率が高い。 <p>[地区別による町施設利用の順位](高齢者)</p> <table border="1" data-bbox="459 1563 1404 1888"> <thead> <tr> <th></th> <th>大山崎 (N=91)</th> <th>円明寺 (N=154)</th> <th>下植野 (N=24)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>役場 42.9%</td> <td>役場 28.6%</td> <td>役場 12.5%</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>中央公民館 28.6%</td> <td>地区集会所 26.0%</td> <td>- -</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>ふるさとセンター 22.0%</td> <td>中央公民館 16.2%</td> <td>- -</td> </tr> </tbody> </table> <p>- は回答者少数のため非掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの地区においても役場の利用率が最も高い。 ・円明寺地区では、中央公民館の利用率(16.2%)よりも、地区の集会所の利用率(26.0%)が高い。 		高齢者 (N=201)	身体障害 (N=65)	知的障害 (N=21)	精神障害 (N=11)	妊産婦 (N=37)	1位	郵便局 55.7%	郵便局 60.0%	スーパー 66.7%	コンビニ 72.7%	スーパー 67.6%	2位	近所の医院 55.2%	スーパー 47.7%	近所の医院 42.9%	山崎駅 45.5%	コンビニ 54.1%	3位	スーパー 50.2%	近所の医院 41.5%	駅、郵便局 33.3%	郵便局 45.5%	郵便局 51.4%		大山崎 (N=91)	円明寺 (N=154)	下植野 (N=24)	1位	阪急大山崎 72.5%	近所の医院 50.6%	近所の医院 50.0%	2位	J R 山崎駅 62.6%	郵便局 48.7%	コンビニ 41.7%	3位	郵便局 48.4%	スーパー 46.8%	郵便局 29.2%		大山崎 (N=91)	円明寺 (N=154)	下植野 (N=24)	1位	役場 42.9%	役場 28.6%	役場 12.5%	2位	中央公民館 28.6%	地区集会所 26.0%	- -	3位	ふるさとセンター 22.0%	中央公民館 16.2%	- -
	高齢者 (N=201)	身体障害 (N=65)	知的障害 (N=21)	精神障害 (N=11)	妊産婦 (N=37)																																																				
1位	郵便局 55.7%	郵便局 60.0%	スーパー 66.7%	コンビニ 72.7%	スーパー 67.6%																																																				
2位	近所の医院 55.2%	スーパー 47.7%	近所の医院 42.9%	山崎駅 45.5%	コンビニ 54.1%																																																				
3位	スーパー 50.2%	近所の医院 41.5%	駅、郵便局 33.3%	郵便局 45.5%	郵便局 51.4%																																																				
	大山崎 (N=91)	円明寺 (N=154)	下植野 (N=24)																																																						
1位	阪急大山崎 72.5%	近所の医院 50.6%	近所の医院 50.0%																																																						
2位	J R 山崎駅 62.6%	郵便局 48.7%	コンビニ 41.7%																																																						
3位	郵便局 48.4%	スーパー 46.8%	郵便局 29.2%																																																						
	大山崎 (N=91)	円明寺 (N=154)	下植野 (N=24)																																																						
1位	役場 42.9%	役場 28.6%	役場 12.5%																																																						
2位	中央公民館 28.6%	地区集会所 26.0%	- -																																																						
3位	ふるさとセンター 22.0%	中央公民館 16.2%	- -																																																						

問題のある施設	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に問題があると答えた人は、高齢者が 21.6%で最も低い。 ・身体障害者が 31.1%、子育て親が 54.5%と最も高い。 																																											
	<p>[問題がある施設の順位]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>高齢者 (N=68)</th> <th>身体障害 (N=46)</th> <th>知的障害 (N=7)</th> <th>精神障害 (N=6)</th> <th>子育て親 (N=24)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>阪急大山崎 48.5%</td> <td>JR 山崎 32.6%</td> <td>阪急大山崎 85.7%</td> <td>阪急大山崎 50.0%</td> <td>阪急大山崎 62.5%</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>JR 山崎 45.6%</td> <td>阪急大山崎 28.3%</td> <td>JR 山崎 57.1%</td> <td>JR 山崎 33.3%</td> <td>JR 山崎 58.3%</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>役場 50.2%</td> <td>役場 28.3%</td> <td>- -</td> <td>役場 33.3%</td> <td>スーパー 25.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・よく利用する施設は近隣生活施設が高かったが、問題があるとされた施設は、1位、2位が駅、3位で役場となる。 <p>[地区別による問題のある施設の順位](高齢者)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>大山崎 (N=29)</th> <th>円明寺 (N=37)</th> <th>下植野 (N=1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>阪急大山崎 47.8%</td> <td>役場、中央公民館 32.4%</td> <td>- -</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>JR 山崎 44.8%</td> <td>JR 山崎、阪急大山崎 29.7%</td> <td>- -</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>役場 25.4%</td> <td>地区集会所 13.5%</td> <td>- -</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ - は回答者少数のため非掲載 ・地区別では、大山崎地区では駅が問題である施設の1位、2位 ・円明寺地区では、役場、中央公民館が1位、駅が2位 ・円明寺地区では、地区集会所が高齢者の集計が3位で、身体障害者の集計は2位 						高齢者 (N=68)	身体障害 (N=46)	知的障害 (N=7)	精神障害 (N=6)	子育て親 (N=24)	1位	阪急大山崎 48.5%	JR 山崎 32.6%	阪急大山崎 85.7%	阪急大山崎 50.0%	阪急大山崎 62.5%	2位	JR 山崎 45.6%	阪急大山崎 28.3%	JR 山崎 57.1%	JR 山崎 33.3%	JR 山崎 58.3%	3位	役場 50.2%	役場 28.3%	- -	役場 33.3%	スーパー 25.0%		大山崎 (N=29)	円明寺 (N=37)	下植野 (N=1)	1位	阪急大山崎 47.8%	役場、中央公民館 32.4%	- -	2位	JR 山崎 44.8%	JR 山崎、阪急大山崎 29.7%	- -	3位	役場 25.4%	地区集会所 13.5%
	高齢者 (N=68)	身体障害 (N=46)	知的障害 (N=7)	精神障害 (N=6)	子育て親 (N=24)																																							
1位	阪急大山崎 48.5%	JR 山崎 32.6%	阪急大山崎 85.7%	阪急大山崎 50.0%	阪急大山崎 62.5%																																							
2位	JR 山崎 45.6%	阪急大山崎 28.3%	JR 山崎 57.1%	JR 山崎 33.3%	JR 山崎 58.3%																																							
3位	役場 50.2%	役場 28.3%	- -	役場 33.3%	スーパー 25.0%																																							
	大山崎 (N=29)	円明寺 (N=37)	下植野 (N=1)																																									
1位	阪急大山崎 47.8%	役場、中央公民館 32.4%	- -																																									
2位	JR 山崎 44.8%	JR 山崎、阪急大山崎 29.7%	- -																																									
3位	役場 25.4%	地区集会所 13.5%	- -																																									

(3) 駅について

よく利用する駅	<ul style="list-style-type: none"> ・最もよく利用する駅は、高齢者、身体障害者とも阪急長岡天神駅または長岡京駅 			
駅別の交通手段	[駅別の交通手段の順位](高齢者)			
		阪急大山崎 (N=118)	JR 山崎 (N=33)	長岡天神等 (N=133)
	1位	徒歩 54.2%	徒歩 33.3%	バス 77.4%
	2位	自転車 17.8%	バス 27.3%	自転車 8.3%
3位	バス 11.0%	自転車 18.2%	バイク 5.3%	

駅別の交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪急大山崎駅、JR山崎駅へは徒歩が最も高い。 ・ 長岡天神方面では、バスの利用が最も高い。 ・ 身体障害者では、阪急大山崎への交通手段で、徒歩が1位(47.5%)、タクシーが2位(17.5%)となっている。 																		
駅を利用する際に困ること	<p>[駅別の困難な点の順位] (高齢者)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>阪急大山崎 (N=105)</th> <th>JR山崎 (N=27)</th> <th>長岡天神等 (N=103)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>階段上下移動が困難 31.1%</td> <td>階段上下移動が困難 45.7%</td> <td>駐車場少ない 14.6%</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>駐車場が少ない 11.4%</td> <td>トイレ使いにくい 25.9%</td> <td>階段上下移動が困難 12.6%</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>ベンチ少ない 9.5%</td> <td>駐車場が少ない 22.2%</td> <td>ベンチ少ない 10.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪急大山崎駅、JR山崎駅では「階段の上下移動」が最も多い。 ・ 阪急大山崎駅、JR山崎駅でも「駐車場が少ない」が2位、3位 ・ JR山崎駅では「トイレが使いにくい」が2位 ・ 阪急大山崎駅、長岡天神駅等では「トイレが使いにくい」が4位 ・ 身体障害者での集計結果もほぼ同様の傾向 				阪急大山崎 (N=105)	JR山崎 (N=27)	長岡天神等 (N=103)	1位	階段上下移動が困難 31.1%	階段上下移動が困難 45.7%	駐車場少ない 14.6%	2位	駐車場が少ない 11.4%	トイレ使いにくい 25.9%	階段上下移動が困難 12.6%	3位	ベンチ少ない 9.5%	駐車場が少ない 22.2%	ベンチ少ない 10.7%
	阪急大山崎 (N=105)	JR山崎 (N=27)	長岡天神等 (N=103)																
1位	階段上下移動が困難 31.1%	階段上下移動が困難 45.7%	駐車場少ない 14.6%																
2位	駐車場が少ない 11.4%	トイレ使いにくい 25.9%	階段上下移動が困難 12.6%																
3位	ベンチ少ない 9.5%	駐車場が少ない 22.2%	ベンチ少ない 10.7%																

(4) 道路について

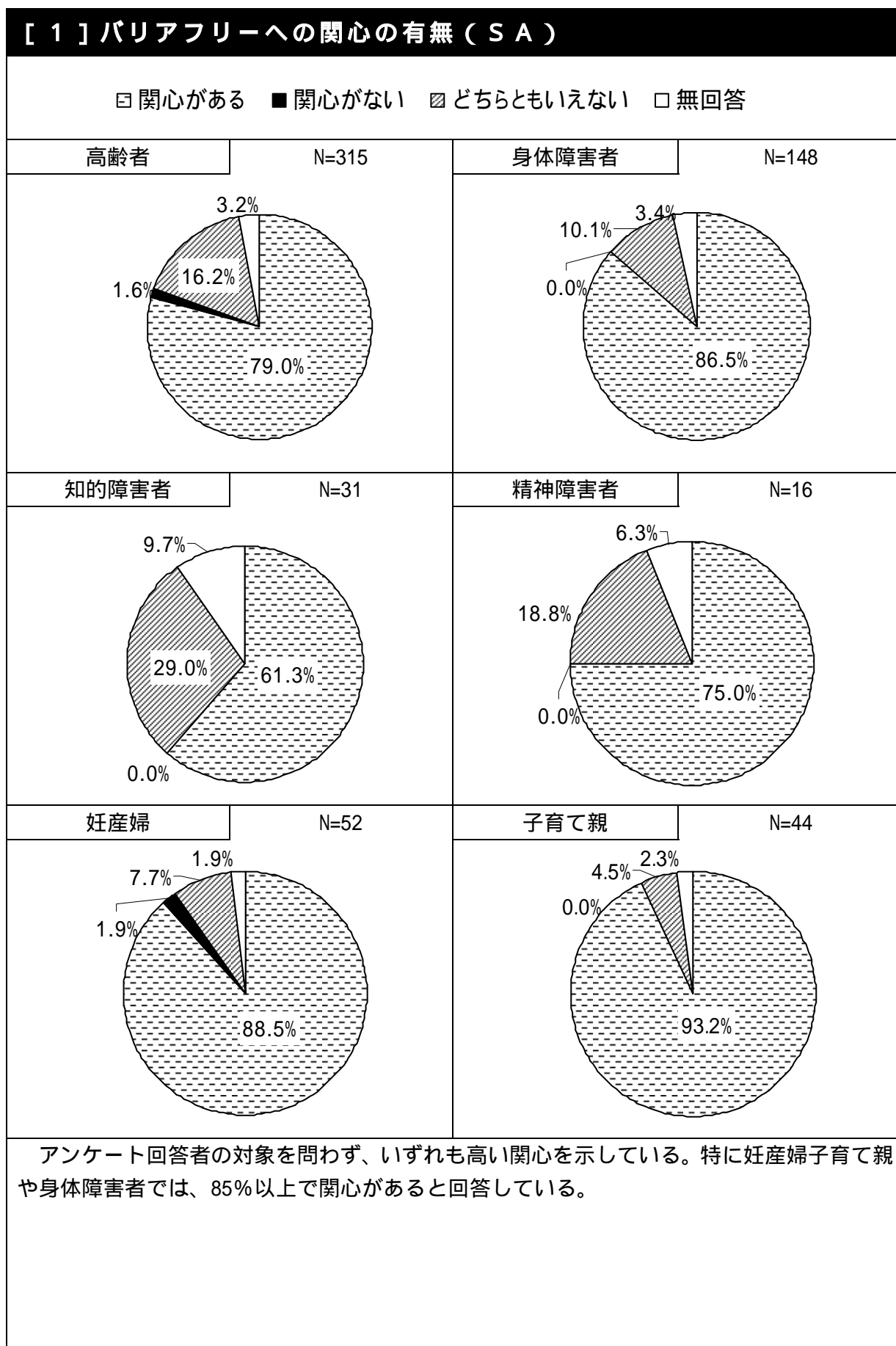
よく利用する道路	[よく利用する道路の順位]					
		高齢者 (N=315)	身体障害 (N=148)	知的障害 (N=31)	精神障害 (N=20)	子育て親 (N=44)
	1位	31.4%	20.3%	35.5%	35.0%	56.8%
	2位	26.7%	19.6%	29.0%	30.0%	29.5%
3位	19.4%	16.2%	16.1%	20.0%	22.7%	

よく利用 する道路	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、 、 、 の西国街道の利用が多い。 ・身体障害者を除いて、 大山崎町の役場前道路の利用者が1位。
道路を利用 する際に困 るこ と	<ul style="list-style-type: none"> ・ 、 の道路で指摘が多く、「段差やデコボコ」や「歩道幅員が狭い」との指摘が多い。 ・ では、「段差やデコボコで通行できない」が最も多い（高齢者 69.2%） ・ では、「歩道幅員が狭くすれ違いができない」が最も多い（身体障害者 66.7%） ・ では、高齢者は「車の乗り入れ部で起伏が多い」が1位（41.7%） ・身体障害者は「歩道幅員が狭くすれ違いができない」が最も多い（身体障害者 60.0%）

（5）バスの利用状況について

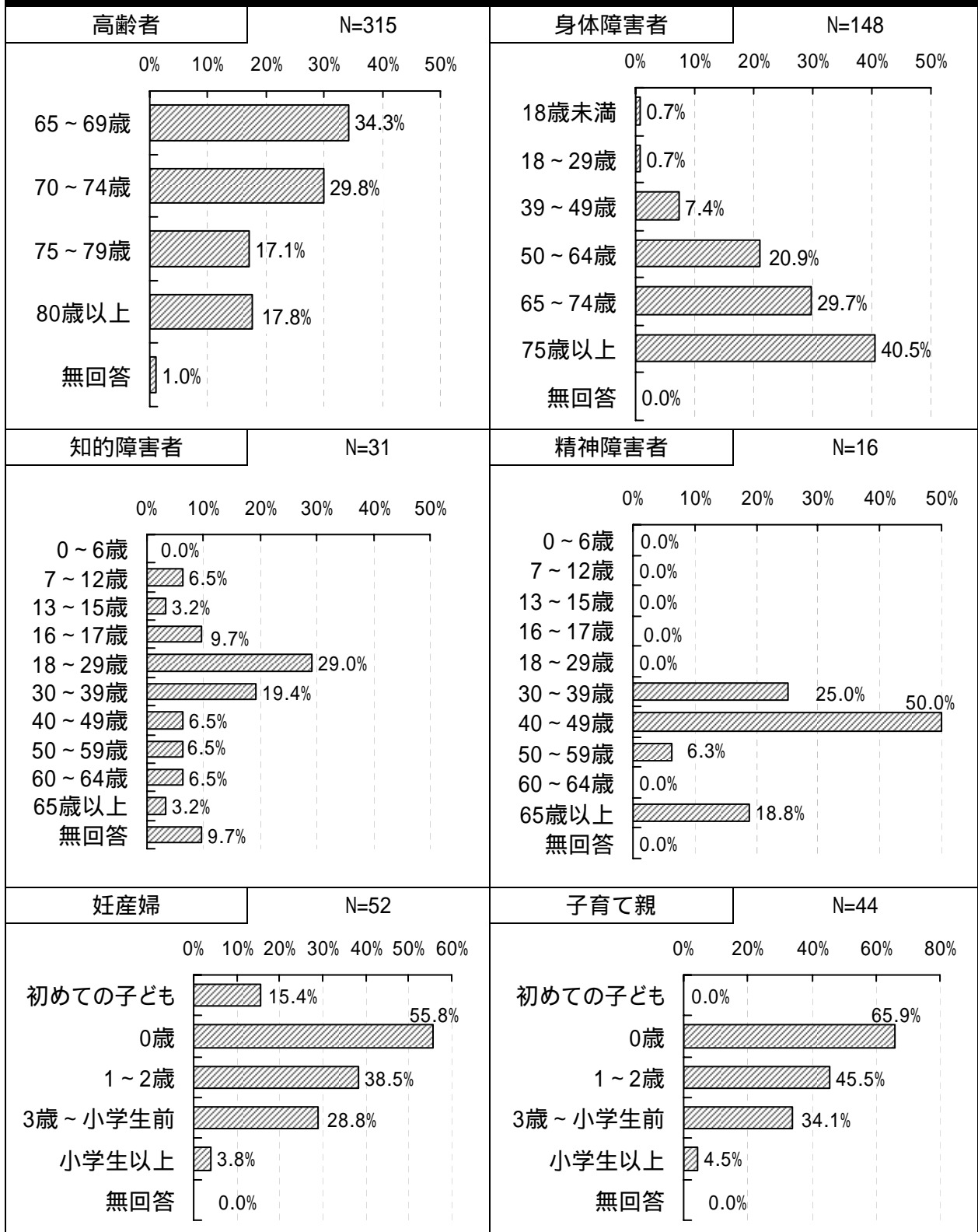
バスの利用 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・バスを利用している人では、阪急バスの割合が大きい。 ・高齢者では約58%の人が阪急バスを利用。
バスの利用 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの対象者においても、駅への利用が1位 ・身体障害者や精神障害者では「通院」が、高齢者と知的障害者では「買い物」が2位。
バスの利用 で困難な点	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの対象者においても、「バスを待つ間に雨にぬれる」の回答率が高い。 ・身体障害者では、「段差が大きく乗降が困難」が最も大きい（34.5%） ・いずれの対象者においても「便数が少なく利用できない」の回答率も比較的高い。（18.2～42.9%）

3. アンケートの集計結果



[2] 年齢

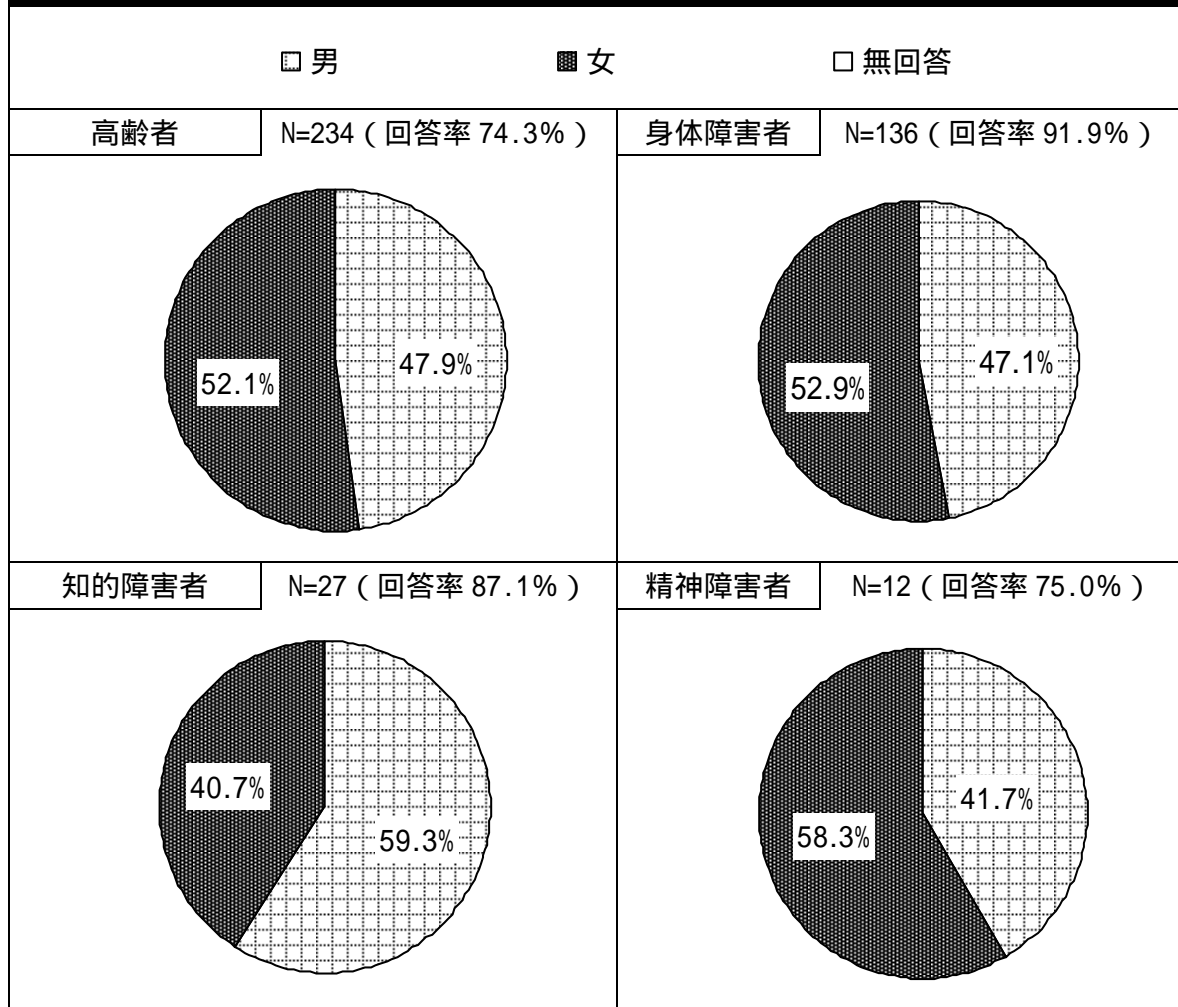
妊産婦子育て親は子どもの年齢



高齢者では、75歳以上が約35%となっている。また、身体障害者では、約70%が高齢者となっている。知的障害者では29歳以下が約48%で比較的若い回答者層となっている。精神障害者では、30歳から49歳で75%となっている。

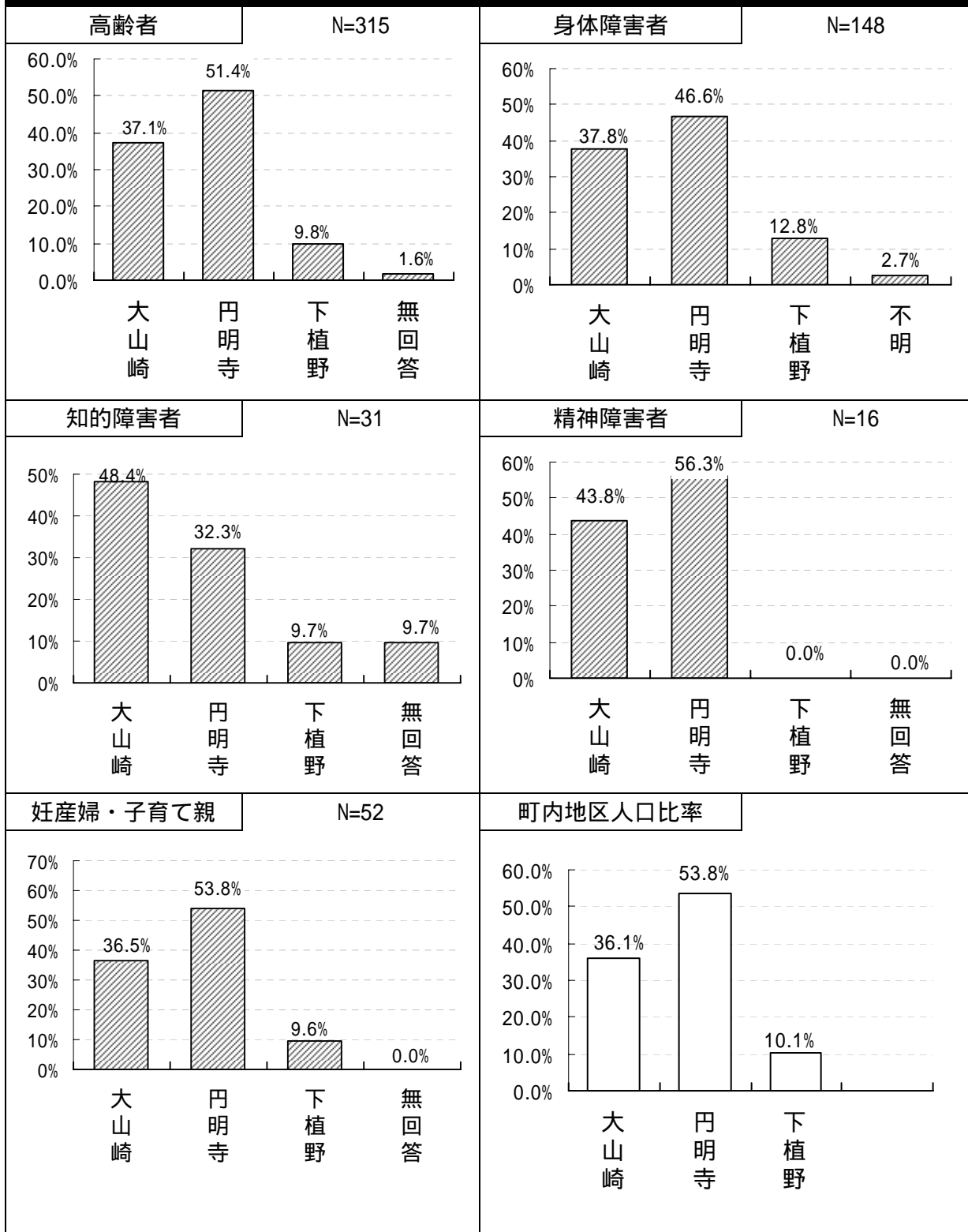
妊産婦、子育て親の子どもの年齢は、約96%が小学生前までとなっている。

[3] 性別



回答者数が比較的多くなっている高齢者、身体障害者では男女比は概ね 1:1 となっている。

[4] 回答者が住んでいる地区

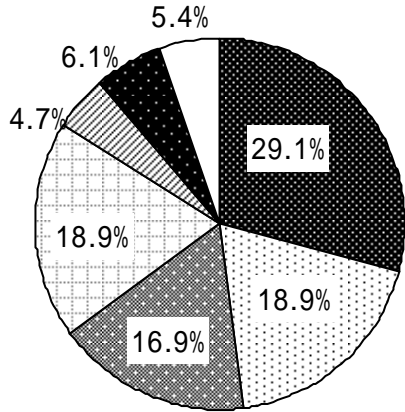


回答者数の多い高齢者、身体障害者、妊産婦子育て親では、概ね町内地区人口比率と同様の比率となっている。

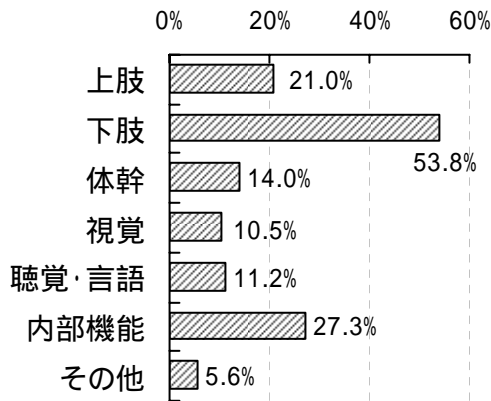
[5] 障害の状況について

障害手帳凡例 ■ 1級 □ 2級 ▨ 3級 □ 4級 ▩ 5級 ■ 6級 □ 無回答又は所持しない

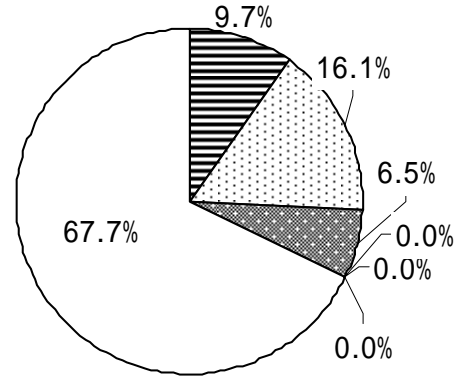
身体障害者 身体障害者手帳所持 N=148



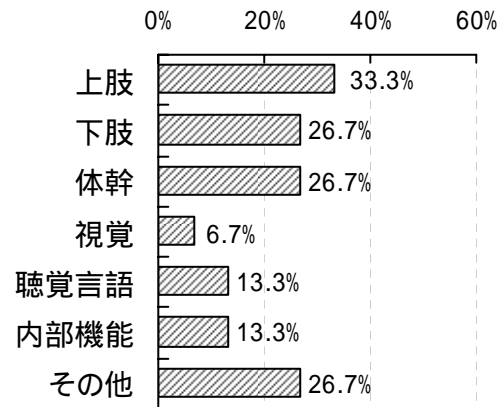
障害の部位 N=140 回答総数=168



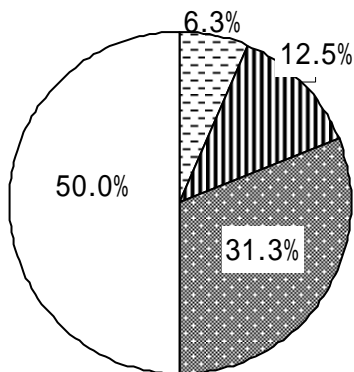
知的障害者 身体障害者手帳所持 N=31



障害の部位 N=15 回答総数=38

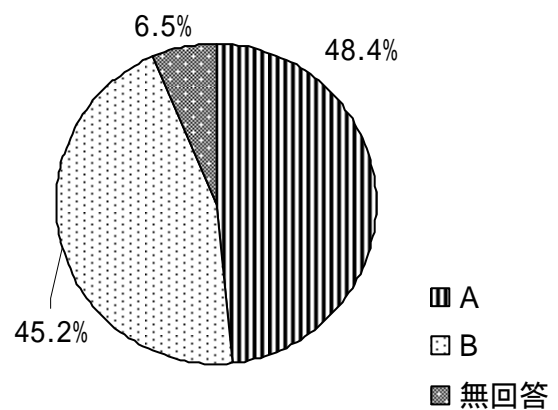


精神障害者 身体障害者手帳所持 N=20



精神障害者保健福祉手帳は 100%所持
療育手帳の所持者は 3 名

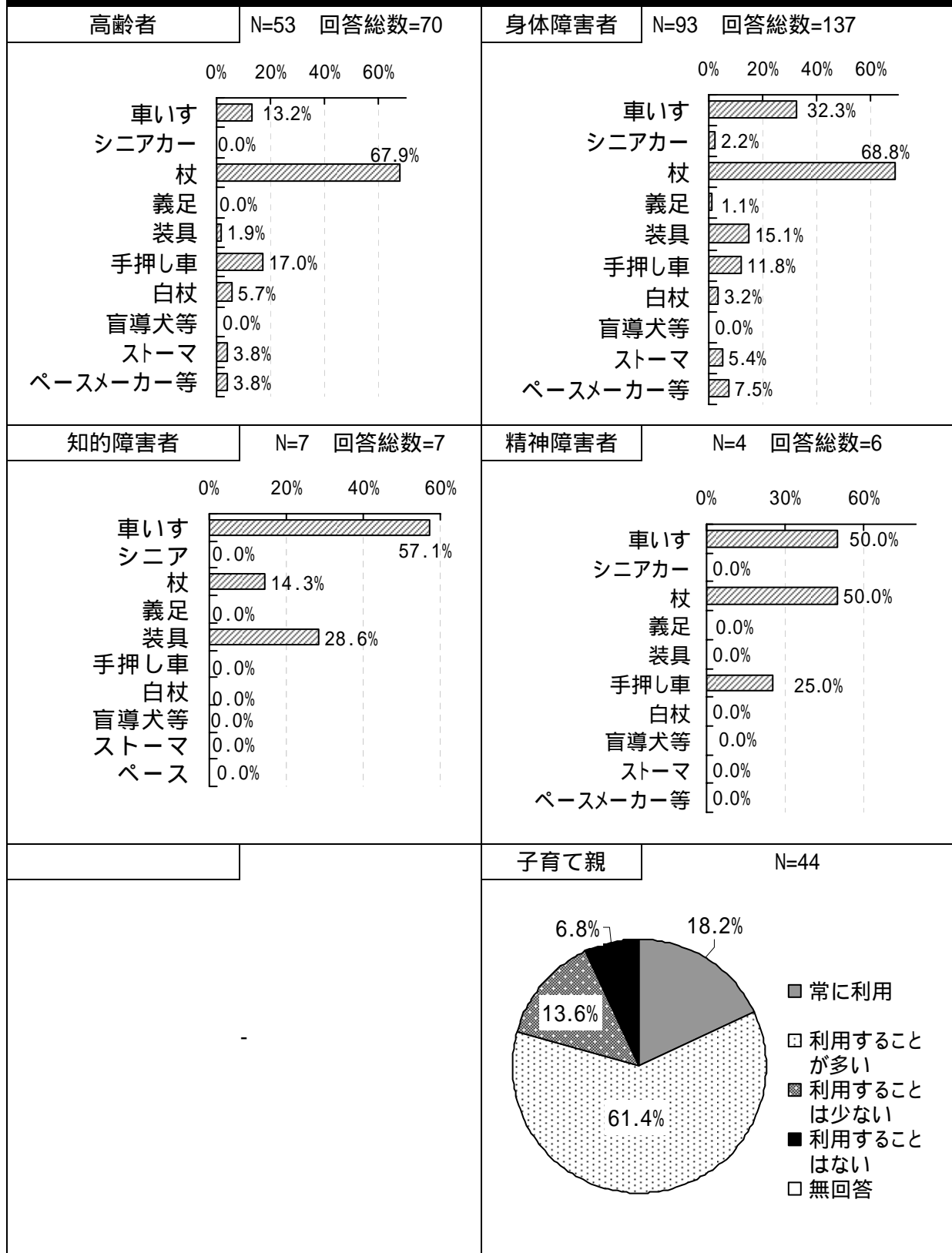
療育手帳の等級 N=28



身体障害者の所持する障害手帳の等級割合は、1級と2級合わせて約50%となっている。また、障害の部位では、下肢の障害が約54%以上と最も高くなっており、次いで内部機能障害が約27%となっている。知的障害者では、療育手帳Aを所持している人が約48%となっている。

[6] 歩行補助具 (M A)

妊産婦、子育て親はベビーカーの使用有無



歩行補助具は、高年齢者と身体障害者で杖の利用率が最も高くなっている。また、身体障害者では車いすの利用率も高く約 32%となっている。

妊産婦、幼少児等の親では、ベビーカーの常に利用と、利用することが多いで約 65%となっている。

[7] 運転免許 (S A)

■ 持っている ■ 持っていない □ 無回答

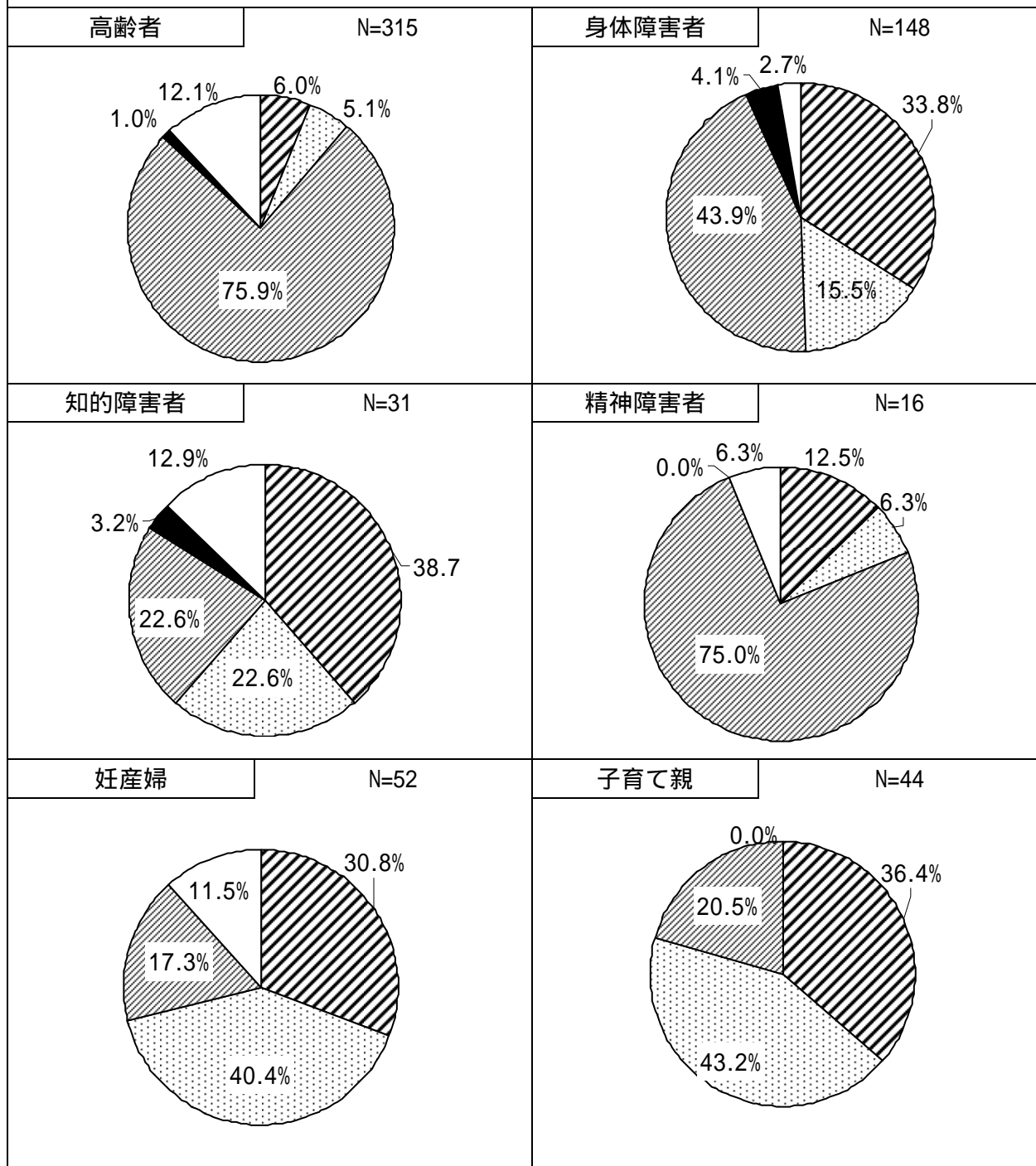
高齢者	N=315	身体障害者	N=148
知的障害者	N=31	精神障害者	N=16
妊産婦	N=52	子育て親	N=44

高齢者及び身体障害者では保有率が約 38%となっている。知的障害者では運転免許証保有している回答者はいない。

妊産婦と子育て親では、約 96%の回答者が運転免許証を保有している。

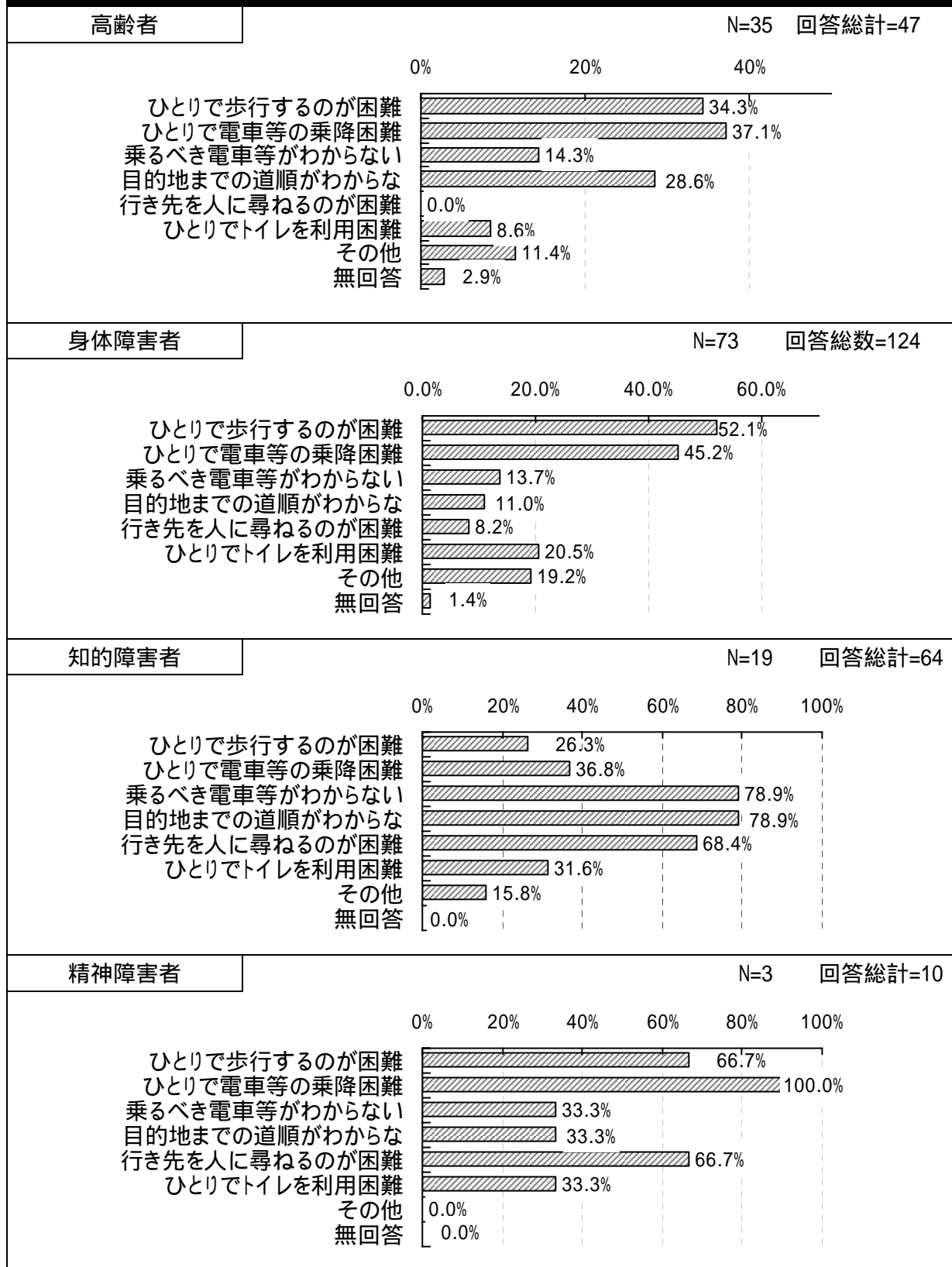
[8] 付添いの有無 (S A)

☑ 付添い必要 ☐ 遠方の外出時のみ必要 ☒ 付添いは不要 ■ 外出ができない □ 無回答



高齢者や身体障害者及び精神障害者では、付き添いを伴わず外出する比率が高くなっており、知的障害者、妊産婦子育て親では付き添いを伴った外出の比率が高くなっている。

[9] 付添いの理由 (M A)

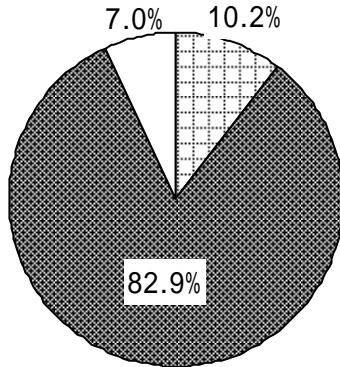


高齢者、身体障害者においては、「ひとりで電車等の乗降が困難」や「ひとりで歩くのが困難」が多く、身体的な制約が大きいことがうかがえる。知的障害者においては「乗るべき電車がわからない」、「目的地までの道順がわからない」の比率が高く、情報面での制約が大きくなっている。

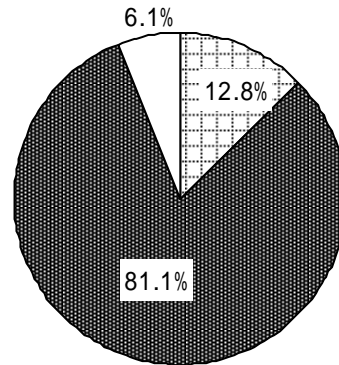
[10] 通勤通学の有無 (S A)

通勤をしている
 通勤をしていない
 無回答

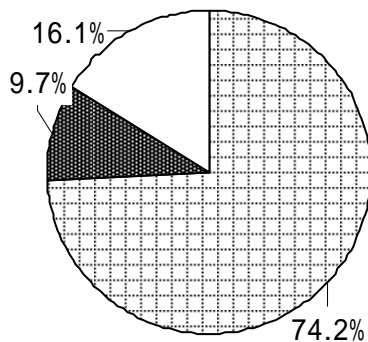
高齢者 N=315



身体障害者 N=148

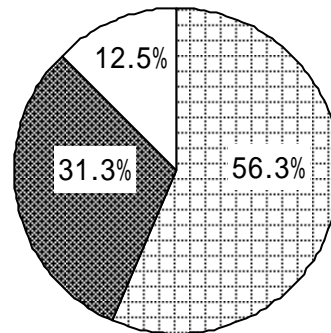


知的障害者 N=31



通学通所をしている
 通学通所をしていない
 無回答

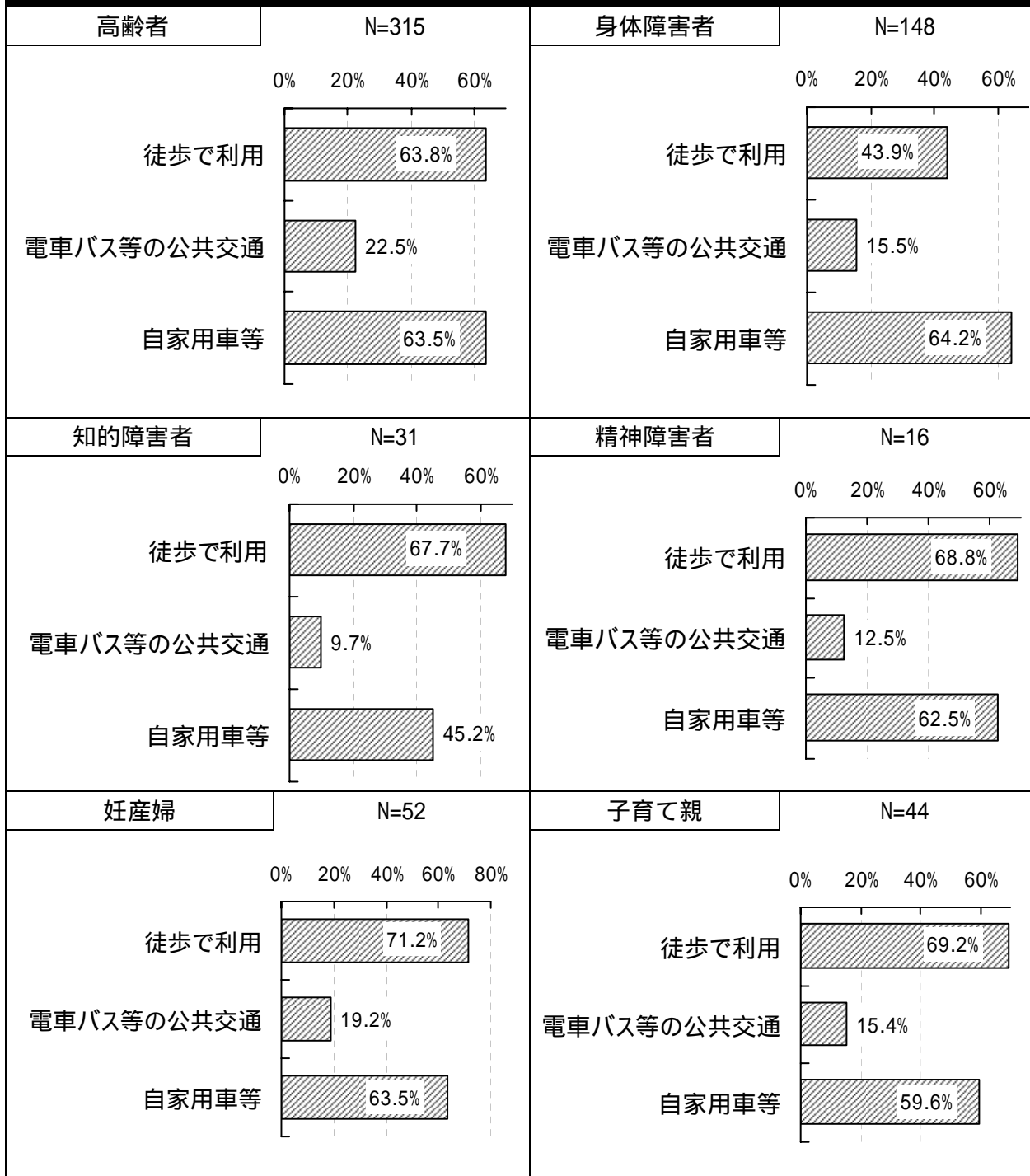
精神障害者 N=16



通学通所をしている
 通学通所をしていない
 無回答

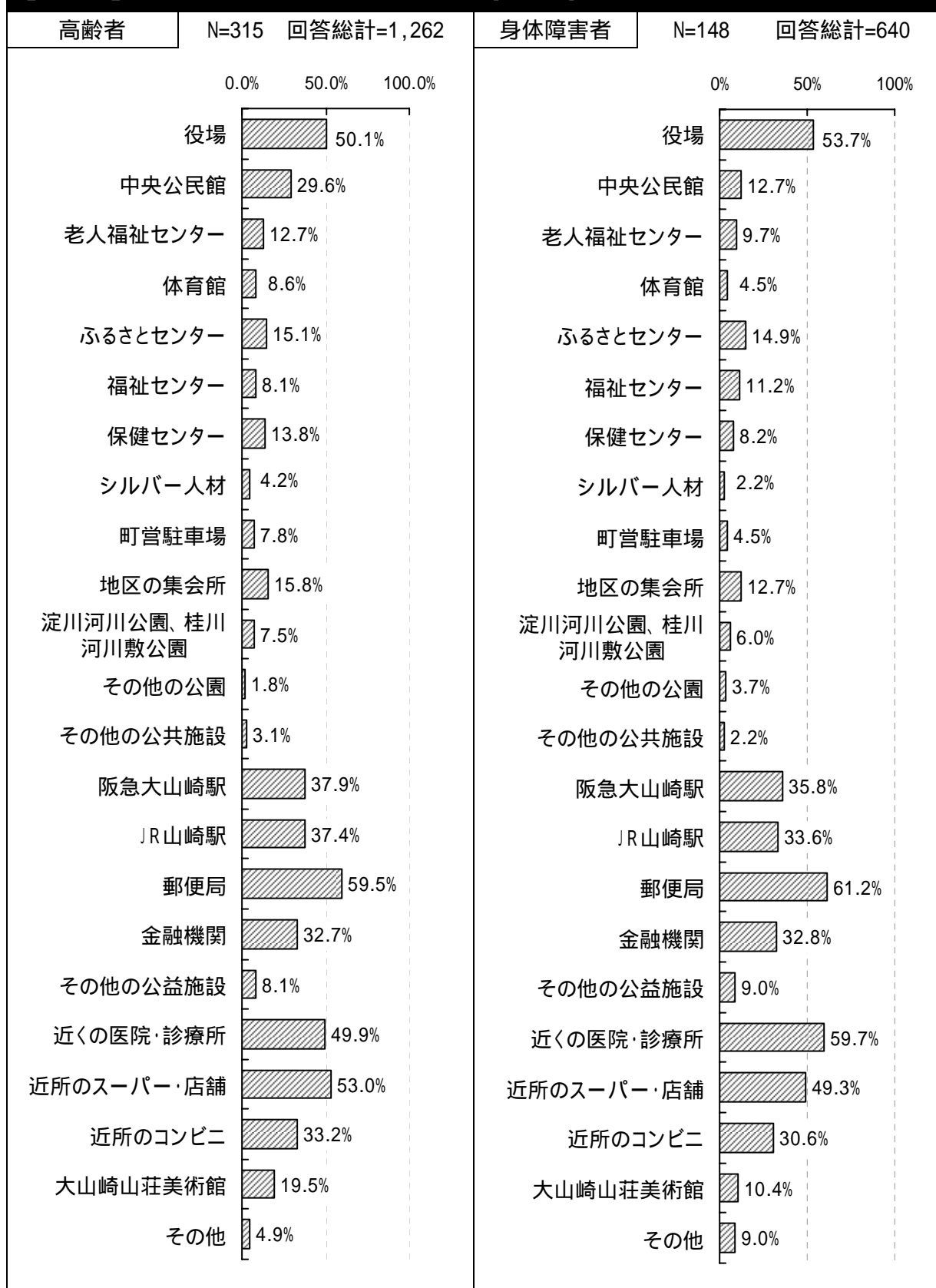
高齢者で約 10%、身体障害者で約 13%が通勤しており、精神障害者と知的障害者は通学通所をしている割合が高くなっており、知的障害者で約 74%、精神障害者で約 56%となっている。

[11] よく利用する施設への交通手段 (M A)



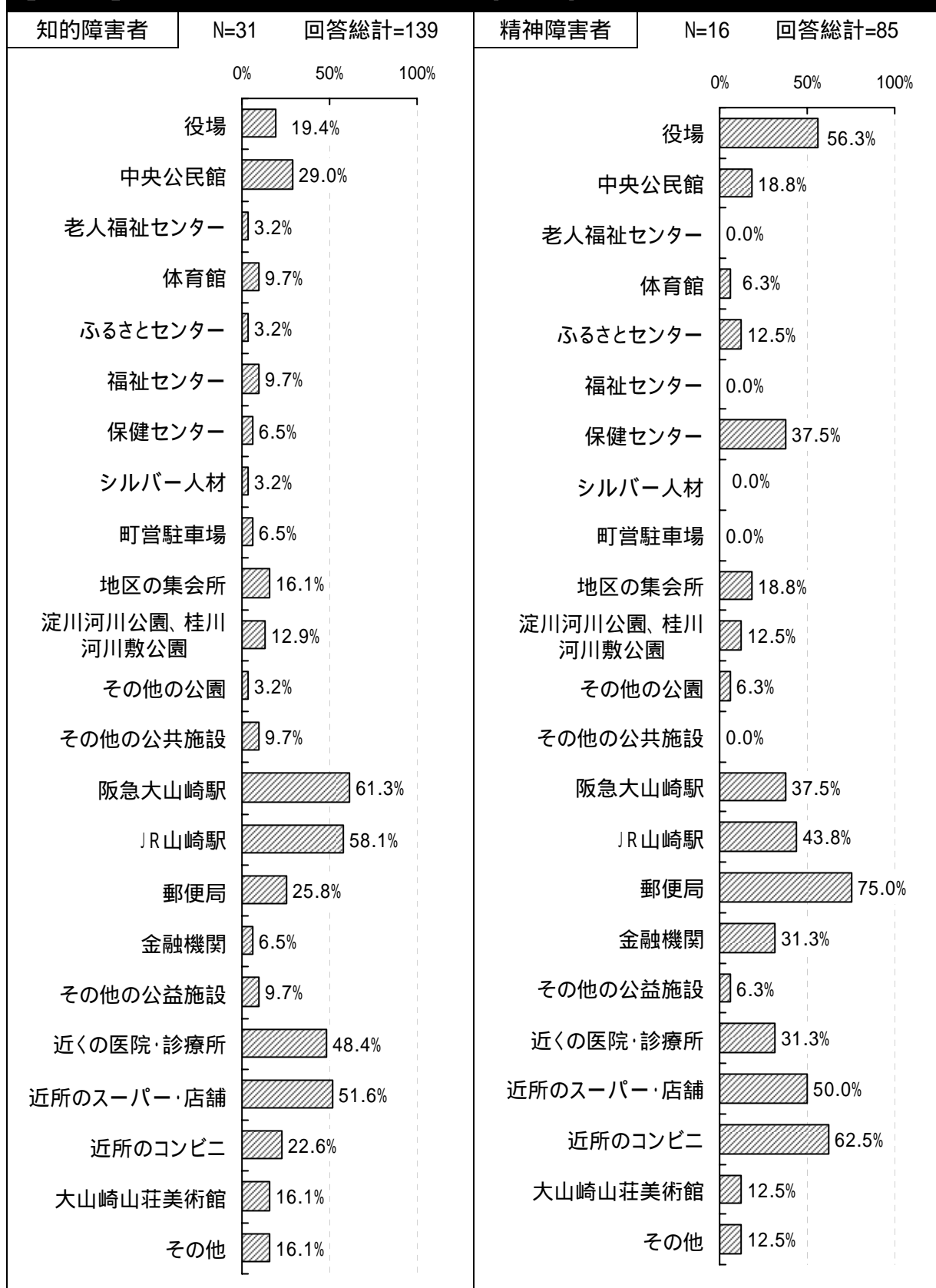
身体障害者を除いて、徒歩による施設利用率が最も高くなっている。

[11-1] よく利用する生活関連施設 (M A)



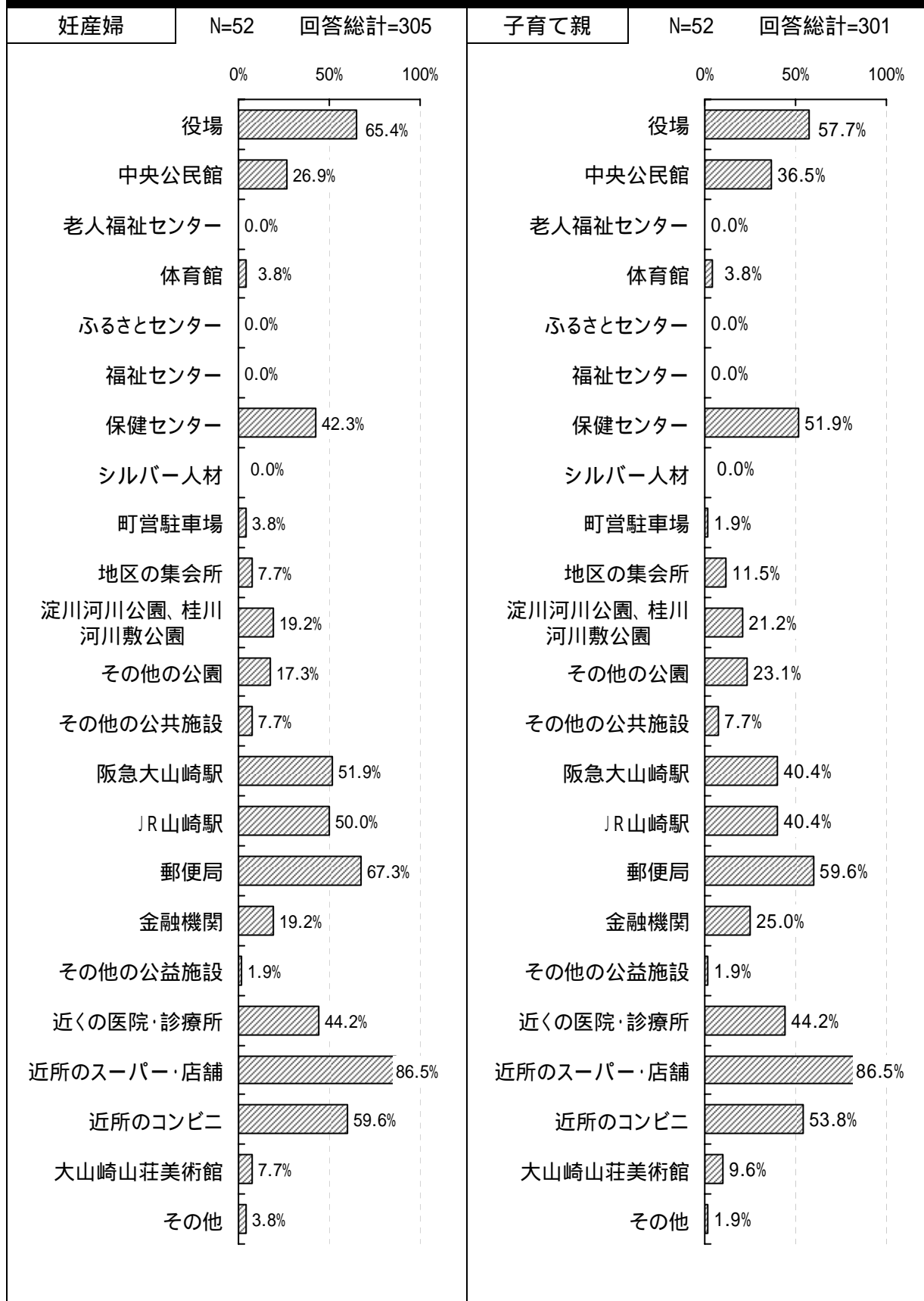
高齡者及び身体障害者の施設利用状況をみると、郵便局や近所のスーパー・お店といった近隣生活施設の利用率が高くなっており、広域的施設としては、駅、役場の利用率が比較的高くなっている。また、高齡者では、中央公民館が約30%と高くなっている。

[11-1] よく利用する生活関連施設 (M A)



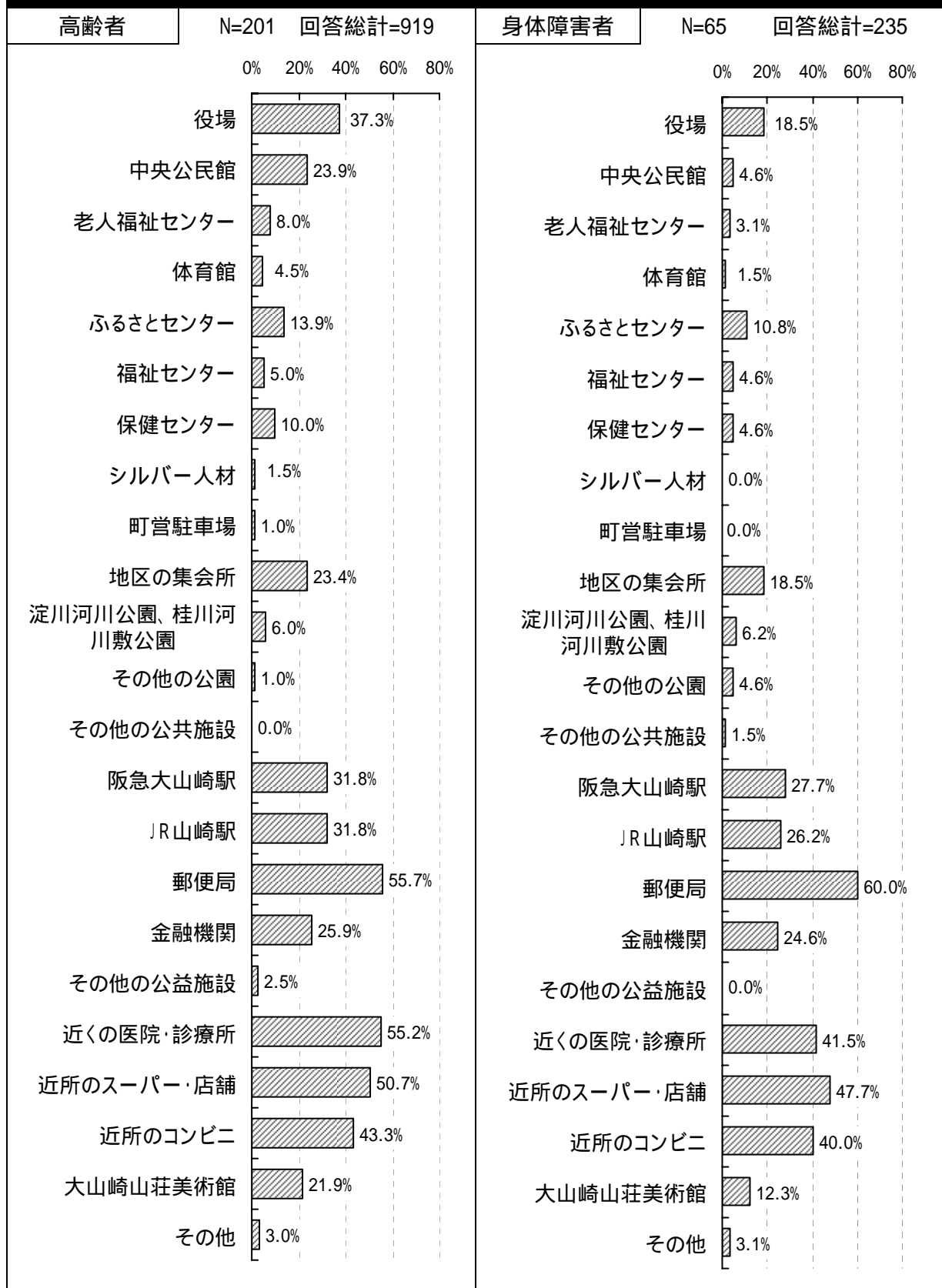
知的障害者では、駅が約 60%、精神障害者では郵便局が 75%と最も高くなっている。次いで、近隣の病院やコンビニ等の近隣生活施設の利用率が高く、広域施設として知的障害者では中央公民館が約 29%、精神障害者では役場が 56%と高くなっている。

[11-1] よく利用する生活関連施設 (M A)



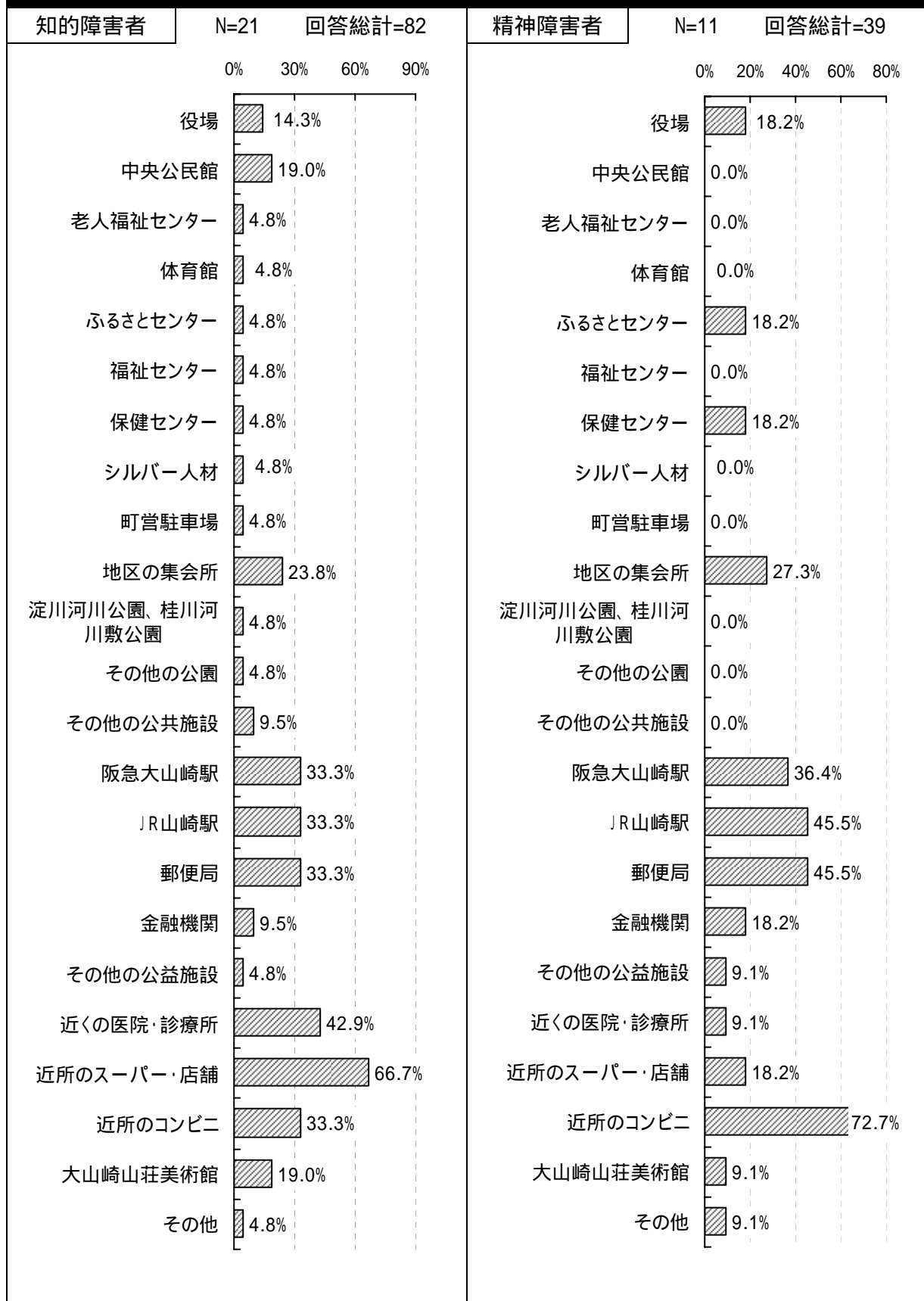
妊産婦では、近所のスーパーや郵便局の近隣生活施設が高くなっており、広域的施設として、役場の利用率が高く、保健センターの利用率も比較的高くなっている。

[11-2] 徒歩でよく利用する生活関連施設 (M A)



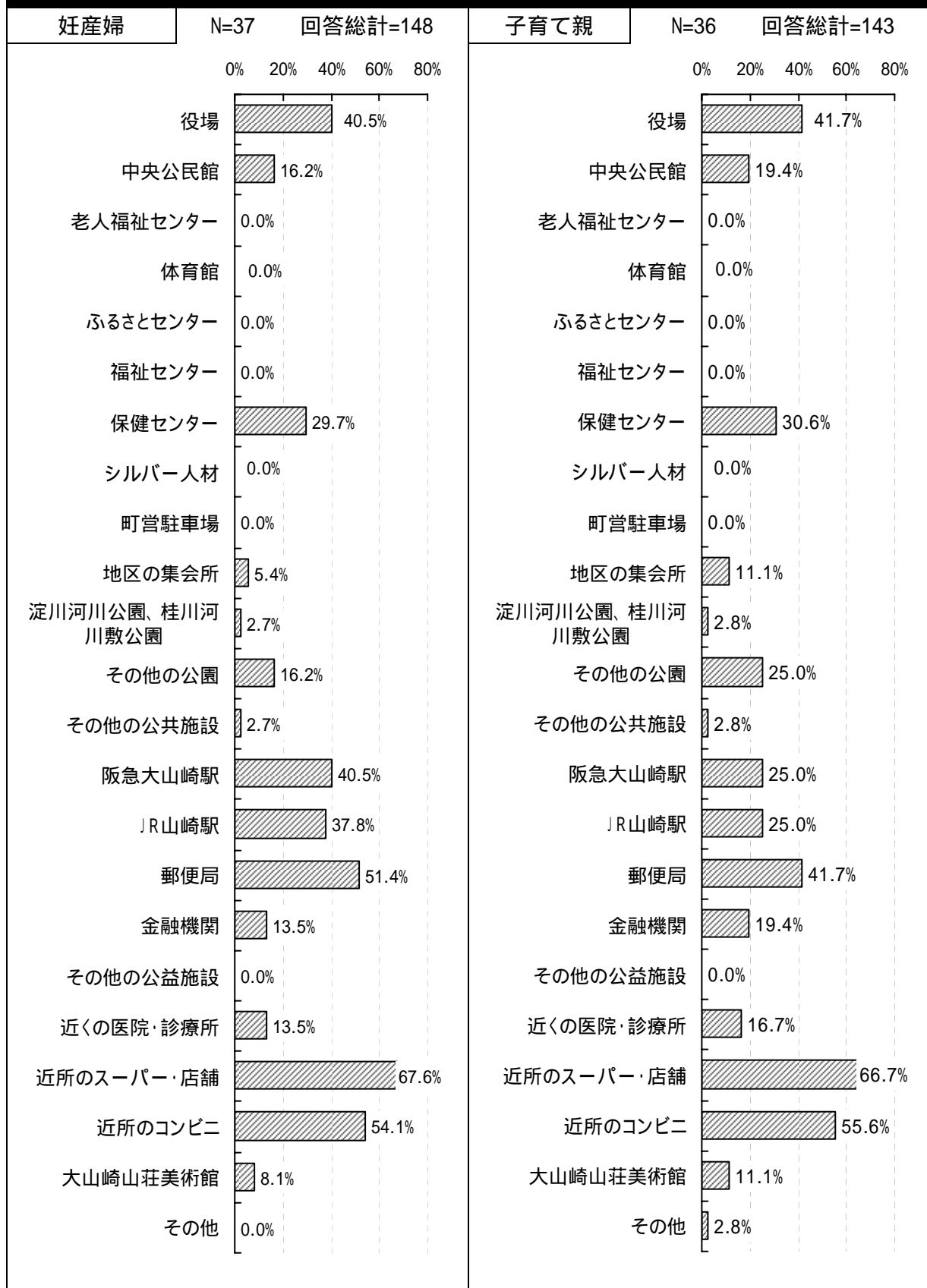
高齡者と身体障害者における、徒歩による施設利用率は、郵便局や近くの医院・診療所等の近隣生活施設で高くなっている。また、高齡者では役場と中央公民館の利用率が高くなっている。

[11-2] 徒歩でよく利用する生活関連施設 (M A)



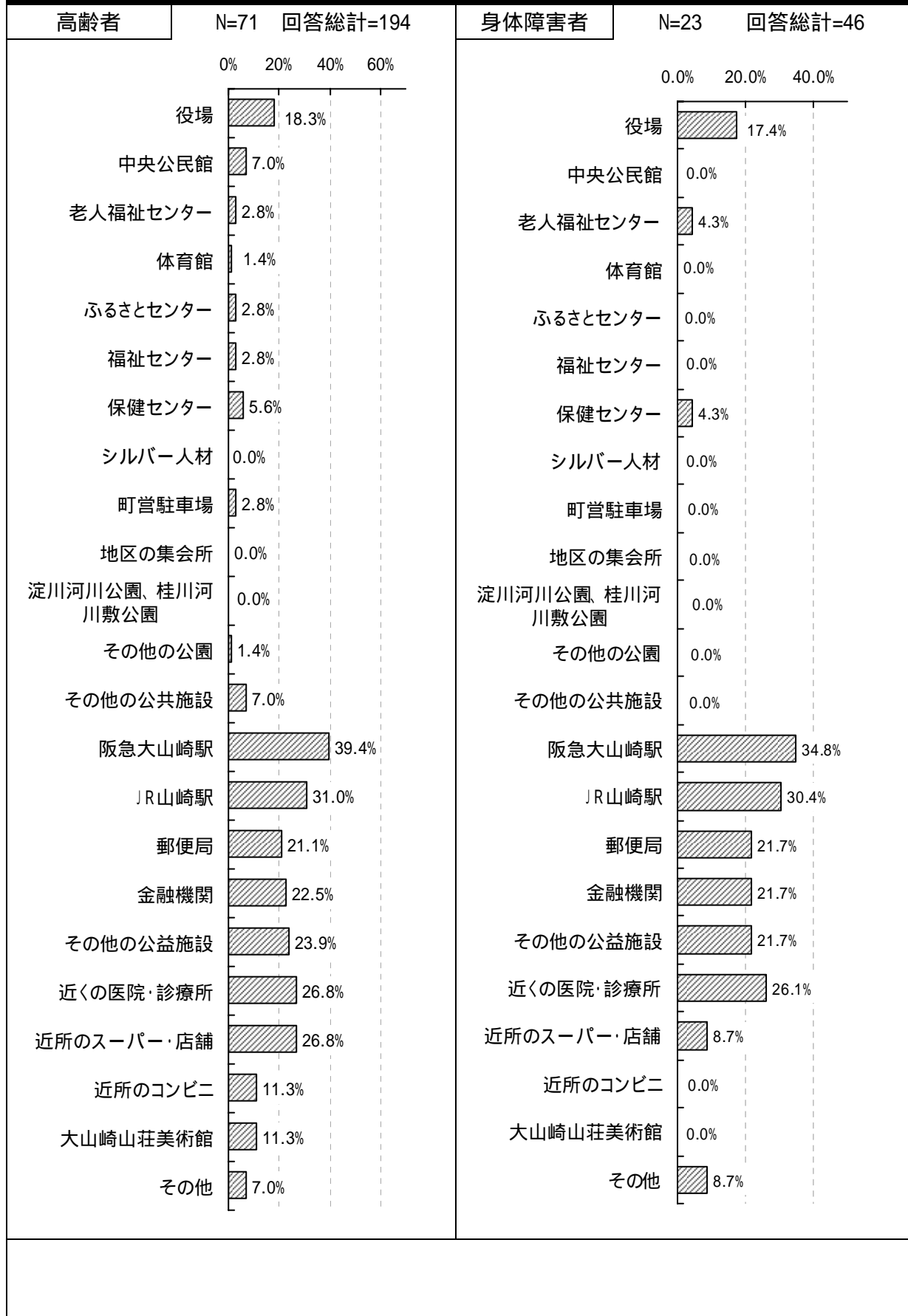
知的障害者と精神障害者では、近所のスーパー・店舗や近所のコンビニ等の近隣生活施設の利用率が高くなっている。また、精神障害者では駅の利用率も比較的高くなっている。

[11-2] 徒歩でよく利用する生活関連施設 (M A)

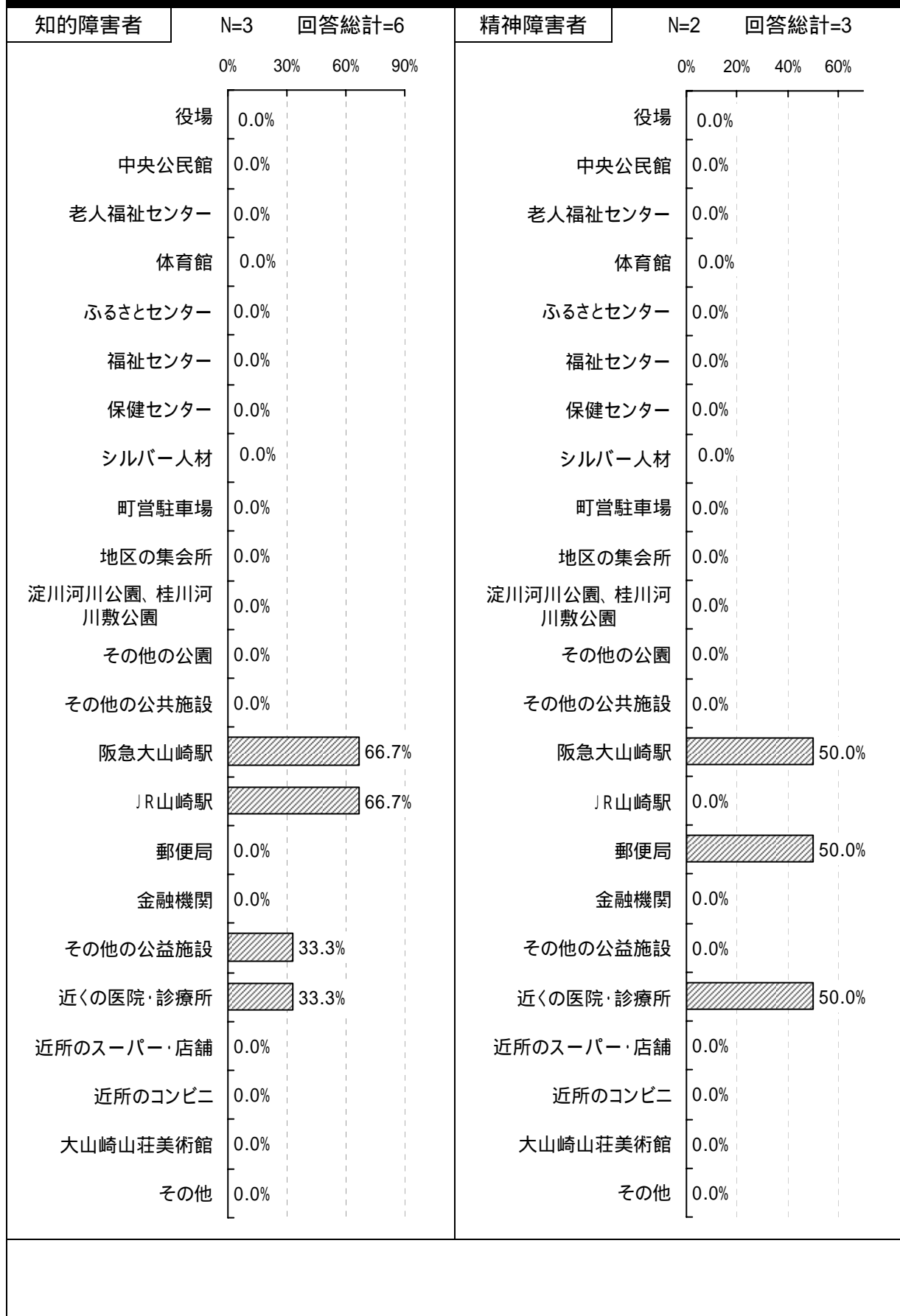


妊産婦では、近所のスーパー・店舗が最も高く、次いで近所のコンビニとなっている。広域的施設では、役場のほか保健センターの利用率も比較的高くなっている。一方、子育て親では駅の利用率が低下しているが、その他の公園の割合が高くなっている。

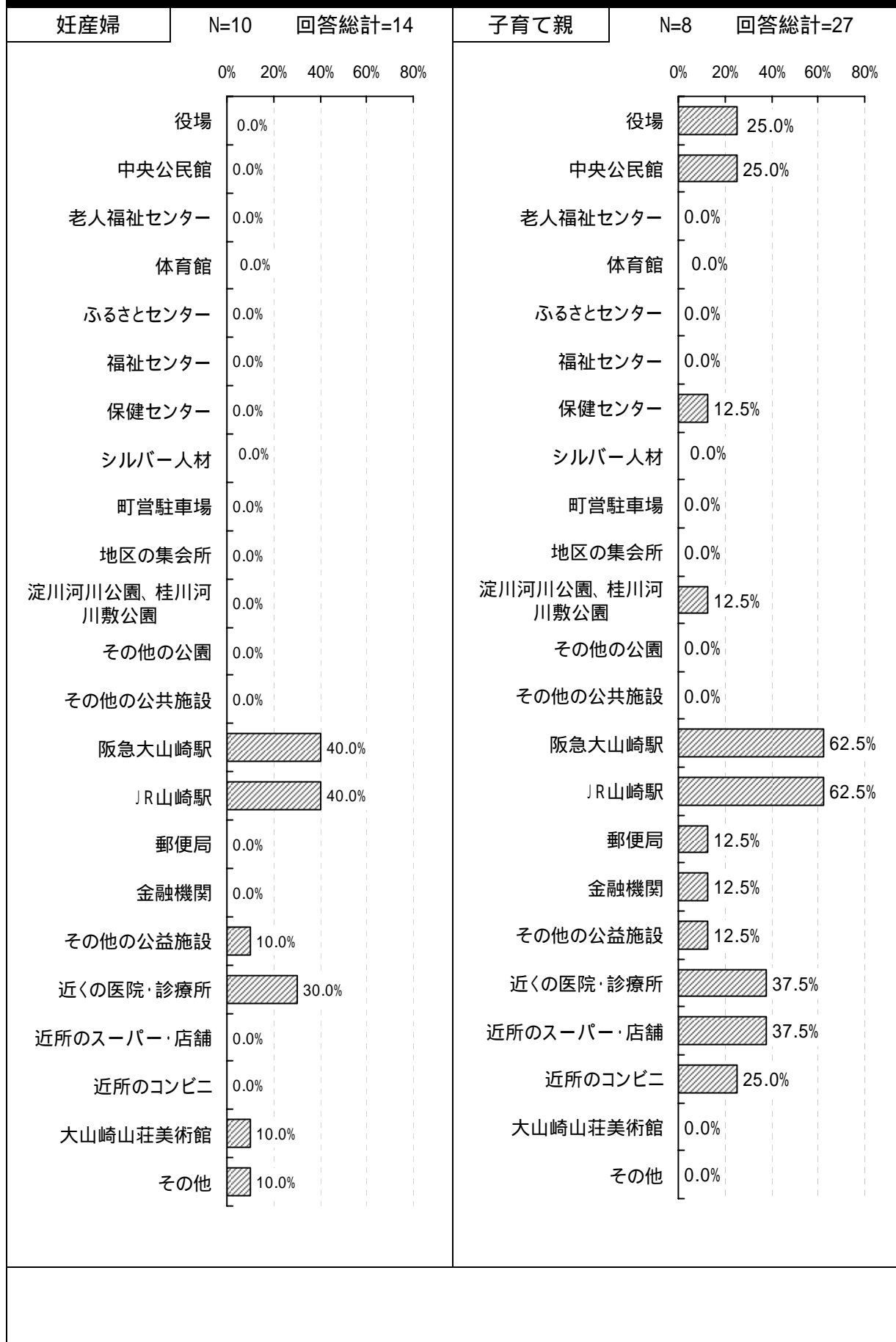
[11-3] 公共交通でよく利用する生活関連施設 (M A)



[11-3] 公共交通でよく利用する生活関連施設 (M A)



[11-3] 公共交通でよく利用する生活関連施設 (M A)



地区別×徒歩及び公共交通で利用する施設別 クロス集計結果（高齢者）

下段:%	合計	役場	中央公民館	老人福祉センター	体育館	ふるさとセンター	福祉センター	保健センター	シルバー人材	町営駐車場	地区の集会所	淀川河川公園、桂川河川敷公園	その他の公園	その他の公共施設	阪急大山崎駅	JR山崎駅	郵便局	金融機関	その他の公益施設	近くの医院 診療所	近所のスーパー 店舗	近所のコンビニ	大山崎山荘美術館	その他
合計	269	86	52	18	9	29	12	22	3	4	46	12	3	5	91	85	126	68	22	129	119	94	52	11
	408	32.0	19.3	6.7	3.3	10.8	4.5	8.2	1.1	1.5	17.1	4.5	1.1	1.9	33.8	31.6	46.8	25.3	8.2	48.0	44.2	34.9	19.3	4.1
大山崎	91	39	26	7	5	20	5	8	2	2	5	7	2	-	66	57	44	25	1	39	43	31	29	3
(N=91)	512	42.9	28.6	7.7	5.5	22.0	5.5	8.8	2.2	2.2	5.5	7.7	2.2	0.0	72.5	62.6	48.4	27.5	1.1	42.9	47.3	34.1	31.9	3.3
円明寺	154	44	25	9	2	8	7	12	1	2	40	3	1	3	24	26	75	40	18	78	72	53	21	8
(N=154)	371	28.6	16.2	5.8	1.3	5.2	4.5	7.8	0.6	1.3	26.0	1.9	0.6	1.9	15.6	16.9	48.7	26.0	11.7	50.6	46.8	34.4	13.6	5.2
下植野	24	3	1	2	2	1	-	2	-	-	1	2	-	2	1	2	7	3	3	12	4	10	2	-
(N=24)	250	12.5	4.2	8.3	8.3	4.2	0.0	8.3	0.0	0.0	4.2	8.3	0.0	8.3	4.2	8.3	29.2	12.5	12.5	50.0	16.7	41.7	8.3	0.0

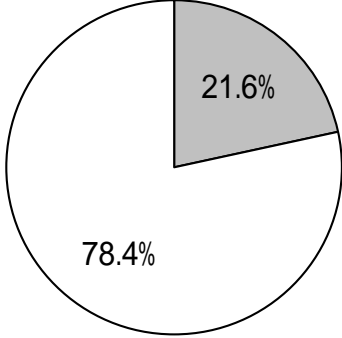
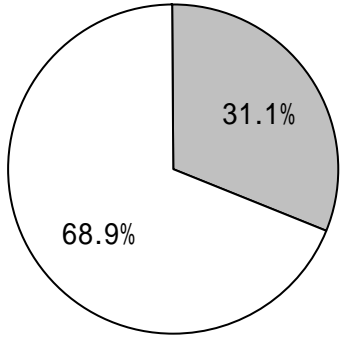
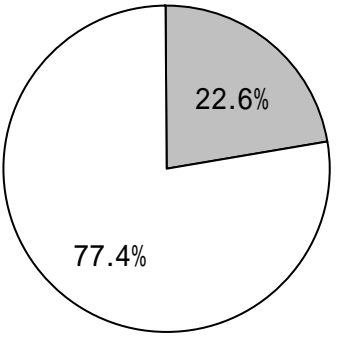
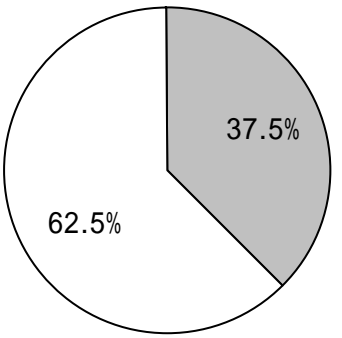
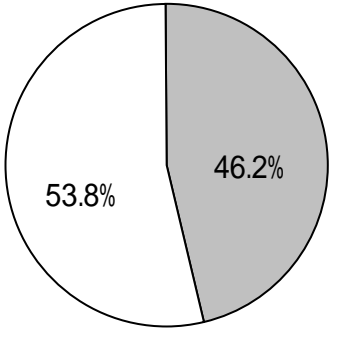
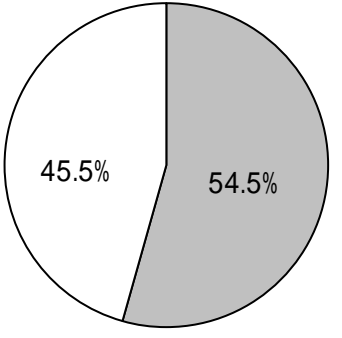
いずれの地区においても、地区の医院・診療所がもっとも多く、次いで、郵便局、近くのスーパー・店舗となっており、近隣生活施設の利用が多くなっている。一方、全町民が利用する可能性のある広域的な生活関連施設では、役場、中央公民館の利用が多くなっている。

地区別×徒歩及び公共交通で利用する施設別 クロス集計結果（身体障害者）

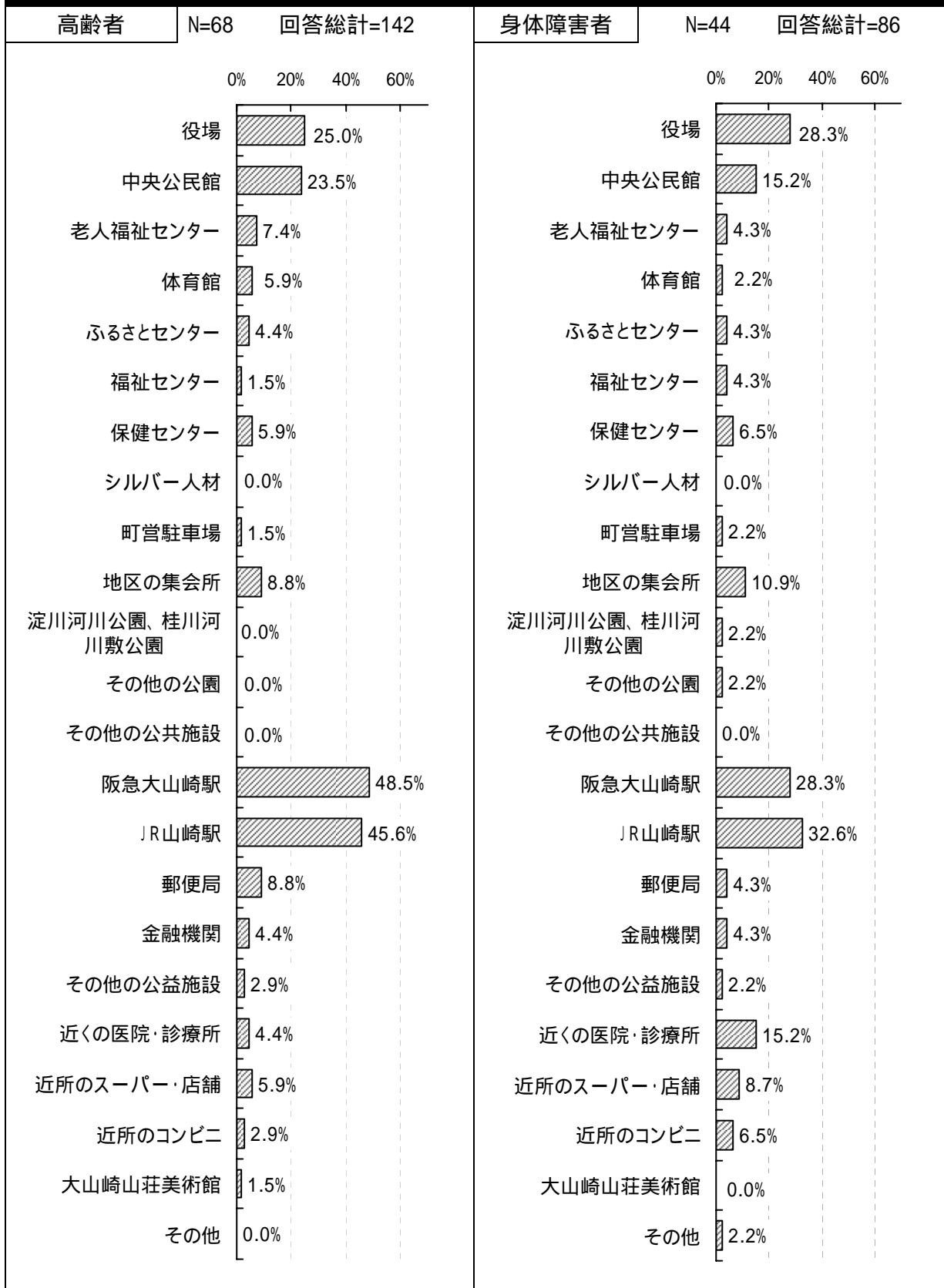
下段:%	合計	役場	中央公民館	老人福祉センター	体育館	ふるさとセンター	福祉センター	保健センター	シルバー人材	町営駐車場	地区の集会所	淀川河川公園、桂川河川敷公園	その他の公園	その他の公共施設	阪急大山崎駅	JR山崎駅	郵便局	金融機関	その他の公益施設	近くの医院・診療所	近所のスーパー・店舗	近所のコンビニ	大山崎山荘美術館	その他
合計	64	12	3	2	1	7	3	3	-	-	12	4	3	1	18	17	38	15	-	27	31	26	8	2
	100	18.8	4.7	3.1	1.6	10.9	4.7	4.7	-	-	18.8	6.3	4.7	1.6	28.1	26.6	59.4	23.4	-	42.2	48.4	40.6	12.5	3.1
大山崎	26	8	3	1	1	6	2	2	-	-	1	3	1	-	17	17	15	9	-	7	14	11	6	1
(N=26)	100	30.8	11.5	3.8	3.8	23.1	7.7	7.7	-	-	3.8	11.5	3.8	-	65.4	65.4	57.7	34.6	-	26.9	53.8	42.3	23.1	3.8
円明寺	34	4	-	1	-	1	1	1	-	-	10	1	2	1	1	-	23	6	-	18	15	14	2	1
(N=34)	100	11.8	-	2.9	-	2.9	2.9	2.9	-	-	29.4	2.9	5.9	2.9	2.9	-	67.6	17.6	-	52.9	44.1	41.2	5.9	2.9
下植野	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	-	-
(N=4)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	25.0	-	-

いずれの地区においても、地区の医院・診療所がもっとも多く、次いで、郵便局、近くのスーパー・店舗となっており、近隣生活施設の利用が多くなっている。一方、全町民が利用する可能性のある広域的な生活関連施設では、役場、中央公民館の利用が多くなっている。

[12-1] 施設に問題があると回答した人数

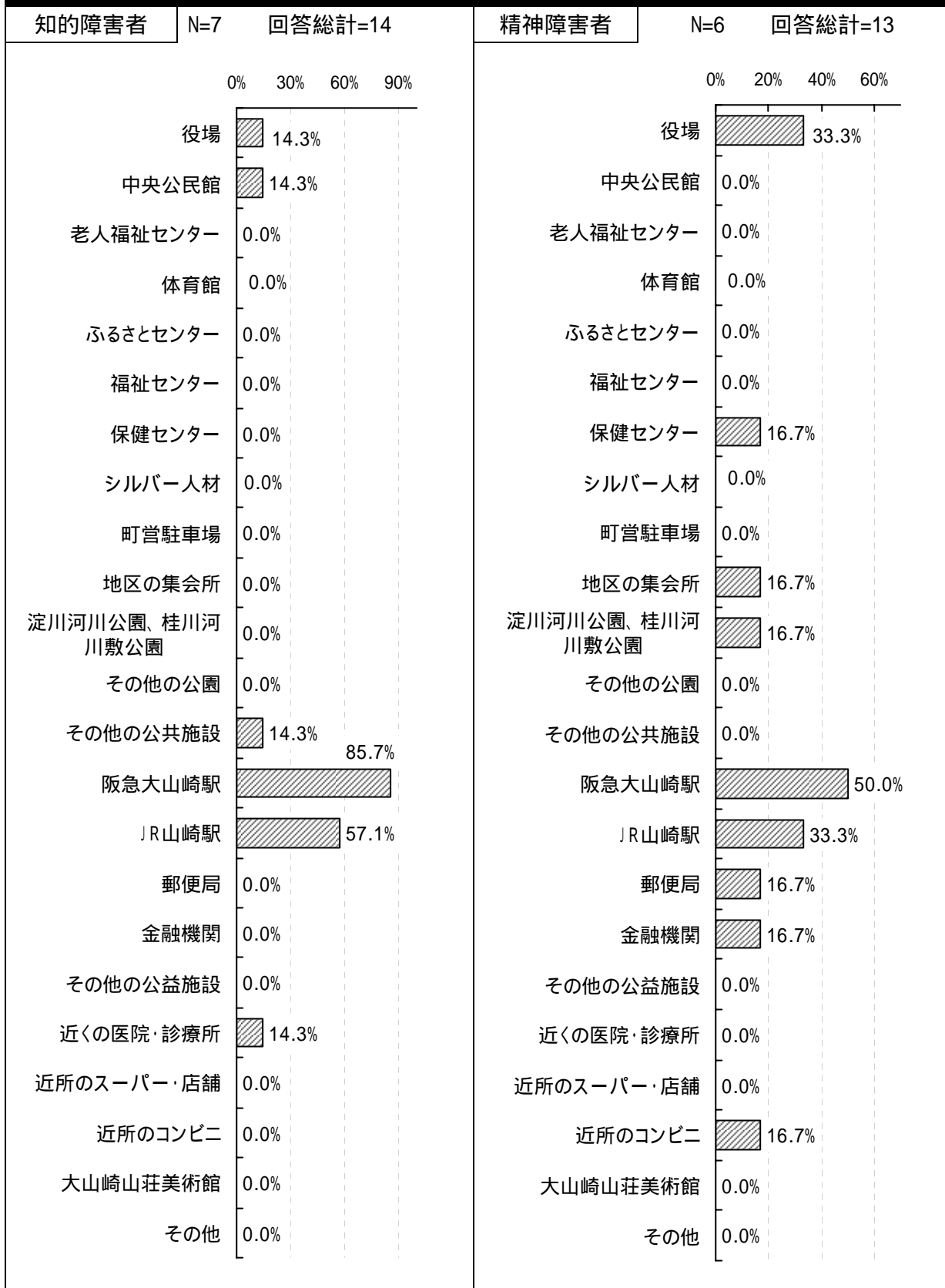
		□ 問題点を指摘した人	□ 無回答
高齢者	N=315		
施設に問題があると指摘した人数：68人		身体障害者	N=148
			
施設に問題があると指摘した人数：46人		知的障害者	N=31
			
施設に問題があると指摘した人数：7人		精神障害者	N=16
			
施設に問題があると指摘した人数：6人		妊産婦	N=52
			
施設に問題があると指摘した人数：24人		子育て親	N=44
			
施設に問題があると指摘した人数：24人		施設に問題点があると指摘した割合は、妊産婦子育て親が最も高く約46%となっている。	

[12-2] 問題があるとされた生活関連施設 (M A)



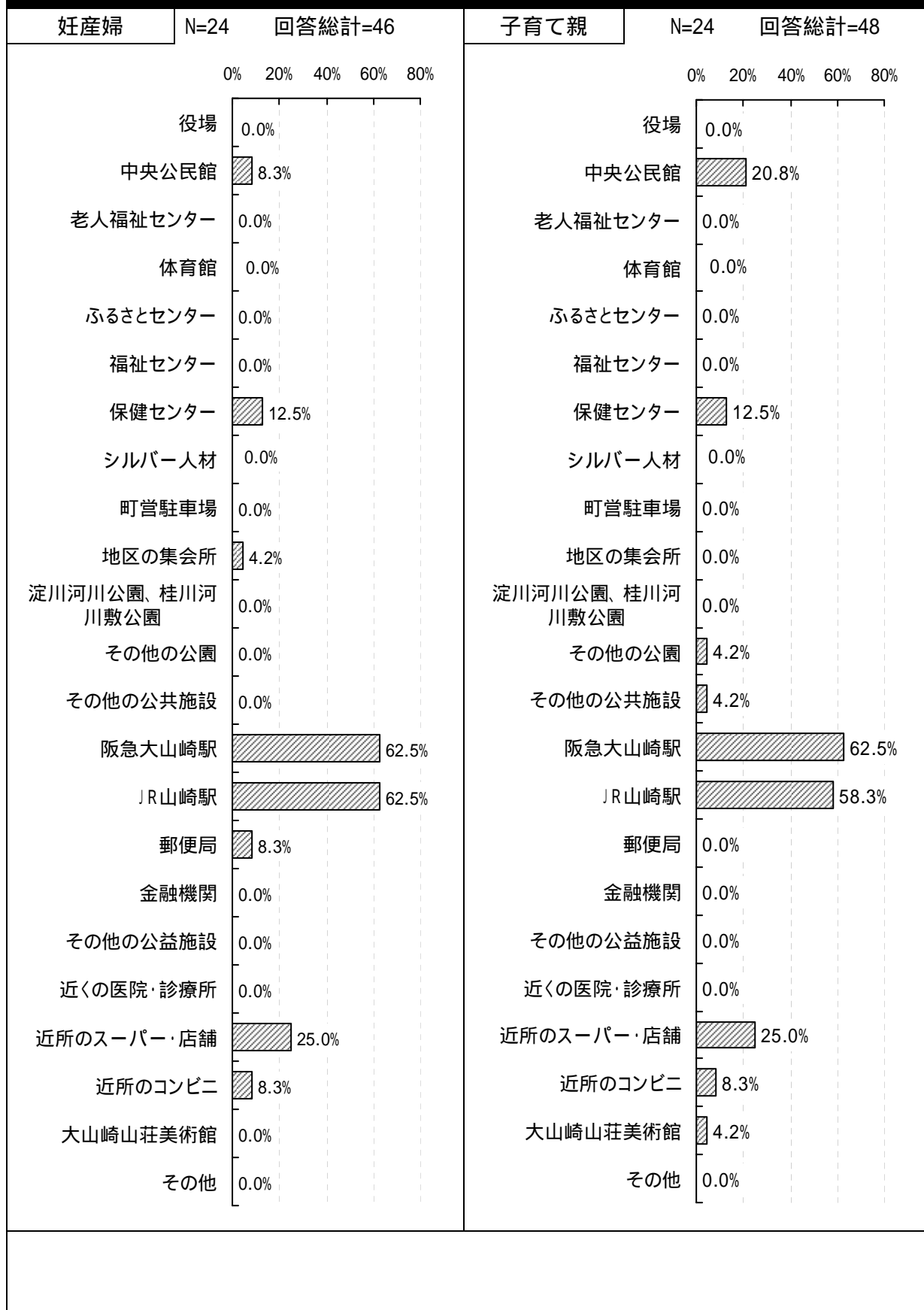
高年齢者、身体障害者のいずれも、駅に対する問題点の指摘が大きくなっている。また、役場や中央公民館の指摘も比較的大きくなっている。

[12-2] 問題があるとされた生活関連施設 (M A)

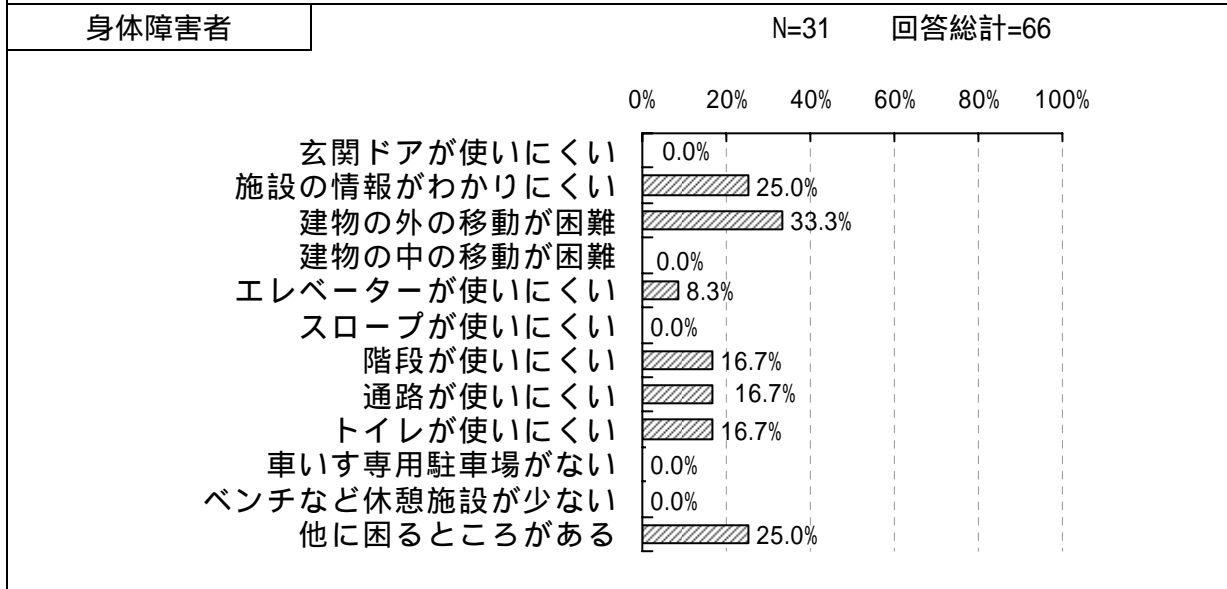
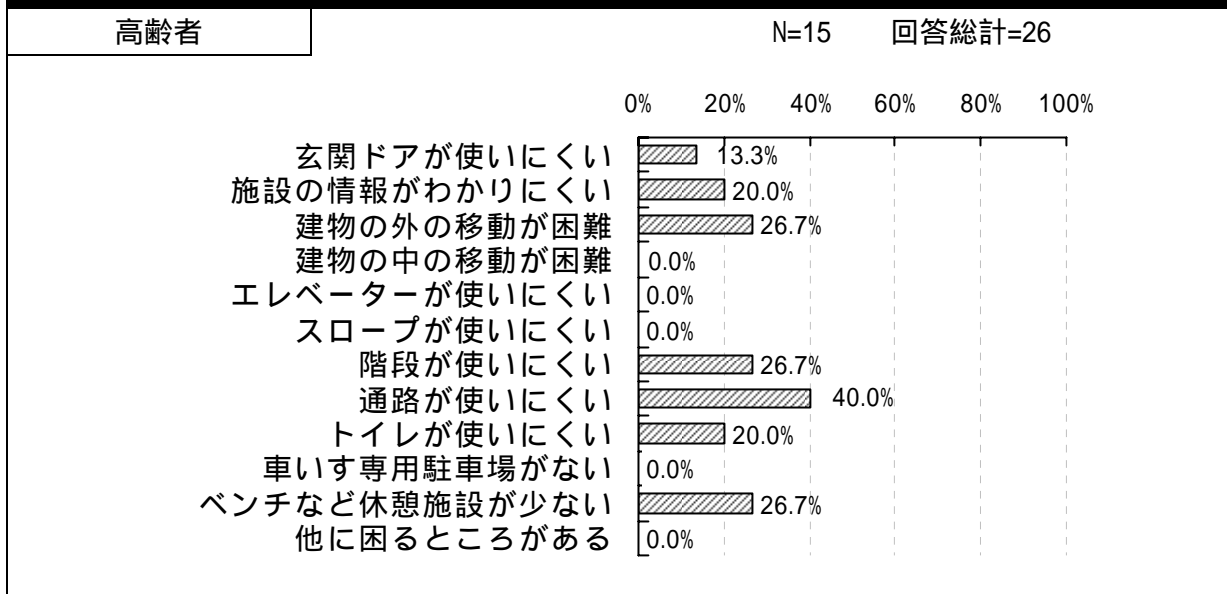


知的障害者、精神障害者のいずれも、阪急大山崎駅が最も大きくなっている。また、JR山崎駅の回答率も高くなっているほか、役場や中央公民館への指摘も見られる。

[12-2] 問題があるとされた生活関連施設 (M A)



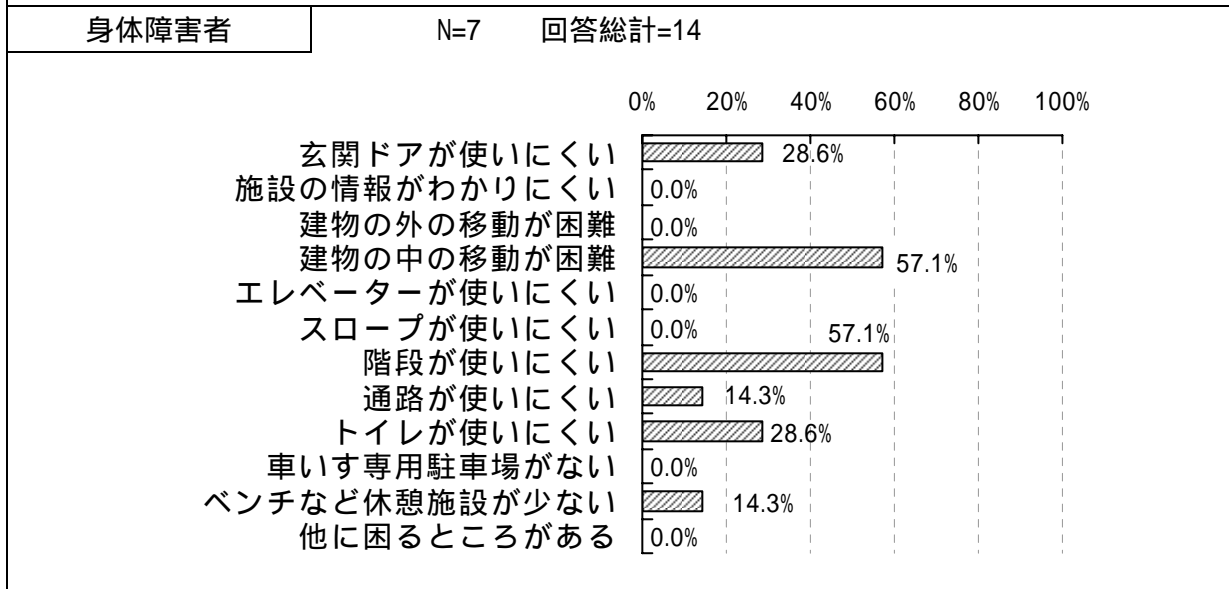
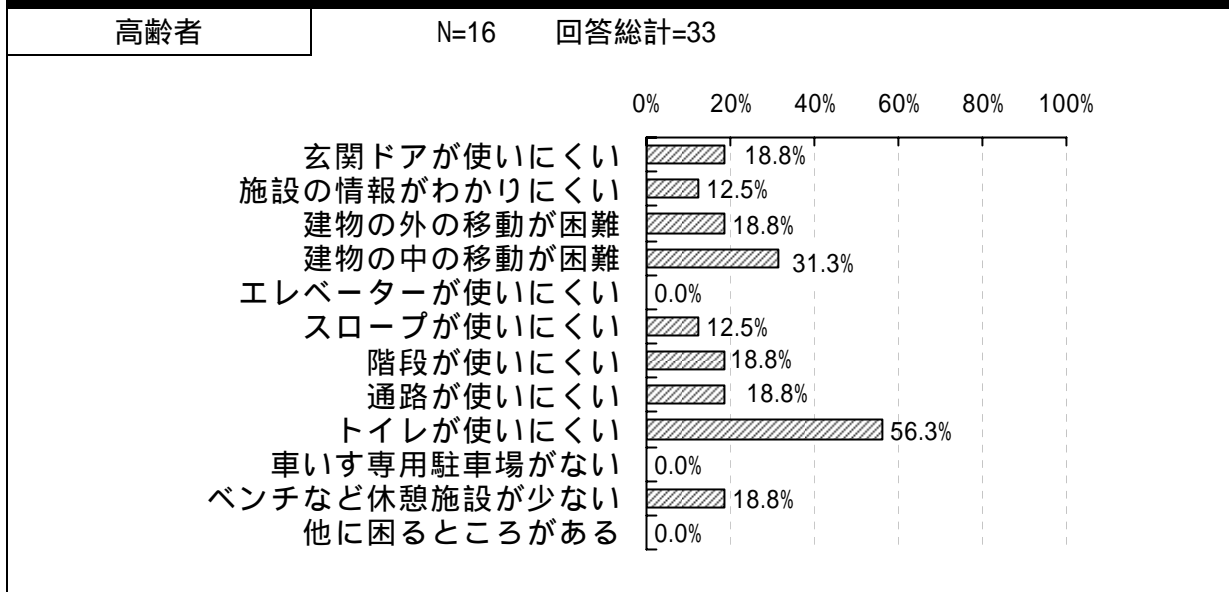
[12-3] 問題とされた施設 役場 (M A) 交通手段を問わず集計



N= 回答総計=

知的障害者は回答者が1名、精神障害者は2名、妊産婦子育て親は0名のため集計は行っていない。

[12-4] 問題とされた施設 中央公民館 (M A) 交通手段を問わず集計



知的障害者

知的障害者は回答者が1名、精神障害者は0名、妊産婦子育て親は2名のため集計は行っていない。

地区別×問題のある施設別 クロス集計結果（高齢者）

下段:%	合計	役場	中央公民館	老人福祉センター	体育館	ふるさとセンター	福祉センター	保健センター	シルバー人材	町営駐車場	地区の集会所	淀川河川公園、桂川河川敷公園	その他の公園	その他の公共施設	阪急大山崎駅	JR山崎駅	郵便局	金融機関	その他の公益施設	近くの医院 診療所	近所のスーパー 店舗	近所のコンビニ	大山崎山荘美術館	その他
合計	67	17	16	5	4	3	1	4	-	1	6	-	-	-	32	30	6	3	2	3	4	2	1	-
	100	25.4	23.9	7.5	6.0	4.5	1.5	6.0	-	1.5	9.0	-	-	-	47.8	44.8	9.0	4.5	3.0	4.5	6.0	3.0	1.5	-
大山崎	29	5	4	1	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	21	19	2	1	1	1	1	1	-	-
(N=29)	100	17.2	13.8	3.4	10.3	-	-	3.4	-	-	3.4	-	-	-	72.4	65.5	6.9	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	-	-
円明寺	37	12	12	4	1	3	1	3	-	1	5	-	-	-	11	11	3	2	1	2	3	1	1	-
(N=37)	100	32.4	32.4	10.8	2.7	8.1	2.7	8.1	-	2.7	13.5	-	-	-	29.7	29.7	8.1	5.4	2.7	5.4	8.1	2.7	2.7	-
下植野	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
(N=1)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-

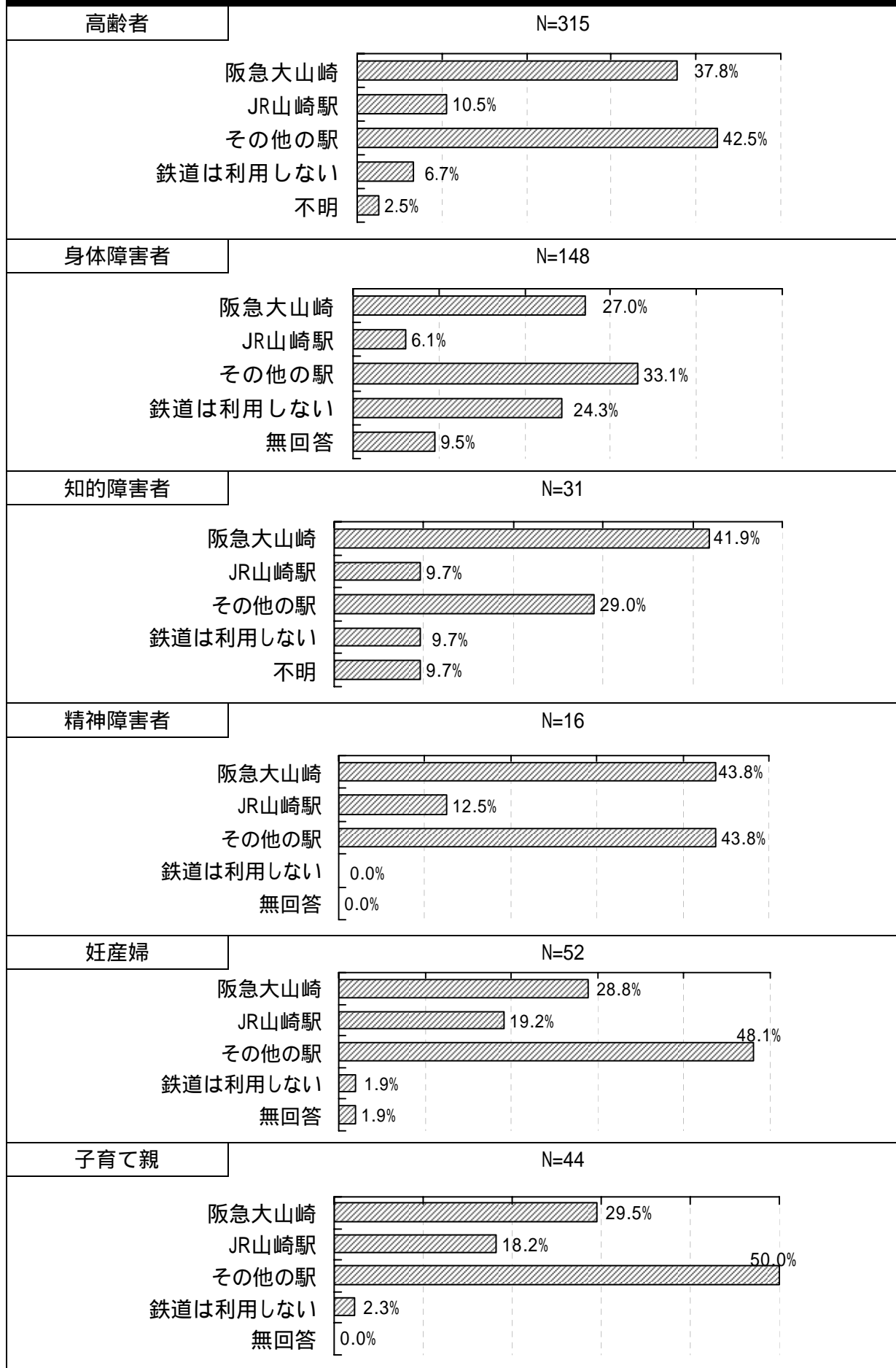
大山崎地区では、駅が1位、2位となっており、円明寺地区では、役場、公民館が1位、駅が2位となっている。

地区別×問題のある施設別 クロス集計結果（身体障害者）

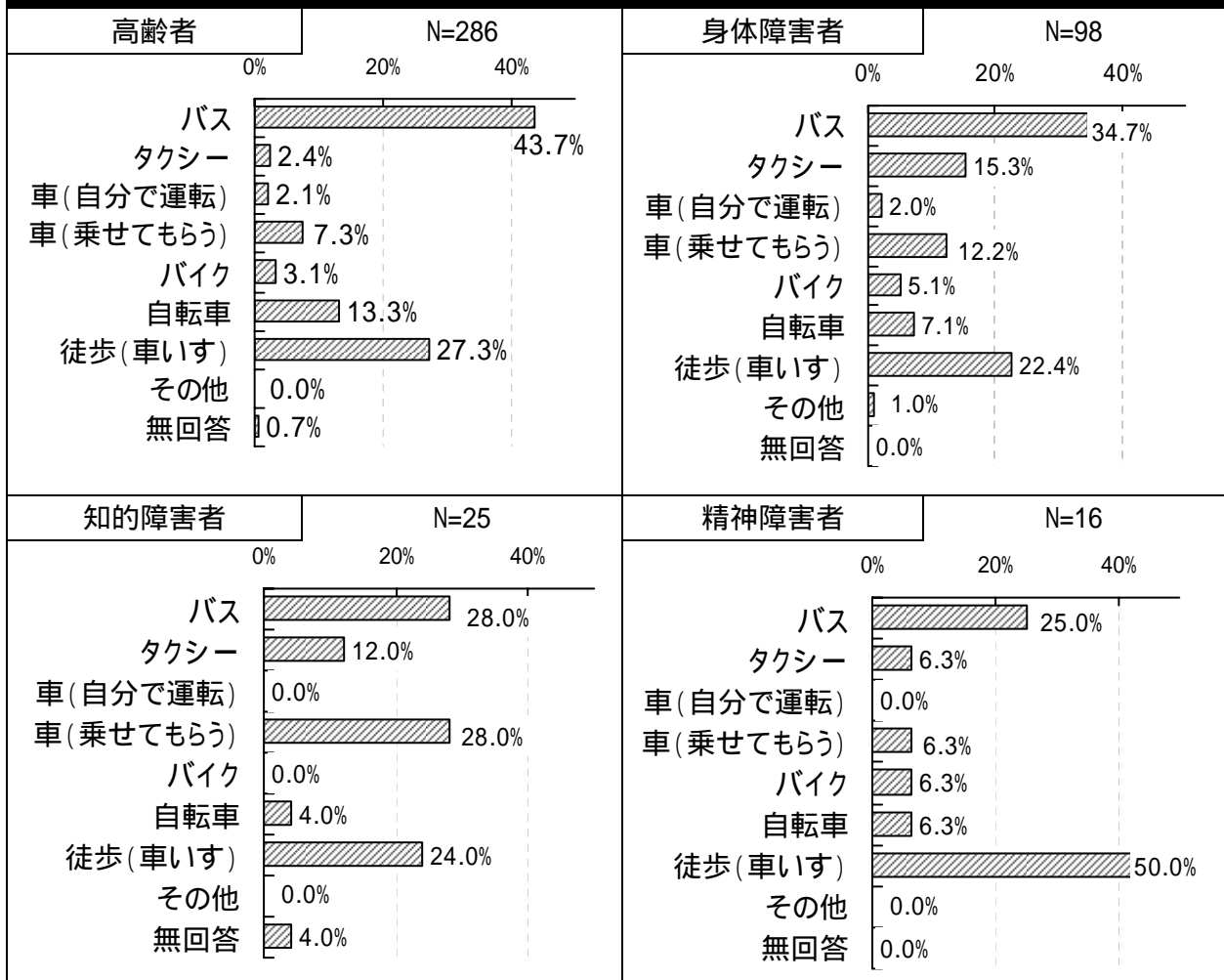
下段:%	合計	役場	中央公民館	老人福祉センター	体育館	ふるさとセンター	福祉センター	保健センター	シルバー人材	町営駐車場	地区の集会所	淀川河川公園、桂川河川敷公園	その他の公園	その他の公共施設	阪急大山崎駅	JR山崎駅	郵便局	金融機関	その他の公益施設	近くの医院 診療所	近所のスーパー 店舗	近所のコンビニ	大山崎山荘美術館	その他
合計	46	13	7	2	1	2	2	3	-	1	5	1	1	-	13	15	2	2	1	7	4	3	-	1
	100	28.3	15.2	4.3	2.2	4.3	4.3	6.5	-	2.2	10.9	2.2	2.2	-	28.3	32.6	4.3	4.3	2.2	15.2	8.7	6.5	-	2.2
大山崎	21	5	3	1	-	1	2	1	-	1	-	1	-	-	11	13	1	-	-	3	2	1	-	1
(N=29)	100	23.8	14.3	4.8	-	4.8	9.5	4.8	-	4.8	-	4.8	-	-	52.4	61.9	4.8	-	-	14.3	9.5	4.8	-	4.8
円明寺	19	6	3	-	1	1	-	2	-	-	5	-	1	-	1	1	-	1	1	3	1	2	-	-
(N=37)	100	31.6	15.8	-	5.3	5.3	-	10.5	-	-	26.3	-	5.3	-	5.3	5.3	-	5.3	5.3	15.8	5.3	10.5	-	-
下植野	6	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	1	1	-	-	-
(N=1)	100	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7	16.7	16.7	-	16.7	16.7	-	-	-

大山崎地区では、駅が1位、2位となっており、円明寺地区では、役場、地区の集会所が1位、駅が2位となっている。

[13] 最もよく利用する鉄道駅 (S A)



[14] 鉄道駅への交通手段 (M A)



高年齢者、身体障害者及び知的障害者ではバスによる鉄道駅利用の割合が大きく、高年齢者で約44%、身体障害者で約35%となっている。また、徒歩による鉄道駅利用の割合も比較的大きく高年齢者では約27%となっている。

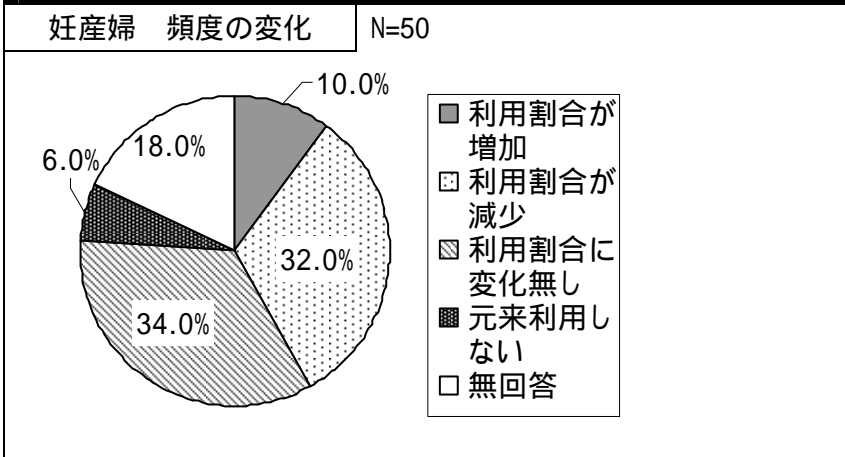
[14-2] 鉄道駅への交通手段クロス集計 (M A)

	合計	バス	タクシー	車(自分で運転)	車(乗せてもらう)	バイク	自転車	徒歩(車いす)	その他
下段:%									
高齢者									
合計	284	125	7	6	21	9	38	78	-
	100%	44.0%	2.5%	2.1%	7.4%	3.2%	13.4%	27.5%	0.0%
阪急大山崎	118	13	4	3	12	1	21	64	-
N=118	100%	11.0%	3.4%	2.5%	10.2%	0.8%	17.8%	54.2%	0.0%
JR 山崎駅	33	9	1	1	4	1	6	11	-
N=33	100%	27.3%	3.0%	3.0%	12.1%	3.0%	18.2%	33.3%	0.0%
長岡天神駅等	133	103	2	2	5	7	11	3	-
N=133	100%	77.4%	1.5%	1.5%	3.8%	5.3%	8.3%	2.3%	0.0%
身体障害者									
合計	98	34	15	2	12	5	7	22	1
	100%	34.7%	15.3%	2.0%	12.2%	5.1%	7.1%	22.4%	1.0%
阪急大山崎	40	5	7	1	3	3	2	19	-
N=40	100%	12.5%	17.5%	2.5%	7.5%	7.5%	5.0%	47.5%	0.0%
JR 山崎駅	9	-	1	1	1	-	3	3	-
N=9	100%	0.0%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
長岡天神駅等	49	29	7	-	8	2	2	-	1
N=49	100%	59.2%	14.3%	0.0%	16.3%	4.1%	4.1%	0.0%	2.0%

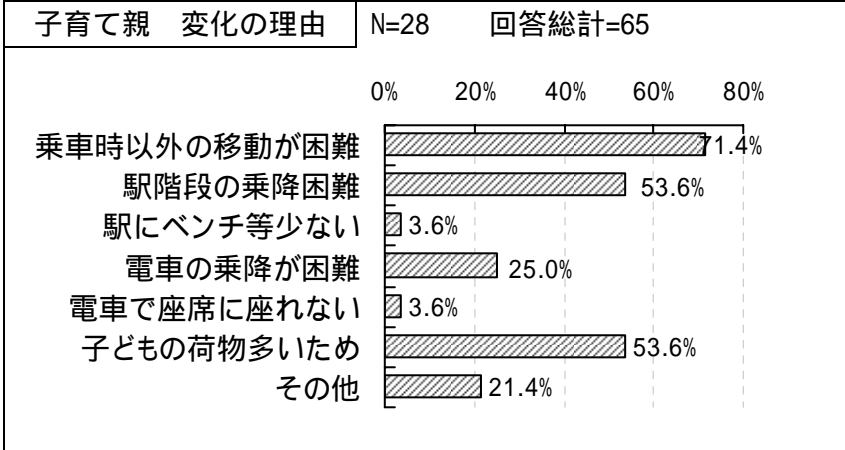
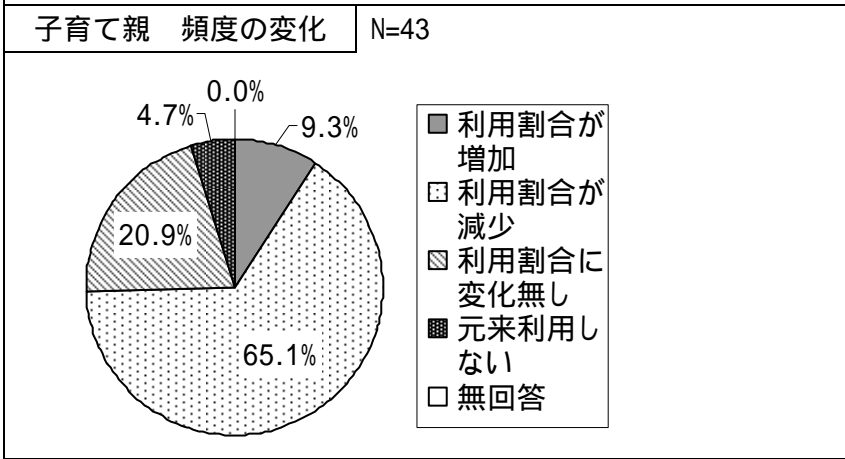
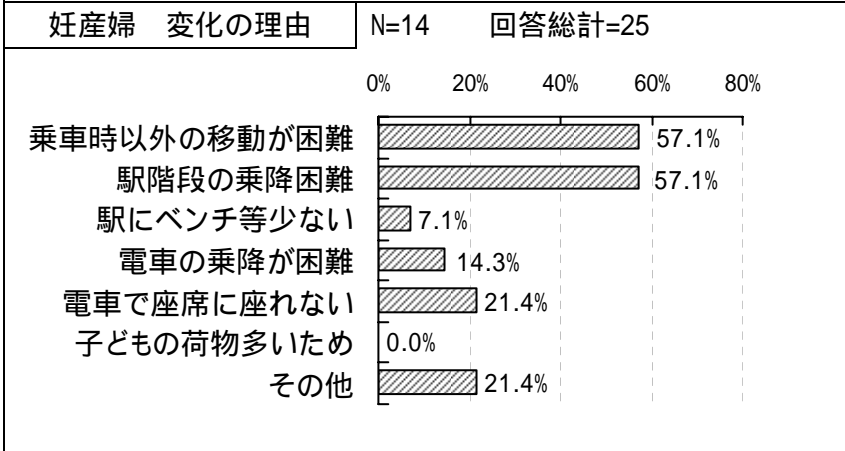
1位 2位

交通手段別のみのデータでは、高齢者、身体障害者ともにバスがもっとも多くなっているが、駅別、手段別でクロス集計では、長岡天神駅、長岡京への利用者でバス利用が多く、阪急山崎駅では徒歩による利用が多くなっている。

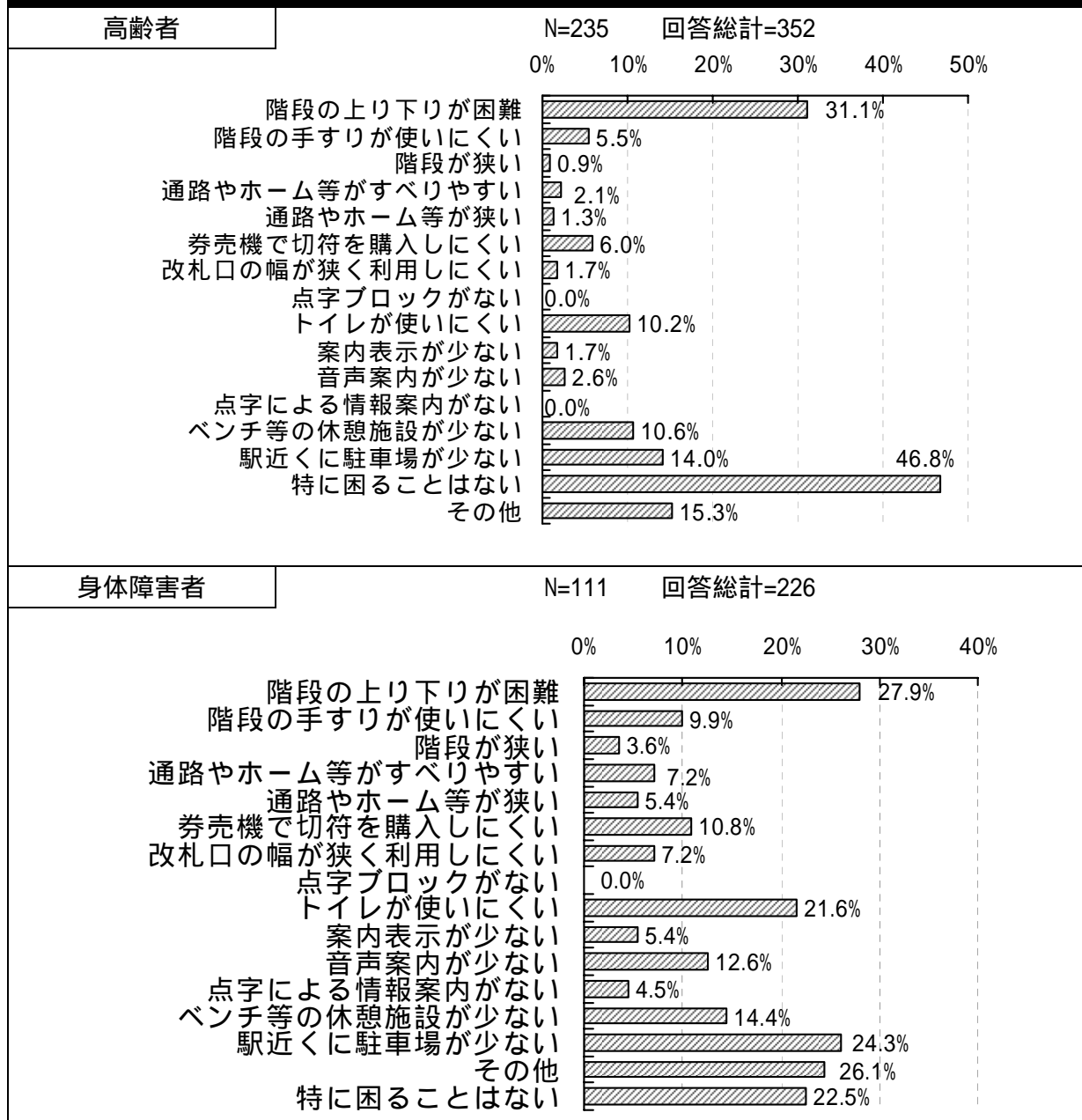
[15] 鉄道駅の利用の頻度の変化とその理由（妊産婦）



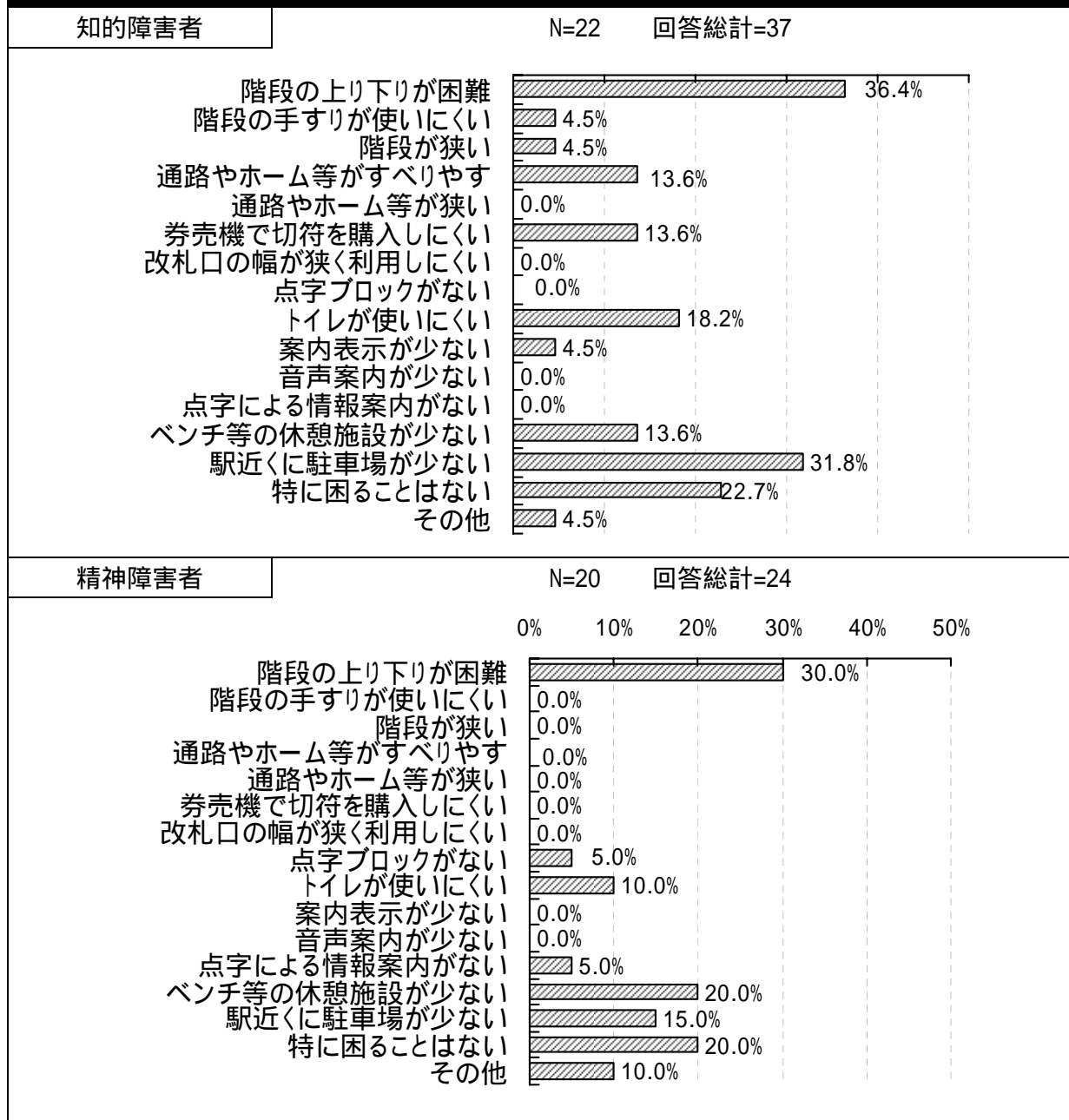
妊産婦で鉄道の「利用割合が減少した」と回答した人は32.0%となっている。また、鉄道の利用が減少した理由として、「乗車時以外の移動が困難」と「駅階段の乗降が困難」と回答した人が57.1%となっている。



[17-1] 鉄道駅を利用する際に困ること (M A)



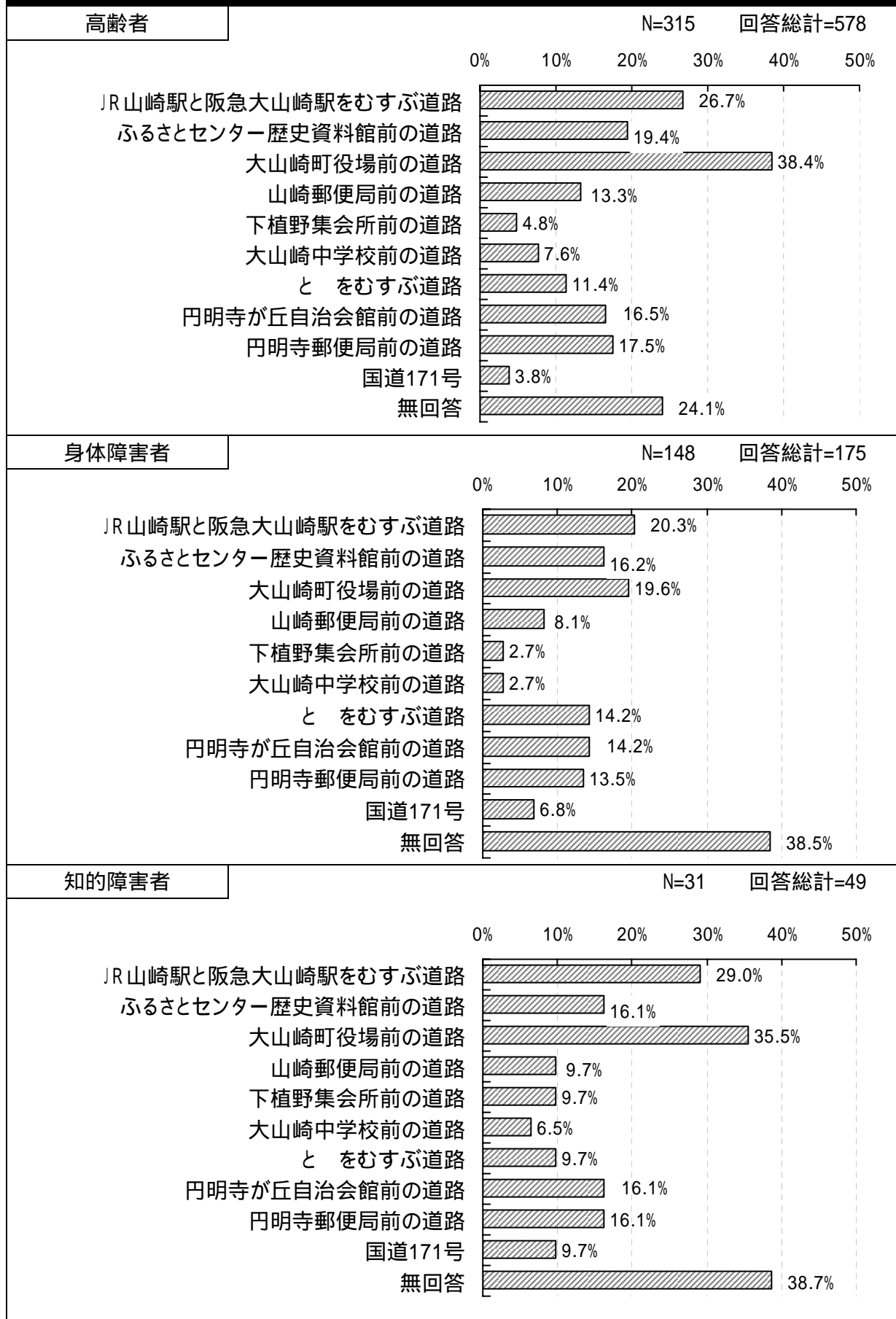
[17-1] 鉄道駅を利用する際に困ること (M A)



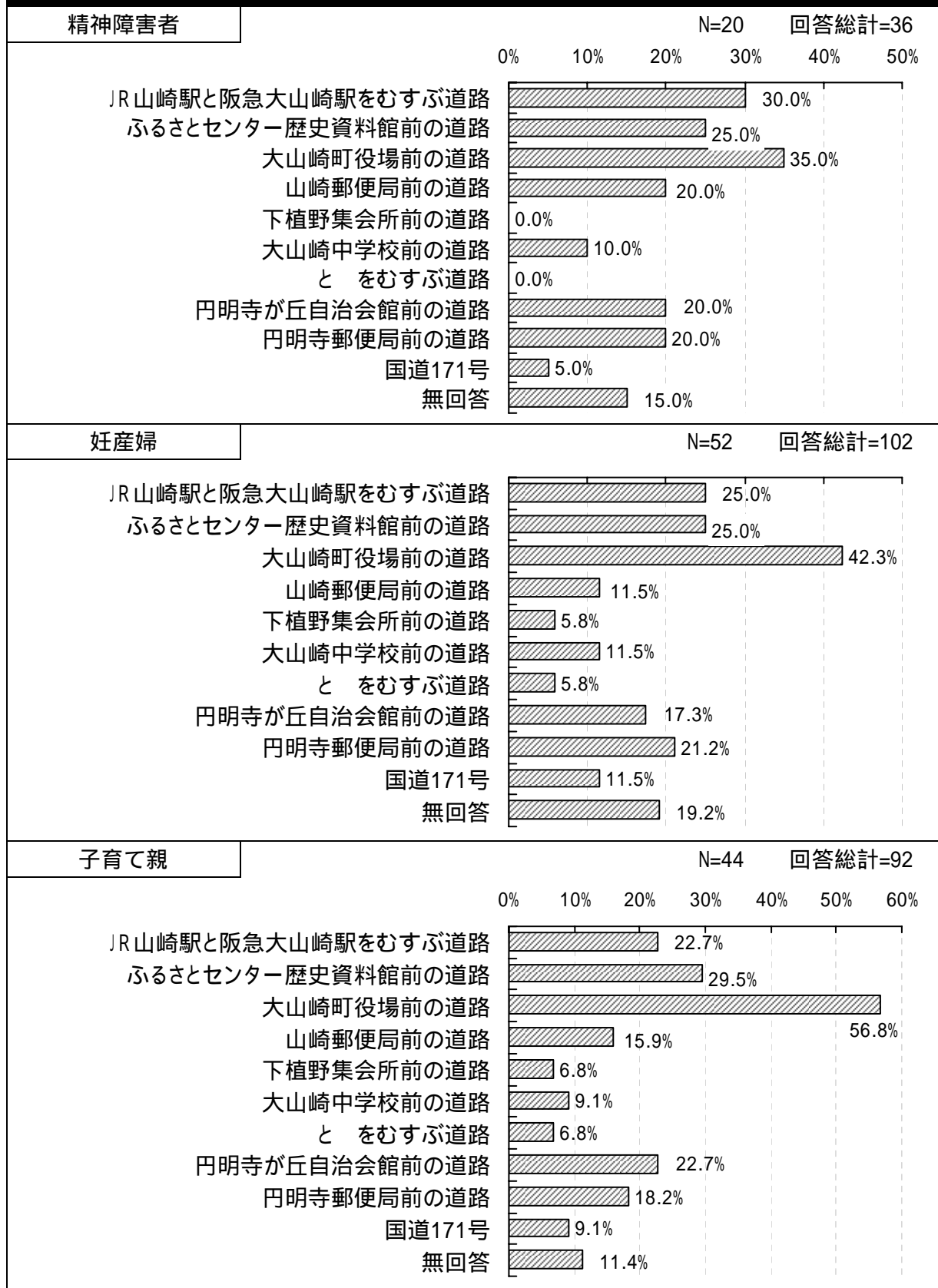
[17-2] 鉄道駅を利用する際に困ること (M A)

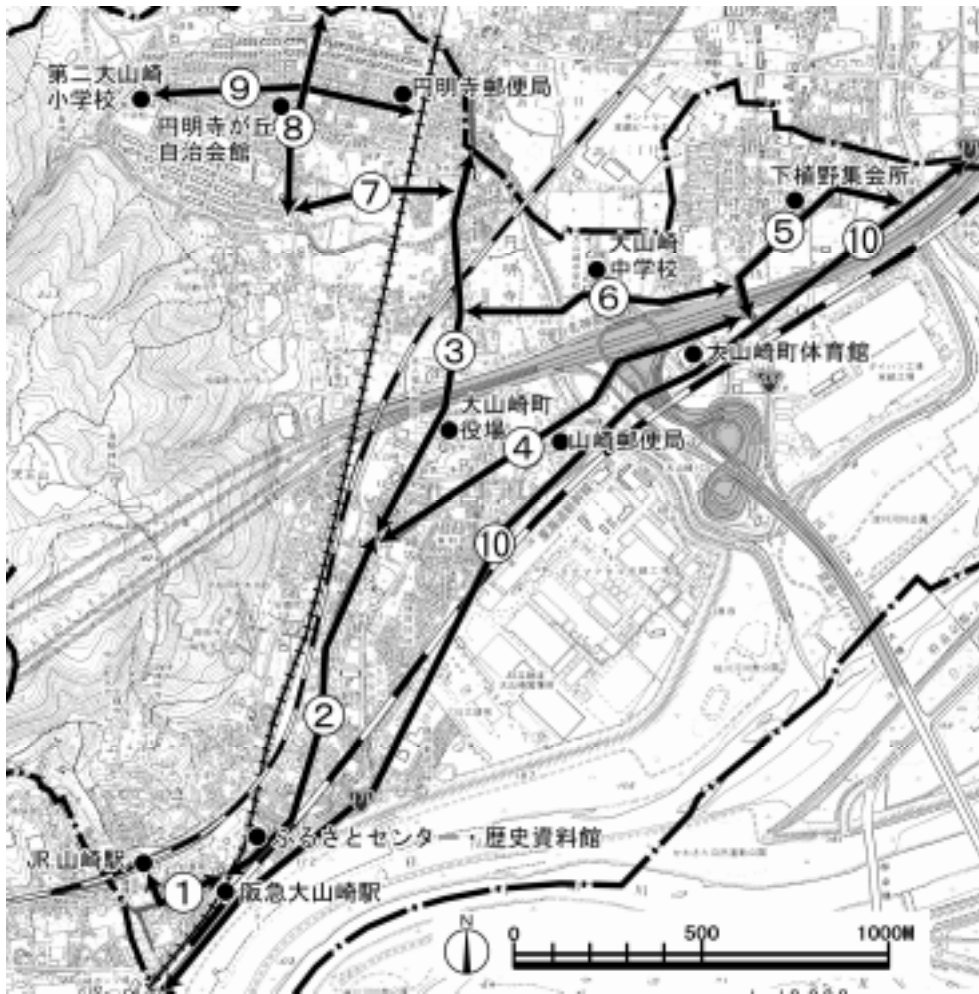
下段:%	合計	階段の上り下りが困難	階段の手すりが使いにくい	階段が狭い	通路やホーム等が滑る	通路やホーム等が狭い	券売機使いにくい	改札口の幅が狭い	点字ブロックがない	トイレが使いにくい	案内表示が少ない	音声案内が少ない	点字による情報案内がない	ベンチ等の休憩施設が少ない	駅近くに駐車場が少ない	
高齢者																
合計	235	73	13	2	5	3	14	4	-	24	4	6	-	25	33	
	150%	31.1%	5.5%	0.9%	2.1%	1.3%	6.0%	1.7%	0.0%	10.2%	1.7%	2.6%	0.0%	10.6%	14.0%	
阪急大山崎駅 (N=105)	105	48	7	1	3	2	5	2	-	9	4	5	-	10	12	
	157%	45.7%	6.7%	1.0%	2.9%	1.9%	4.8%	1.9%	0.0%	8.6%	3.8%	4.8%	0.0%	9.5%	11.4%	
JR山崎駅 (N=27)	27	12	1	-	1	-	2	2	-	7	-	-	-	4	6	
	185%	44.4%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	7.4%	7.4%	0.0%	25.9%	0.0%	0.0%	0.0%	14.8%	22.2%	
長岡天神等 (N=103)	103	13	5	1	1	1	7	-	-	8	-	1	-	11	15	
	133%	12.6%	4.9%	1.0%	1.0%	1.0%	6.8%	0.0%	0.0%	7.8%	0.0%	1.0%	0.0%	10.7%	14.6%	
身体障害者																
合計	93	44	7	1	6	1	6	7	-	12	4	3	-	5	28	
	175%	47.3%	7.5%	1.1%	6.5%	1.1%	6.5%	7.5%	0.0%	12.9%	4.3%	3.2%	0.0%	5.4%	30.1%	
阪急大山崎駅 (N=39)	39	28	4	1	1	-	1	2	-	5	-	-	-	-	10	
	169%	71.8%	10.3%	2.6%	2.6%	0.0%	2.6%	5.1%	0.0%	12.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.6%	
JR山崎駅 (N=9)	9	6	1	-	2	-	1	2	-	1	-	-	-	3	1	
	233%	66.7%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	11.1%	
長岡天神等 (N=45)	45	10	2	-	3	1	4	3	-	6	4	3	-	2	17	
	169%	22.2%	4.4%	0.0%	6.7%	2.2%	8.9%	6.7%	0.0%	13.3%	8.9%	6.7%	0.0%	4.4%	37.8%	

[18-1] よく歩く道路 (M A)

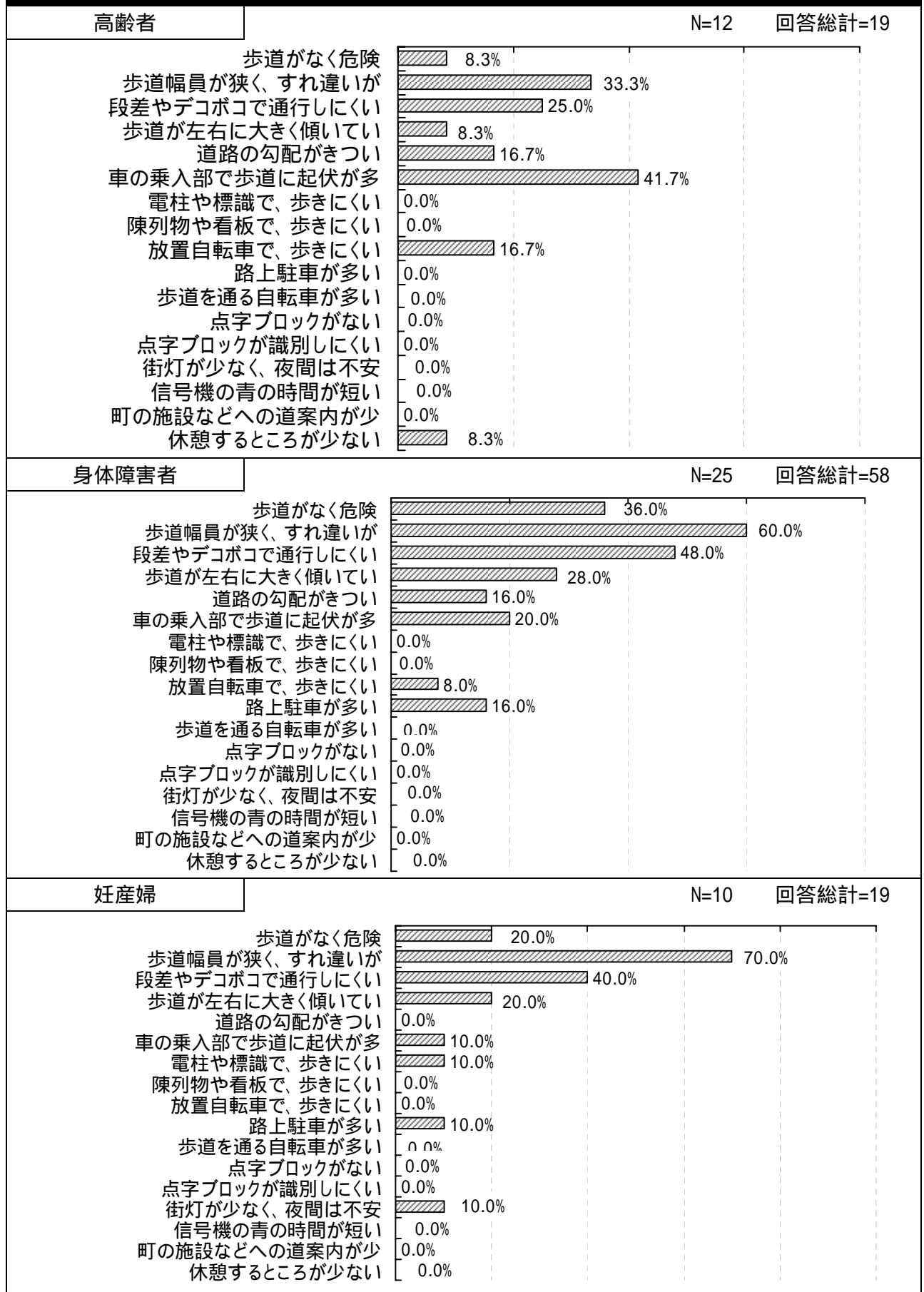


[18-1] よく歩く道路 (M A)

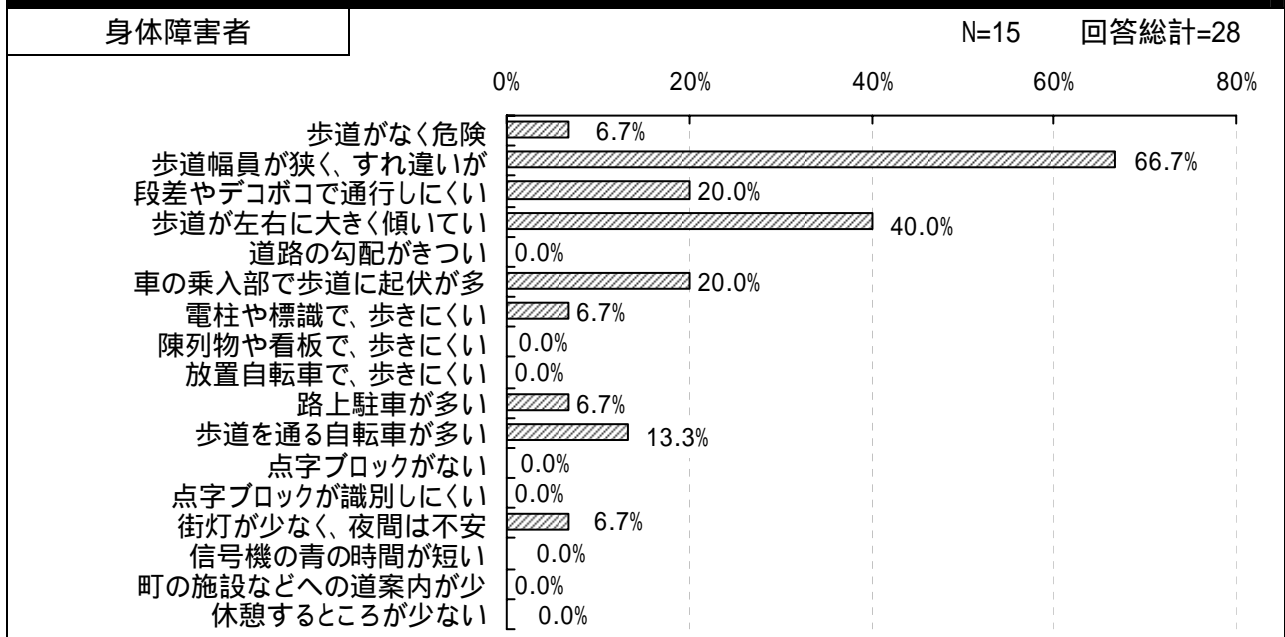




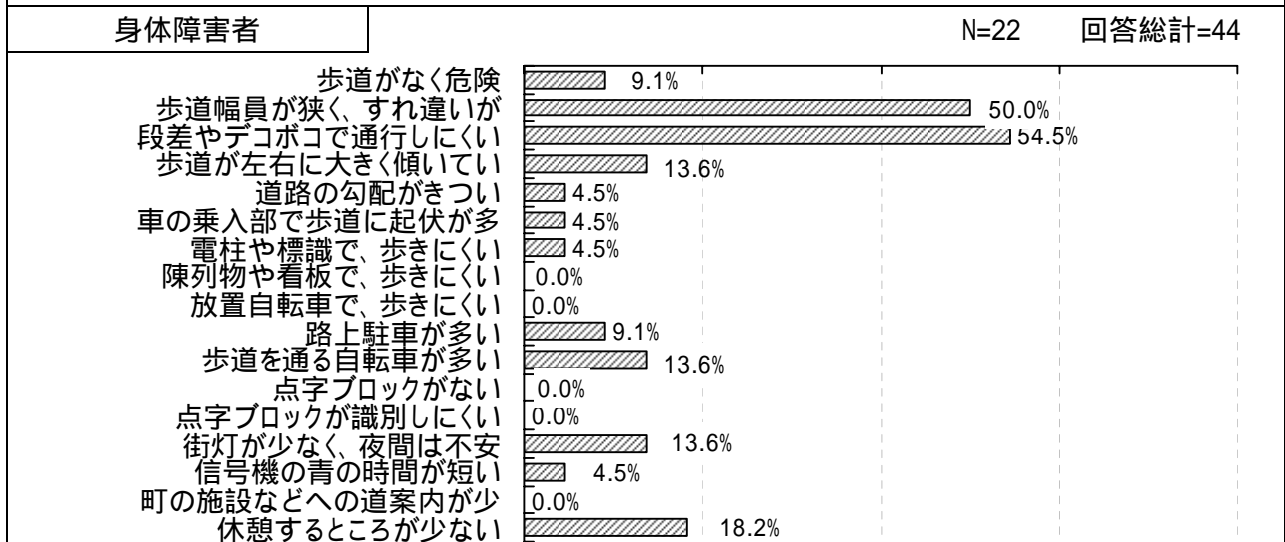
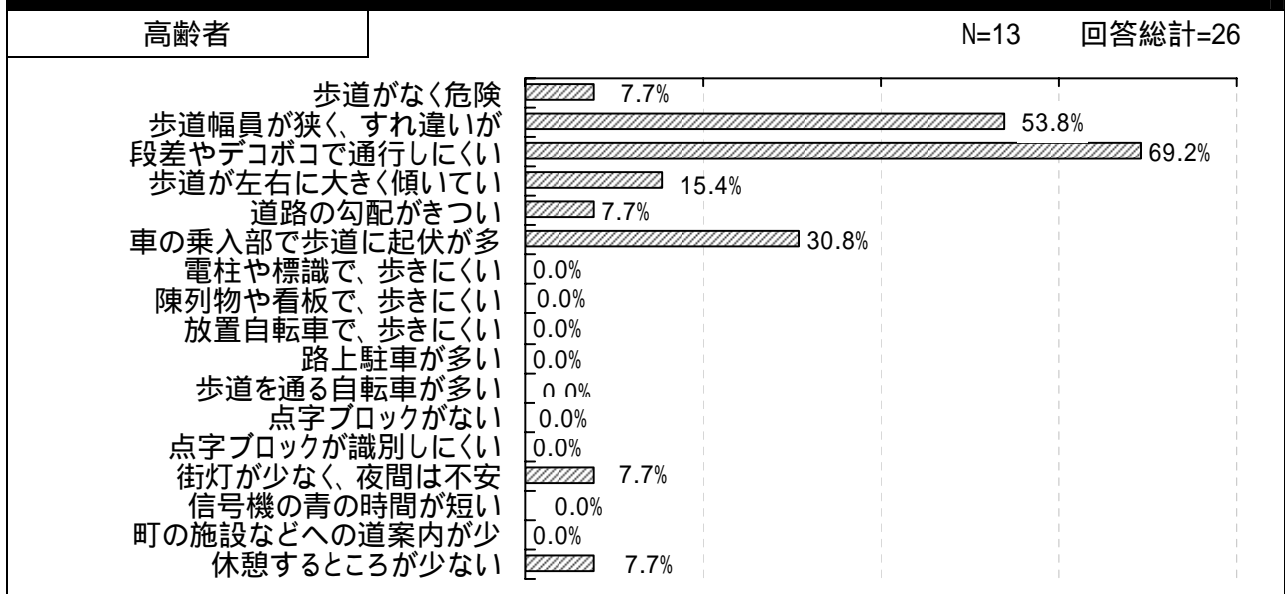
[18-2] の道路を利用する際に困ること (M A) N = 10 以上のみ集計



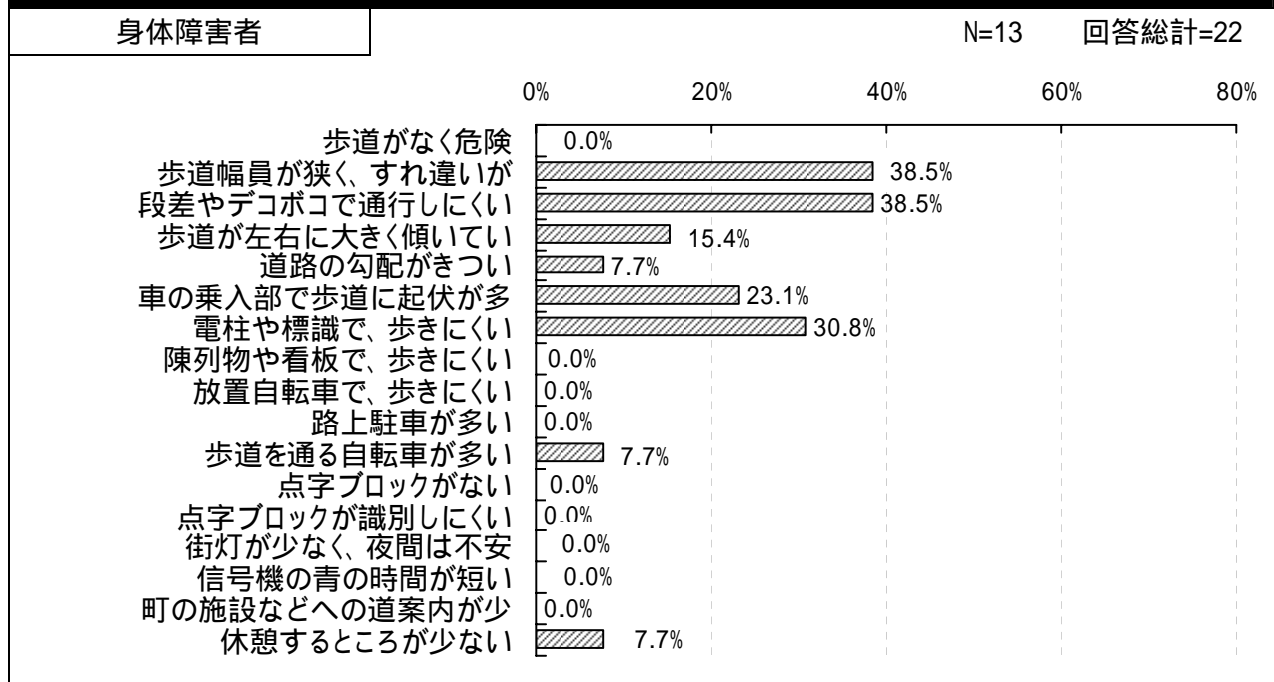
[18-2] の道路を利用する際に困ること (M A) N = 10 以上のみ集計



[18-2] の道路を利用する際に困ること (M A) N = 10 以上のみ集計

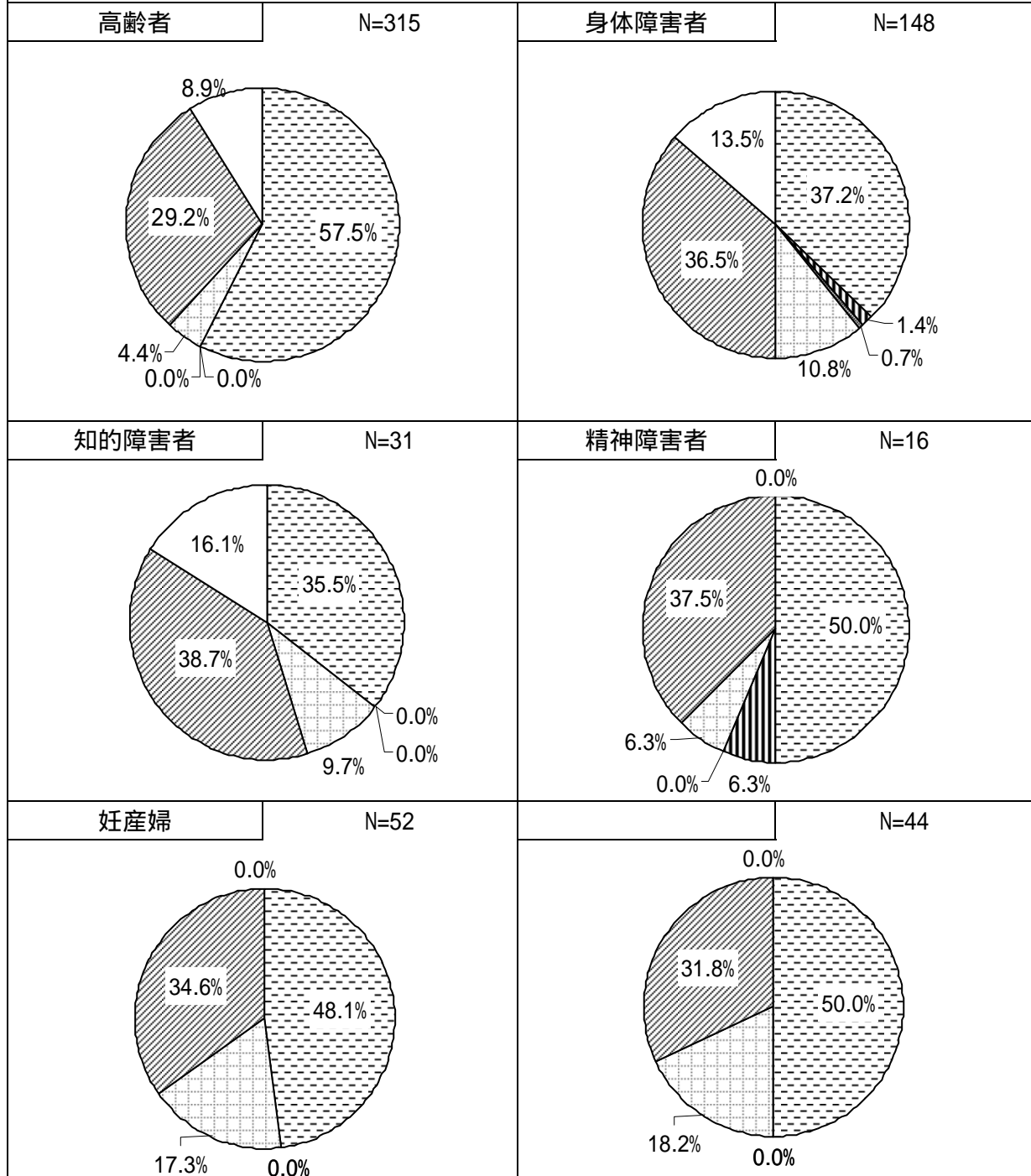


[18-2] の道路を利用する際に困ること (M A) N = 10 以上のみ集計



[19-1] バスの利用状況 (S A)

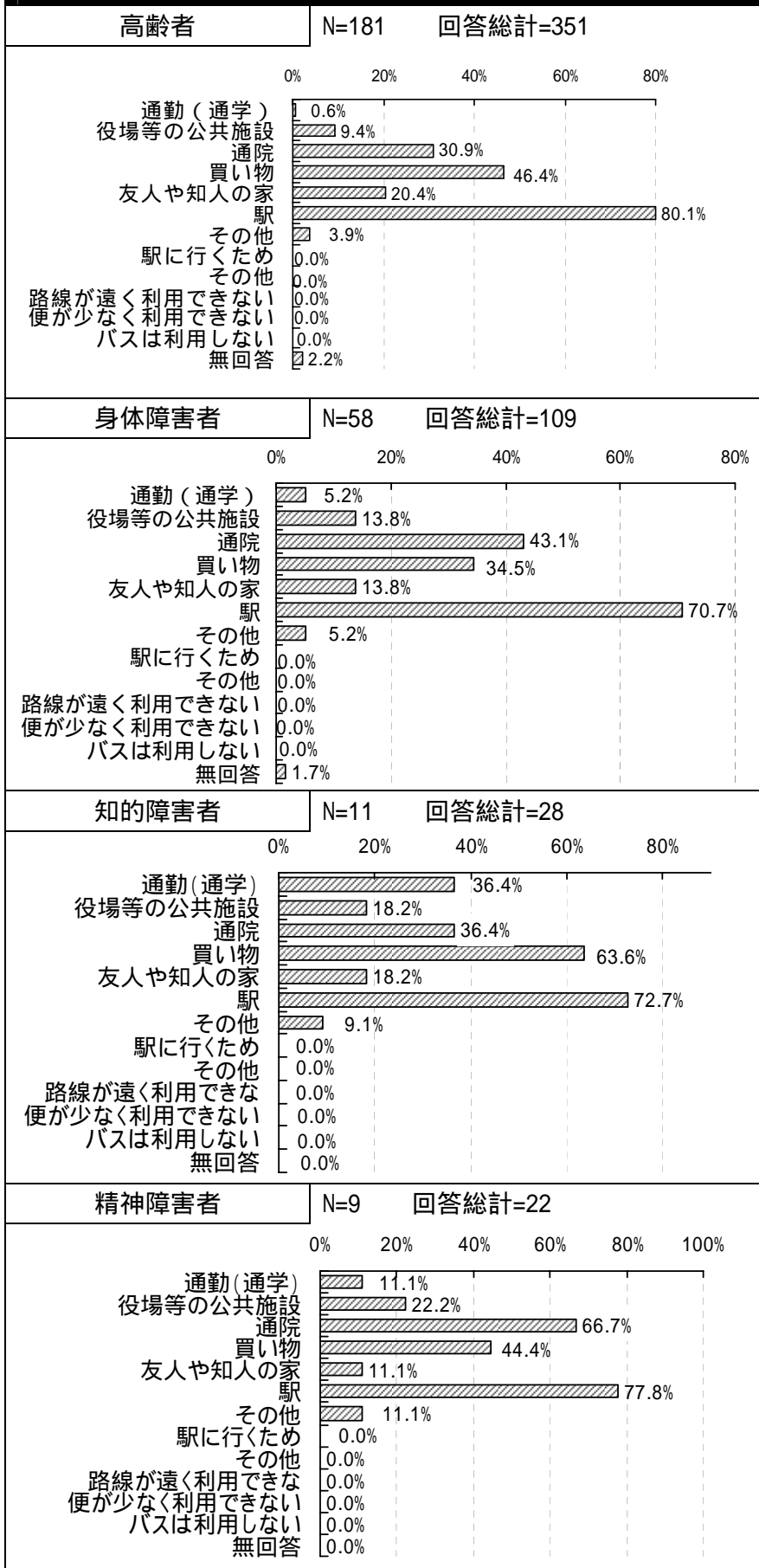
阪急バス
 京阪シティバス
 両方
 バスを利用したいができない
 バスを利用しない
 無回答



バスを利用している人では、阪急バスの割合が大きくなっており、高齢者では約 58% の人が阪急バスを利用している。

「バスを利用したいが利用できない」とした人は妊産婦子育て親が最も多く、約 18% となっている。

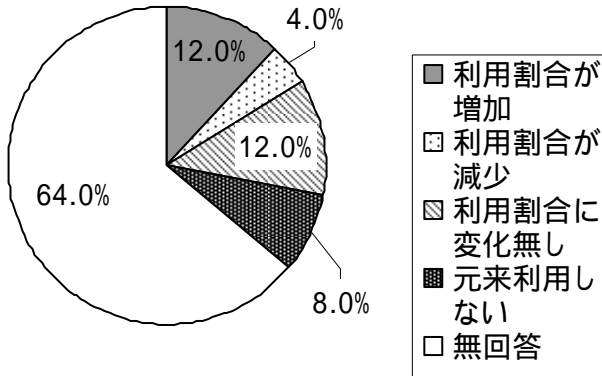
[19] バスの利用目的 (M A)



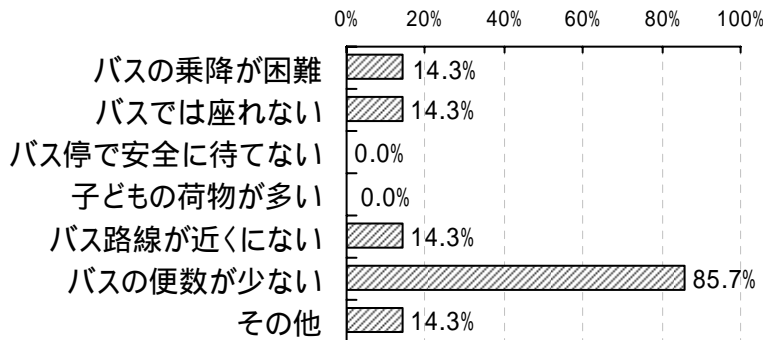
いずれの対象者においても、駅への交通手段として利用するが最も大きくなっている。
 次いで、身体障害者や精神障害者では「通院」が大きくなっており、高齢者と知的障害者では「買い物」が大きくなっている。

[19] バスの利用の頻度の変化とその理由 (妊産婦)

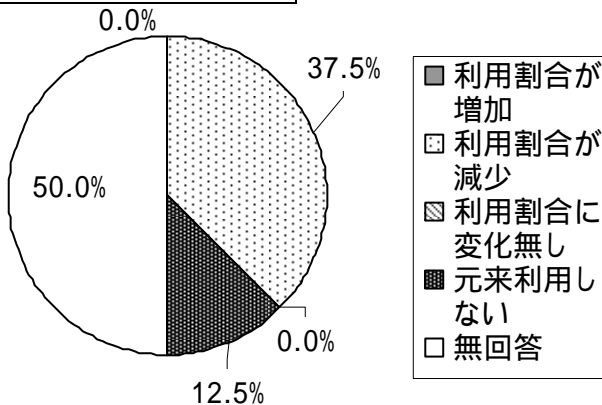
妊産婦 頻度の変化 N=25



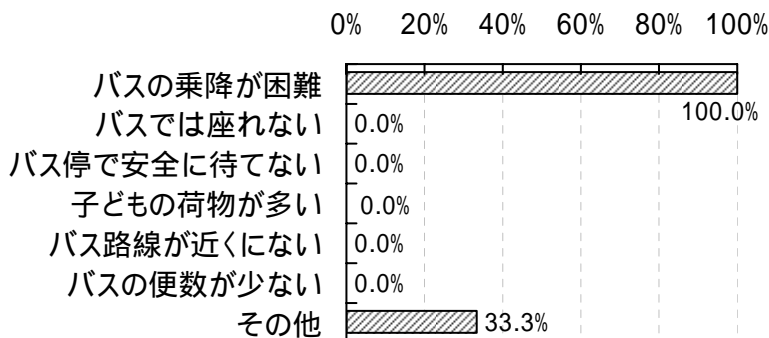
妊産婦 変化の理由 N=17 回答総計=22



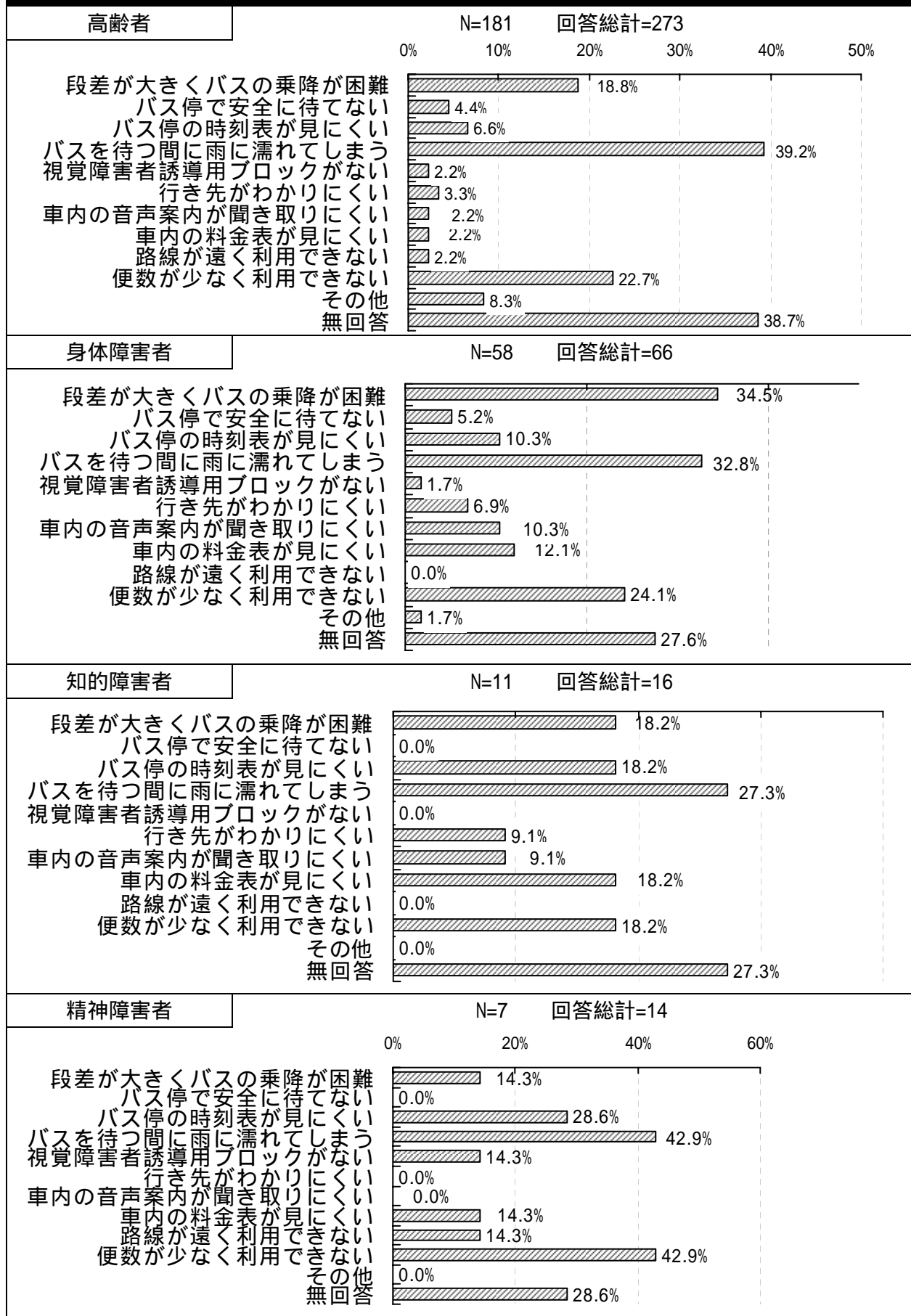
子育て親 頻度の変化 N=8



子育て親 変化の理由 N=3 回答総数=4



[20] バスを利用する際に困ること (M A)



2 ヒアリング調査結果のまとめ

1. ヒアリング調査の概要

事前に行ったアンケート結果を踏まえ、高齢者及び障害者等の公共交通機関の利用状況や、施設の利用状況、道路の問題点等のアンケート結果からは得られにくいより詳細なバリアの状況等について聞き取り調査を行いました。

実施日時	平成 19 年 11 月 14 日（水）10：00～15：00 平成 19 年 11 月 15 日（木）10：00～14：00
実施場所	大山崎町役場
参加団体等	大山崎町長寿会連合会（9名） 大山崎町身体障害者協会（7名） 大山崎町知的障害者育成会（5名） 子育てサークル「どんぐり」（4名）

2. ヒアリング調査結果の概略

建築物・設備の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレに関する意見が多く見られ、洋式化への要望が多くなっています。また、知的障害者ではトイレの設備を統一的なものとしわかりやすい設備の整備が望まれています。 ・役場においては、エレベーターや多機能トイレ等の一定のバリアフリー化がなされていますが、スロープの手すりが片側である等、高齢者、障害者にとって利用しにくい設備もあることが指摘されています。 ・車いす専用駐車場は車いす利用者のみが利用できる施設であるため、肢体不自由などにより歩行困難な人にも利用可能な身体障害者駐車施設の整備が望まれています。
道路・歩道の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・西国街道における歩道幅員の確保や段差や勾配の緩和等についての意見が多く安心して歩ける歩道の整備が強く望まれています。 ・しかし、歩道の拡幅が困難な状況であることは住民にも認識されており、早期には歩道の平坦性の確保や電柱の移設、別ルート確保等現実的な解決も望まれています。 ・歩道が狭い道路であるにもかかわらず、近年、通過交通が増加しており、安全性の確保が強く望まれています。
公共交通の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・阪急大山崎駅では階段の利用が非常に大変であると指摘されており、エレベーターの設置が特に強く望まれています。 ・阪急大山崎駅と JR 山崎駅のアクセス手段としてバスの便数が少なく利用しづらいため、西国街道を通る路線の増便が望まれています。

3. 知的障害者関連団体へのヒアリング結果

日 時	平成 19 年 11 月 14 日 (水) 10 : 00 ~ 11 : 30	場 所	大山崎町役場 3 階中会議室
ヒアリング団体名	大山崎町知的障害者育成会	出 席 者 数	5 名

建築物・設備の問題点について

- ・ トイレの利用が最も困る。多機能トイレなどが設置されているところでも一箇所であることが多く、使用中であれば一般のトイレを利用せざるを得ないが、異性介護となる場合、一般のトイレは非常に利用しづらい。
- ・ トイレ等の設備については統一的な設計や配置とした方がわかりやすく安心して使用できる。例えば、水洗レバーで手をかざすだけで流れるものや、レバーを引くものなど様々なタイプのものがあると知的障害者にはわかりづらいこともある。
- ・ 駅の料金表や路線図といった情報関連設備はひらがな併記としてもらえるとうありがたい。漢字でなくひらがなであれば理解できる人もいるため一人で目的地へ行くための手助けとなる。
- ・ 施設整備等を行う際には、身体的、知能的な側面から検討して、できるだけ誰もが使える水準で整備するとよい。
- ・ 公園等の公衆トイレは、中の状況がわからないためできるだけ利用を避けている。

道路・歩道の問題点について

- ・ 身体障害との重複障害がないのであれば、道路を通行することにバリアを感じるということはありません。
- ・ 知的障害のある息子が一人で外出する場合は、大山崎町は交通安全上不安な道路が多いため、非常に心配である。
- ・ 車道では道路が狭いことにより車両が減速するというメリットもある。歩道でも、広幅員歩道にすると自転車がスピードをだして通行するため危険になることも考えられる。
- ・ 円明寺周辺における西国街道の道路幅員を広げることが難しいというのは理解できるので、交通規制等の検討を行ってはどうか。

公共交通や移動手段について（鉄道・バス等）

- ・ 阪急大山崎駅では駅員一人のみが常駐している状態であり、車いすで利用する場合はあらかじめ連絡しておく必要がある。
- ・ 低床バスでは、乗降口が路面高さとの高低差が小さくなっていることは良いことだが、車両内の後部座席付近で大きな段差がある。前部で座れない場合は後部座席を利用することもあるが、降りるときなど非常に怖い思いをする。以前、急発進により高齢者の方が転倒し頭部をぶつけていたこともある。

心のバリアフリー

- 生垣が大きく張り出し歩行スペースを狭めている。行政側から指導をするか、広報等で啓発をして欲しい。
- 何でも行政頼みとするのではなく、自分たちで取り組めることについては取組んでいく必要がある。
- 電車の乗降口付近で、学生が通学用カバンを無造作に置いたりしていると気づかずにつまづくことがあり危険だ
- 声掛けの仕方が難しい。高齢者や障害者に席を譲るなど手助けしようとしても、冷たく断られたときに立場がない。助ける方も助けられる方もお互いのことを理解し歩み寄ることが重要ではないか。

4. 高齢者関連団体へのヒアリング結果

日 時	平成 19 年 11 月 14 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 00	場 所	大山崎町役場 3 階中会議室
ヒアリング団体名	大山崎町長寿会連合会	出 席 者 数	9 名

建築物・設備の問題点について

- ・トイレはできるだけ洋式にして欲しい。高齢者になるとほとんどの人がしゃがむことが大変になり、足腰の悪い人にはなおさらである。

道路・歩道の問題点について

- ・歩道が車道側に傾斜していると非常に歩きにくい。
- ・円明寺地区の西国街道では、雨の日には歩行者同士で傘が邪魔で離合できない。また、西国街道の車道の東側の開渠に連続してふたをし、車が離合しやすいように道幅を少しでも拡大して欲しい。
- ・道路上に衝突防止用として庭石が置いてあり障害となっている。
- ・インターチェンジができてから通過交通が非常に多くなった。西国街道に面した家では自家用車を道路に出すこともできない。
- ・歩道の整備が最重要課題である。安全で歩きやすい歩道の整備をして欲しい。
- ・すぐに実現するのは難しいと思うが、将来的には電柱を民地へ移設するなどして狭い道路の幅を有効利用して欲しい。
- ・現在、通信会社と電力会社の電柱がそれぞれ道路の両脇にある。共架等の工夫をすることにより道路空間を確保することも考えられる。
- ・狭い歩道であるにもかかわらず、歩行者や自転車との離合が多いため、マウントアップ型になっていると足を踏み外すことがあり大変危険である。柵などを設置して安全性を高めることも考えて欲しい。
- ・円明寺地区の西国街道沿道では建替えが進んでしまった。以前と同じ場所まで民地があるため、今後も道路の幅員が広がることは期待できない。
- ・下植野地区では通過交通が増加し、「通り抜けしないで下さい」との看板を掲示しているが、自ら抜け道を案内していることになり逆効果である。
- ・下植野地区で路上に花壇等を置いて車両が減速されるような取組みをしているが、花壇が交互に配置されているために、花壇の間に路上駐車する人がいる。
- ・歩行者通行量としては、JR 山崎駅から阪急大山崎駅までの利用者が最も多い。道路の形状もかまぼこ型となっている部分があり歩きにくい。
- ・名神横の JR 線を越える跨線橋の活用はできないのか。現在、車道部分が西ゆき 1 車線のみとなっている。

公共交通や移動手段について（鉄道・バス等）

- ・阪急大山崎駅にエレベーターを設置して欲しいとの要望は大きい。JR は比較的階段の段数が少ないが、阪急の階段は本当に大変である。
- ・京阪シティバスの淀行きが発着しており、行き先によっては利用することもある。

- ・ 円明寺団地から長岡京へのバスの便数は1時間に2本程度あるが、円明寺の西国街道を通り長岡京へ行くバスは毎時間ない状況で不便である。
- ・ 町と阪急バスが協力して利便性の高い運営に努めて欲しい。
- ・ 中央公民館や役場を利用する場合には長寿苑のバスを利用する。
- ・ 長寿苑のバスやほとんど使用されていない役場のバスなどをもっと活用して町民の利便性の向上を図って欲しい。
- ・ 長寿苑のバスの運行時間は、サークル活動などとの調整を図った運行システムとして欲しい。

心のバリアフリー

- ・ 大山崎地区の新幹線高架下について、ある場所では高架下の敷地の角をブリキ板で覆っていたため見通しが非常に悪くなっていた。個人的に所有者と交渉し、透明の亚克力板に替えてもらうことができた。一人でも能動的に働きかけていくことで身近なバリアを取り除いていくことができる。
- ・ ムラ社会の崩壊ならぬ町社会の崩壊が進んでいると痛感する。自治会に加入していない人も増加しており地域コミュニティの復権や人づくりの重要性が高まっている。

その他

- ・ 行政の計画はよく計画倒れで終わる。計画を立ててからは事後報告をして欲しい。実際どのようにしてどこまで進んでいるのかを知らせて欲しい。

5. 身体障害者関連団体へのヒアリング結果

日 時	平成 19 年 11 月 15 日 (木) 10:00 ~ 11:30	場 所	大山崎町役場 1 階大会議室
ヒアリング団体名	大山崎町身体障害者協会	出 席 者 数	7 名

建築物・設備の問題点について

- ・ 役場の問題点について、役場の正面玄関にはスロープが設置されているが、手すりが片方に設置されているのみである。スロープは下りが特に怖いので手すりは両側に必要である。また、スロープの斜面の素材が滑りやすく雨の日は特に危険である。
- ・ 公民館裏の駐車場に駐車し、役場玄関に向かうには上り坂となっており、足の悪い者には不便である。
- ・ 歩行に支障があるため、駅までは自家用車による移動が多い。阪急駅周辺に身体障害者が停車できる駐車場スペースが欲しい。ふるさとセンターにはあるが、利用者のみが駐車できるものなので不便を感じている。
- ・ 大山崎の公衆トイレはどこにあるのか。利用しようとしてもどこにあるのか良く知らない。また、中央公民館にも洋式トイレがあると聞いているがどこにあるのかわからない。

道路・歩道の問題点について

- ・ 歩道が車道側に傾斜していると非常に歩きにくい。
- ・ 歩道が狭いため、歩行者が離合する際には、危険とはわかっているが歩道から降りざるを得ない。

公共交通や移動手段について（鉄道・バス等）

- ・ 大山崎駅へのバスが非常に少ない。歩かなければならないことが多いが、狭い歩道を長距離歩くことは非常に大変である。自転車には乗れるが、自転車で西国街道を走行するのは本当に怖いので乗っていない。バスの便数を増やすなど努めて欲しい。
- ・ 目的地の都合上、阪急電車を利用したいが階段の段数が多いことから JR を利用している。車いす利用では駅員にお願いせねばならず、エレベーター等があれば気軽に出かけることができる。
- ・ 長寿苑のバスは以前よりもきめ細かな運行経路になって、円明寺団地の人々の利便性は高まった。
- ・ バスの運行時間を見直してもらい、片道でも利用できるようなれば大変助かる。帰りはタクシーで帰るなどの選択肢が広がる。

心のバリアフリー

- ・ 阪急大山崎駅前がよく駐停車している。車が駐停車していると車両の陰から人が飛び出し本当に危険な目に遭う。
- ・ JR 山崎駅では駅員が 2 人待機しているので、予約なしに利用できるのが大変助かる。また、接遇も非常に親切できめ細かい配慮があり気持ちよく利用している。

6.子育て関連団体へのヒアリング結果

日 時	平成 19 年 11 月 15 日 (木) 13:00 ~ 14:00	場 所	大山崎町役場 3 階中会議室
ヒアリング団体名	子育てサークル「どんぐり」	出 席 者 数	4 名

建築物・設備の問題点について

- ・公園や建築物でも最近はスロープを設置してくれており大変助かる。しかし、一部の施設の整備で終わっているなどの問題もある。
- ・子連れの人がよく利用する保健センターでは、大きな問題点は感じられない。ハード的な問題というよりは、接遇などのソフト的な問題が大きいと感じる。

道路・歩道の問題点について

- ・側溝にあるグレーチングの目が粗いと、ベビーカーの車輪がはまり大変な目にあう。歩道が設置されていない道路では、車輪がはまって抜け出せないと車にひかれそうにもなる。
- ・ベビーカー利用時にはバリアを強く感じる。歩道が斜めになっていると、車道側へ出てしまいそうになるし、歩道が連続していないため安心して歩けない。ベビーカーを押しながら安全に歩ける連続した歩道が欲しい。
- ・西国街道はとにかく危ないところ。今に始まったことではないので、何とかして欲しい。

公共交通や移動手段について（鉄道・バス等）

- ・妊娠時には自分での運転は控えるため、家族による送迎や公共交通を利用した外出が増える。
- ・下植野ではバス路線がなく、駅へのアクセスが不便である。そのため、ほとんどは自家用車による移動で、自家用車にすると駐車場の利便性等から長岡京を利用することが多い。
- ・円明寺地区の人が、大山崎駅から電車を利用したいと思っても、山崎方面へはバスの便数が少なく行きづらい。

その他

- ・近隣公園レベルではなく、町全体の人を利用できる比較的大きな公園があるとよい。狭い公園では地域性が強く排他的になってしまっており、誰もが使いやすい状況とはいえない。
- ・町にある公園のイメージはやや暗いイメージがあり、活気のある公園が見られない。活気のある公園づくりにより交流機会が増え、情報の共有やうるおいのある生活が得られるのではないか。
- ・保育サービスもさることながら、町の行政サービスを把握できていない。もっと情報を積極的に発信してもらえるとありがたい。

3 重点整備地区及び生活関連施設、生活関連経路の選定

(1) 重点整備地区選定の要件

バリアフリー化の整備にあたっては、バリアフリー化された経路や施設における連続性や一体性の確保が重要な課題となります。そのため、移動等円滑化基本構想を作成する際には重点整備地区の要件に合った重点整備地区の位置及び区域について定めるものとしており、次のような要件を満たす区域について定めます。

【重点整備地区の選定要件】

配置要件

「生活関連施設の所在地を含み、かつ、生活関連施設相互間の移動が通常徒歩で行われる地区であること。」(法第2条第21号イ)

生活関連施設が徒歩圏内に集積している地区
 地区全体の面積がおおむね400ha(半径約1.12km円の圏域)未満
 生活関連施設のうち特定旅客施設や官公庁施設、福祉施設等の特別特定建築物に該当するものがおおむね3以上所在すること
 これらの施設を利用する相当数の高齢者、障害者等により、これら施設相互間の移動が徒歩で行われると見込まれること 等

課題要件

「生活関連施設及び生活関連経路を構成する一般交通用施設(道路、駅前広場、通路その他一般交通の用に供する施設をいう。)について移動等円滑化のための事業が実施されることが特に必要であると認められる地区であること。」(法第2条第21号ロ)

高齢者、障害者等の徒歩若しくは車いすによる移動又は施設の利用状況
 土地利用や諸機能の集積の実体及び将来の方向性
 想定される事業の実施範囲等の観点から総合的に判断される地区 等

効果要件

「当該地区において移動等円滑化のための事業を重点的かつ一体的に実施することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切であると認められる地区であること。」(法第2条第21号ハ)

勤労の場を提供する機能など都市が有する様々な機能の増進(交流と社会参加、消費生活の場、勤労機会の提供)
 各事業の整合性を確保して実施されることについて、実施可能性や集中的・効果的な事業実施の可能性 等

(2) 生活関連施設及び生活関連経路について

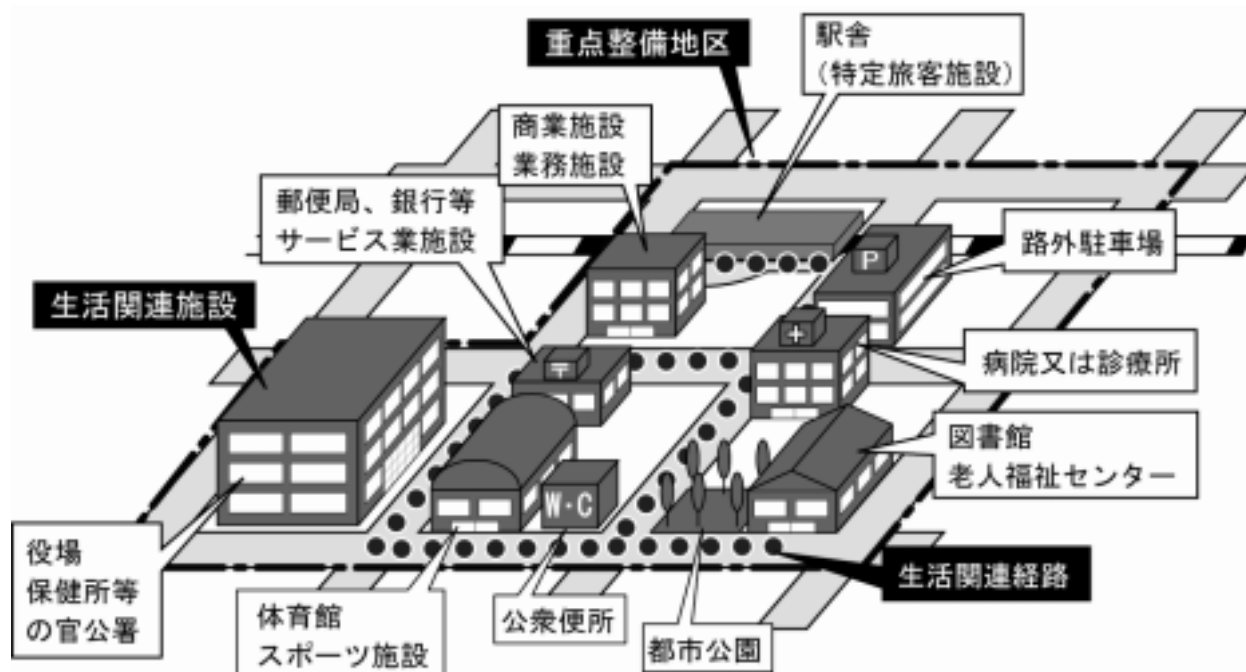
生活関連施設

生活関連施設とは、「高齢者、障害者等日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設、その他の施設」のことであり、該当する施設は、町内において駅、役場、福祉センター等、多数所在しています。これらの施設は、基本構想において生活関連施設として定められることにより、特定事業またはその他の事業として、バリアフリー化が図られることとなります。しかし、該当する施設の全てを生活関連施設として位置づけることは、時間的、財政的制約上、不可能といえます。そのため、生活関連施設を基本構想に定める場合には、施設の利用状況や地域の実情に応じて、必要性等の高いものを選定する必要があります。また、選定にあたっては、重点整備地区に生活関連施設は特定旅客施設もしくは特別特定建築物に該当するものが3以上所在する必要があることや、既にバリアフリー化が完了している施設は生活関連施設として選定することができない点について留意しなければなりません。

生活関連経路

生活関連経路とは、「生活関連施設相互間の経路」のことであり、生活関連施設の間を結ぶ道路、駅前広場のほか、民間施設の建築物内部の通路等も生活関連経路として定めることができます。生活関連経路においても、基本構想の中で定められることにより、特定事業またはその他の事業として、バリアフリー化が図られることとなります。

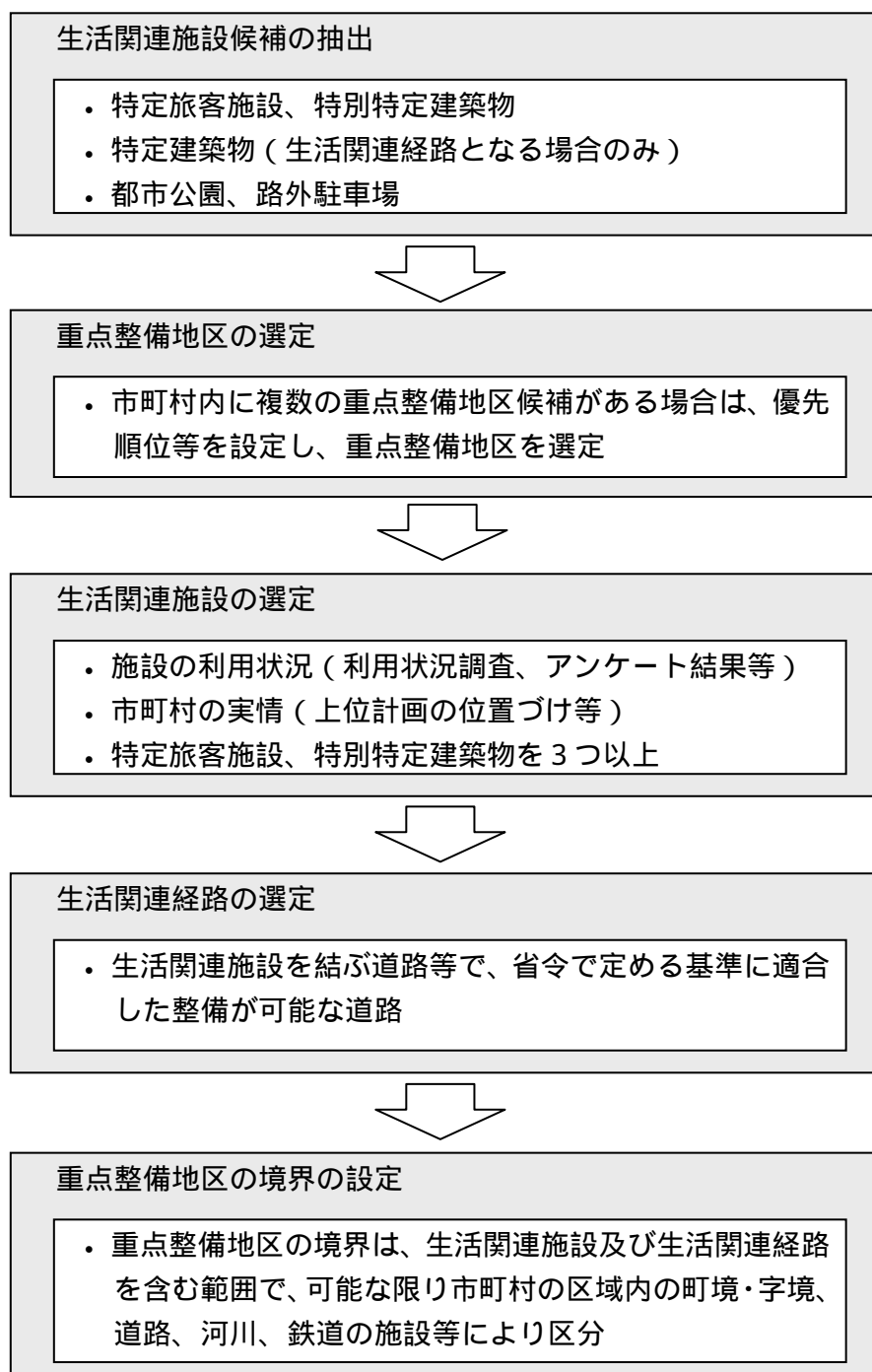
【重点整備地区と生活関連施設候補のイメージ図】



(3) 重点整備地区選定の手順

重点整備地区を選定においては、配置要件、課題要件、効果要件を総合的に判断する必要があります。まず、配置要件を満足するよう、生活関連施設の候補となる施設（以下生活関連施設候補という）が徒歩圏内に集積している必要があることから、該当する施設が多数集積している地区を選定します。次に、選定した地区に集積している生活関連施設候補から施設の利用状況や上位関連計画との整合を図りながら、基本構想に定める生活関連施設を選定します。さらに、これらの生活関連施設を結ぶ経路を生活関連経路として定め、これらを含む範囲を重点整備地区として定めます。

【生活関連施設、生活関連経路及び重点整備地区選定までの流れ】



(4) 重点整備地区(案)の設定の考え方

町における生活関連施設候補の分布状況と重点整備地区(案)の選定

重点整備地区(案)の選定にあたっては、生活関連施設の候補となる特定旅客施設や特別特定建築物等の施設が徒歩圏内に集積している地区で、重点整備地区の面積が400ha未満となる地区を選定する必要があります。そこで、本町における、生活関連施設候補の分布状況の確認を行うため、徒歩圏内を面積が約400ha未満となる半径1.1kmの円内と考え、その円内における分布状況の確認を行いました。円内には主要な生活関連施設候補である、駅舎や役場等の公共性の高い施設が多く含まれるよう検討し配置しました。



町における生活関連施設候補及び生活関連経路候補経路の利用状況

重点整備地区は、「生活関連施設相互間の移動が通常徒歩で行われる地区」であることや、「移動等円滑化のための事業を実施する必要性が特に高い地区」である必要があることから、アンケート調査とヒアリング調査により、生活関連施設候補や生活関連経路となりうる主要な道路（以下生活関連経路候補という）について住民の利用実態を把握しました。

アンケート及びヒアリングからみる施設の利用状況

徒歩による施設利用は、アンケートの対象者を問わず、郵便局や近所の店舗といった地区レベルの近隣生活施設の利用率が高くなっている。

町全体の住民が利用すると考えられる施設では、役場が最も多く、中央公民館も多くなっている。また、地区別の施設利用状況をみると、円明寺地区では地区集会所が2位となっており、中央公民館の利用者より多くなっています。子連れ親については保健センターの利用率も高くなっています。

問題のある施設についてみると、阪急大山崎駅を問題とする人が最も多く、次いで、JR 山崎駅となっています。地区レベルの近隣生活施設に対して問題と考えている人は少ない状況です。

地区別に施設の利用状況をみると、大山崎地区では阪急大山崎、JR 山崎駅への指摘が多くなっており、次いで役場となっています。円明寺地区では、役場、中央公民館への指摘が最も多くなっており、次いで阪急大山崎駅、JR 山崎駅となっています。また、地区集会所も3位と高くなっています。

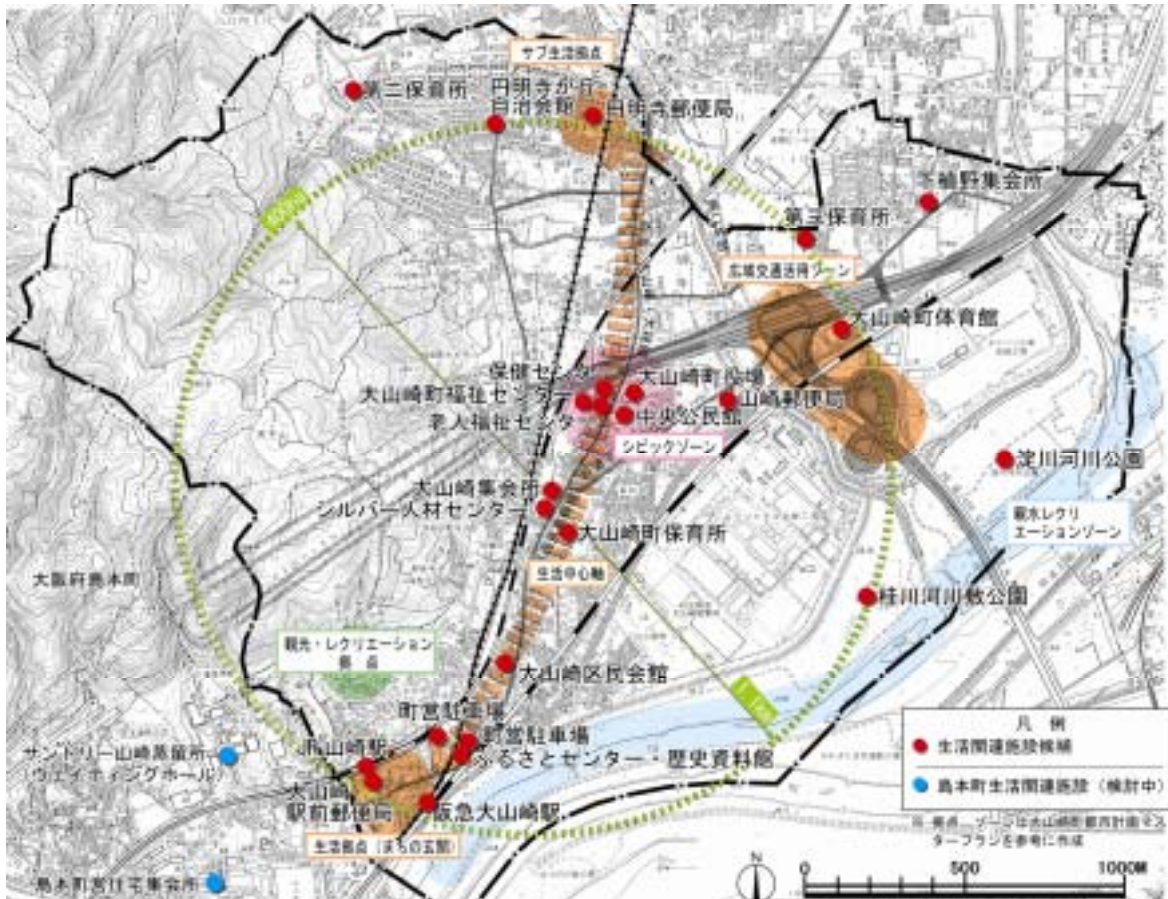
アンケート及びヒアリングからみる生活関連検討経路の利用状況

西国街道の利用が最も多く、歩道幅員が狭くすれ違いができないことや、マウントアップ歩道であることによる勾配や段差について問題点も多い道路との意見が多くなっています。

上位関連計画、その他の計画との整合

「移動等円滑化のための事業が実施されることが特に必要であると認められる地区」であるためには、土地利用や諸機能の集積の実態及び将来の方向性について確認をしておく必要があります。また、「移動等円滑化のための事業を重点的かつ一体的に実施することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切であると認められる地区」とする必要があり、各事業との整合性を図ることにより実施可能性や集中的・効果的な事業実施の可能性について検討します。

【上位計画及びその他の計画との整合】



大山崎町都市計画マスタープランとの整合

拠点・ゾーン名称	拠点・ゾーンの機能
生活拠点	交通ターミナル機能の充実と、身近な商業機能の充実
サブ生活拠点	阪急新駅の設置を要望し、サブ生活拠点の形成
シビックゾーン	行政サービス、教育・文化・コミュニティ、保健・福祉等の多様な都市機能の集積により町の活動の中心
観光・レクリエーション拠点	大山崎山荘をはじめとする歴史施設を核とした拠点
広域交通活用ゾーン	広域交通の利便性を活用した新たな都市機能の導入について検討

島本町交通バリアフリー基本構想

本町西側に隣接する、大阪府三島郡島本町では、島本町バリアフリー基本構想を策定中であり、JR 山崎駅、阪急大山崎駅の徒歩圏において生活関連施設として選定することを検討中であり、本基本構想策定に当たってはこれに配慮し重点整備地区を設定するものとします。

(5) 生活関連施設 (案) 及び生活関連経路 (案) の選定の考え方

大山崎町バリアフリー基本構想における生活関連施設 (案) 及び生活関連経路 (案) は、アンケート結果や上位計画との整合を考慮しつつ、総合的に判断し、次の施設を選定します。

生活関連施設 (案)

施設名称	選定の考え方
阪急大山崎駅	アンケートの「問題のある施設」において、高齢者、知的障害者、精神障害者、妊産婦・子連れ親による回答結果の順位が 1 位 生活拠点 (まちの玄関) の中核となる施設です。 エレベーター等が未整備であり、バリアフリー上の課題が大きい施設です。
JR 山崎駅	アンケートの「問題のある施設」において、身体障害者による回答結果の順位が 1 位、また、高齢者、知的障害者、精神障害者、妊産婦・子連れ親による回答結果の順位が 2 位 生活拠点 (まちの玄関) の中核となる施設です。 エレベーター及びトイレ等が未整備であり、バリアフリー上の課題が大きい施設です。
大山崎町役場	アンケートの「問題のある施設」において、高齢者、身体障害者による回答結果の順位が 3 位 (町施設では 1 位) シビックゾーンにあり、町を代表する施設です。 エレベーターの設置や多機能トイレの整備等、主要な施設について整備されていますが、あらゆる人が利用することから、積極的なバリアフリー化を推進する必要があります。
中央公民館	アンケートの「問題のある施設」において、高齢者、身体障害者による回答結果の順位が第 4 位 (町施設では 2 位) シビックゾーンにあり、図書室や研修室を備える等、広く住民が利用する施設です。 エレベーターが未整備であり、バリアフリー上の課題の大きい施設です。
老人福祉センター	アンケートの「問題のある施設」において高齢者の 5 位 (町施設では 3 位) シビックゾーンにあり、集会機能や公衆浴場を有する等、高齢者が多数利用する施設です。 トイレ等が未整備であり、バリアフリー上の課題がある施設です。
保健センター	アンケートの「問題のある施設」において、妊産婦による回答結果の順位が 3 位 (町施設では 1 位) 「施設の問題箇所」でトイレにおける問題が多く指摘されています。

生活関連経路（案）

「移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令」に沿ったバリアフリー化整備を行う路線です。

経路名称	選定の考え方
府道大山崎・大枝線 及び府道西京高槻線 （西国街道） 大山崎町役場前 JR 山崎駅前	アンケートの「よく歩く道路」の設問において、全ての対象者で上位を占めています。 沿道には、生活関連施設（案）が集積しており、バリアフリー化による整備の効果が大きい路線です。
町道大山崎円明寺線 （町道 1 号線） 西国街道 JR 駅前広 場	JR 山崎駅前広場と西国街道とを結ぶ路線
JR 山崎駅駅前広場	JR 駅から、西国街道へとつながる町道大山崎円明寺線（町道 1 号線）を結ぶ経路

（ 6 ） 準生活関連経路（案）の設定

準生活関連経路

「移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令」に準じたバリアフリー化整備を行う路線です。

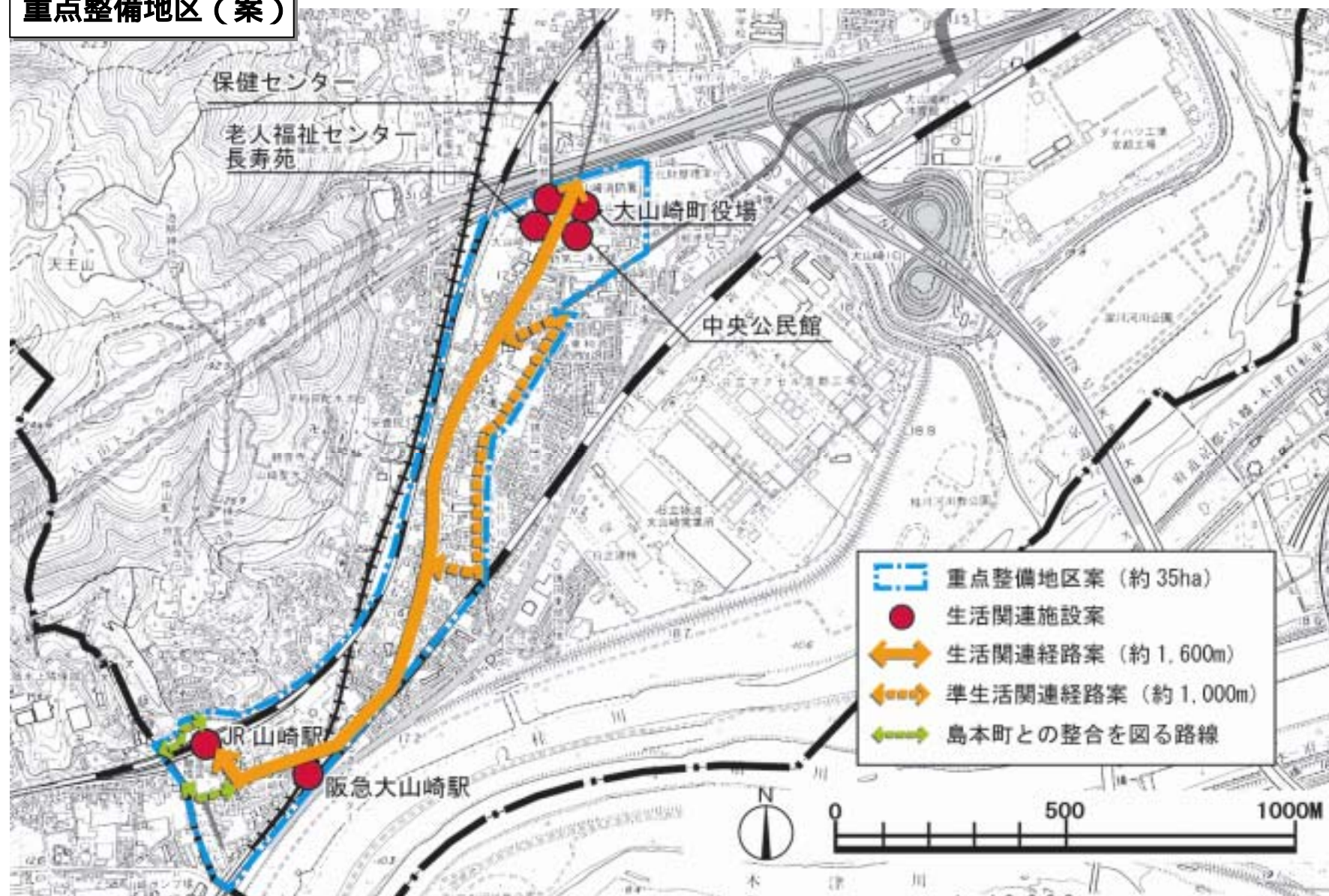
経路名称	選定の考え方
府道下植野大山崎線 西国街道 町道大山 崎線第 11 号交差部 分	準生活関連経路は、生活関連経路を補完するための経路として設定します。生活関連経路（案）で示した路線のうち、府道西京高槻線（西国街道）は、歩道幅員の確保が困難な路線となっていることから、基準に沿ったバリアフリー化が完了するまでには相当の期間が必要と考えられるため、本路線を設定します。
町道大山崎線第 11 号	
府道下植野大山崎線 交差部分 農協前	
町道大山崎線第 28 号	
町道大山崎線第 52 号	

(7) 島本町と整合を図る経路について

島本町と整合を図る路線

府道西京高槻線 (西国街道) JR 山崎駅前 島本町境	島本町バリアフリー基本構想における生活関連経路等との連続性を確保するため、動向を見極めながら、整備の必要性について検討します。
JR 山崎駅北側 (JR 敷地) JR 山崎駅前 島本町町境	島本町バリアフリー基本構想における生活関連経路等との連続性を確保するため、動向を見極めながら、整備の必要性について検討します。

重点整備地区（案）



大山崎町バリアフリー基本構想タウンウォッチングについて

1. タウンウォッチングの目的

タウンウォッチングでは、実際に町の施設等を利用するうえで日常的にバリア（障壁）を感じている人たちの視点からまちのバリアの状況を把握するため、鉄道駅及び建築物等の生活関連施設案及び、道路等の生活関連経路案を対象にまちあるき点検調査を行います。また、点検調査の後、ふるさとセンターにおいて、点検内容について意見交換を行うワークショップを実施し、問題点の整理と改善要望等についてとりまとめ、問題意識の共有を図ります。なお、タウンウォッチングから得られた指摘事項や整備要望については、基本構想策定の検討資料として活用していきます。

2. 調査概要

参加者を二班に分け、班ごとにあらかじめ設定したルートにもとづいて点検調査を行います。まち歩きによるバリアの現状を点検後、ふるさとセンターにてワークショップ形式で参加者による意見交換をおこない、それらの結果を取りまとめ、班ごとに発表を行います。

日 時：平成 19 年 12 月 20 日（木） 午後 1 時～午後 5 時

場 所：大山崎ふるさとセンター集合解散（ワークショップも同センターで実施）

参加者：協議会委員（任意参加）

高齢者、障害者等団体

公募町民（12 月号町広報で公募）

事務局

	1 班	2 班
協議会委員	後日決定します	
団体、公募町民		
事務局(町職員及びコンサルタント)		
合 計	各班で 13 名～20 名程度	

【高齢者、障害者等団体の参加メンバー（案）】

身体障害者協会	団体より概ね下記該当者を選任 ・肢体障害者（車いす使用、杖使用、上肢不自由等） ・視覚障害者（全盲、弱視、色覚異常） ・聴覚・言語障害者（ろう（あ）者、中途失聴者、難聴者） ・内部障害者（ぼうこう直腸機能、心臓機能、呼吸機能等）	障害の状況によりバリアは様々なものがあります。そのため、障害の状況が異なる方々から参加協力いただくことにより、それぞれの問題点を把握し、よりよい解決案を検討していくことができます。
知的障害者育成会	団体より選任	
長寿会連合会	同上	
子育てサークル	同上（ベビーカー、子ども連れ）	

3. 調査方法及び調査内容

- 可能な限り自力で移動するものとし、スタッフは安全管理を重点的に行い、参加者の自力による移動が危険な場合は補佐します。(視覚障害者等、介助が必要な者に対しては、マンツーマンでスタッフが傍に付き添います。)
- チェックシートに問題点や改善要望等、現地で気付いたことを地図等へ書き込む。
- 参加者が自らチェックシートへ記入することが困難な場合には、スタッフが意見を聞き取り、代わりにチェックシートへの記入を行います。

調査場所	調査項目
鉄道駅	<ul style="list-style-type: none"> • 券売機、窓口(車いすの近寄りやすさ、ボタンの位置、点字の有無 等) • 改札(幅) • 通路(幅員、視覚障害者誘導用ブロックの有無、滑りにくさ 等) • 階段(幅員、手すり、点状ブロックの有無、段鼻の識別、滑りにくさ 等) • 電車の乗り降り(段差、隙間 等) • ホームの安全対策(視覚障害者注意喚起用ブロックの状況、電車の接近警告、 • ホーム端の柵、緊急停止ボタン、ホーム下避難所 等) • トイレ(段差、手すり、洋式便座の有無、水栓レバー 等) • その他(音声アナウンス、案内表示サイン、点字表示 等)
道路等	<ul style="list-style-type: none"> • 通行の安全性(歩車分離の状況、歩道幅員 等) • 段差、勾配の有無 • 舗装の状態(波うち、劣化による凹凸、滑りにくさ 等) • 視覚障害者誘導ブロックの設置状況(色・材質 等) • 障害物(電柱・標識、放置自転車、看板、陳列物等)の有無 • バス停等の状況(バス停の形状、歩道型式、上屋、ベンチ 等) • 信号機の状況(音響式信号機の有無、信号時間 等) • その他(案内表示サイン 等)
建築物	<ul style="list-style-type: none"> • 昇降機(かごの幅・奥行、制御パネル、音声装置 等) • 階段(幅員、手すり、点状ブロックの有無、段鼻の識別、滑りにくさ 等) • スロープ(幅員、手すり、点状ブロックの有無、滑りにくさ 等) • トイレ(段差、手すり、洋式便座の有無、水栓レバー 等) • 視覚障害者誘導ブロックの設置状況(色・材質 等) • 駐車場(車いす使用者用駐車場の有無、設置場所、表示、寸法 等)

4. 調査結果のまとめ方法

現地調査終了後、班ごとにワークショップ形式で参加者による意見交換会を行うとともに、調査結果を取りまとめます。

バリアフリーマップの作成

- チェックシートに記載した内容をポストイット(ふせん)に転記(問題点は黄色、改善要望は青色のポストイットを用いる。)し、大判の地図に貼り付ける。
- グループリーダーが主導し、地図上に張られたポストイットに基づき、問題点や改善要望等の確認を行う。(追加することがあれば、ポストイットに記入し、貼り付ける。)

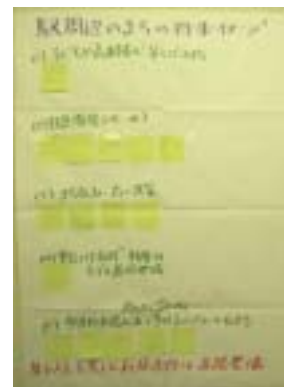


問題点・改善要望等の取りまとめ

- バリアフリーマップを用いて意見交換を行い、模造紙に取りまとめる。

<例>

調査箇所ごとの問題点の取りまとめ
問題点の解消に向けた改善策の提案



発表及び講評

- まとめた内容を発表する。
- 発表終了後、タウンウォッチング全体を通じての講評を行う。



5. タウンウォッチングのルート(案)

